

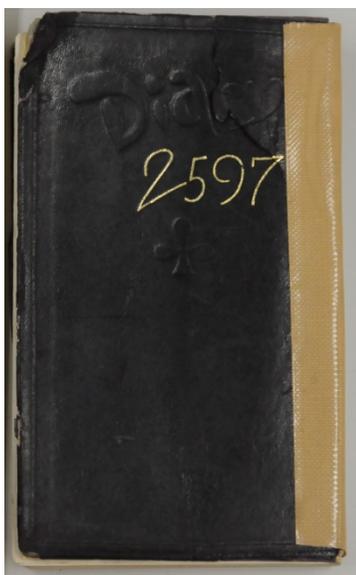


伊藤音次郎日記

1937(昭和 12)年

文字データ作成: 一般財団法人 日本航空協会 2018(平成 30)年 6 月

* お気づきの点などございましたら、ご教示のほどお願い申し上げます。



一般財団法人日本航空協会

航空遺産継承基金事務局

〒105-0004

東京都港区新橋 1-18-1

電話 03-3502-1207

ファクス 03-3503-1375

電子メール isan@aero.or.jp

禁無断転載 © 一般財団法人日本航空協会

▲▼0ページ▲▼

波乱多キ一年デアッタガ
最後ノ十二月デア実ヲ結ブ

▲▼1ページ▲▼ 前年ヨリ繰越事項

会社拡張

▲▼4ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月1日(金)

天気 曇リ

全国的ニ曇リ タマニ薄日サス 風静ナリ

昨夜ヨク眠レズ除夜ノ鐘ヲ聞ク 今年ハ鎌倉ヨリデアッタガ鐘ノ音悪クシカモ時々電車ノ音が這入ッテヨクナカッタ

今日ハ門松モ立テズおトソモ作ラナイお正月 死ンダ兄ノ写真ノ前デ淋シイ大坂雑煮ヲ祝フ

後チ年賀状ヲ整理シ住所ノ変タノヲ人名簿ヲ訂正ス

鈴木菊雄來 操縦士養生奨励問題ニツキ話シアリ

夜豊田角ト夕食ヲ共ニス 豊田ヨリ學校及隊ノ機数ナド聞キ参考トナル

▲▼5ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月2日(土)

天気 曇リ

午前中年賀状ヲ整理シ、工場方針等少シ考研シタルノミ

恵美子昨夕三十八度八分ノ熱アリ 驚イテ床ニツカセル 廿八日以来何ンダカ変ニシテ居タノハ横着ダト思ッテ居タラ病氣デアッタラシイ 身体中赤クブツ、ガ出來テ居タノハジン麻シンダト家内ハ云ッテ居タ 取アエズ風薬ヲノマセテ寢サセル

▲▼6ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月3日(日)

天気 曇リ

今日ハ晴レルト思ッタラマタ天気悪ルシ

角太田來 工場ノ作業方針ヲキメ後チ拡張後ノ方針等ニツキ研究ス 終ッテ、川口氏へ出ス爲メノ予算計畫ヲ作ル 夕方迄ニ大体終ル アト明日ニス

恵美子熱下ラズ醫者ヲ呼ブ 昇コウ熱デアルカラ絶対秘密ニヤラネバトノコト 一ヶ月ハカ、ル由

▲▼7ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月4日(月)

天気 快晴

新年初メテノ快晴

奈良原氏九時頃來場 流山ノ梅沢氏、横浜ヨリ黒沢吉田両君モ來 予期以上ノ出席者アリ三十ノ折リガ二ツバカリ不足シタ盛況

十一時半ヨリ初メ新年ニアタリ昨年ノ経過ニヨリイマシメヲナシ今年度ノ發展ニ対スル皆ノ覺后ヲウナガス。

宴ニ入り途中汐ノ都合ニテ安岡ノアンリ才低空高等飛行 ソアラノ曳行千葉方面ヲナシ初飛行ヲ終了 松下氏ヨリ鯉九尾來 梅沢氏一尾生キタノヲ持參サル。ソレ、分配ス

恵美子夕方ヨリ稍熱下ル

▲▼8ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月5日(火)

天気 晴

南風熱カナリ

六時起床 仁三郎ヲ連レテ成田山參拜 本年ノ無事發展ヲ祈リ仁三郎ノ進級ト入學ヲ祈ラセル ミクジハ凶ト出タガ戒心ノ爲メト思フ 公園ヲ散歩シスグ帰ル 十時半帰宅 朝晝食ヲ一所ニス

川口氏提出収支予算書ヲ作製 今村ニ清書サセル 後チ大口ト少年工養生ノ件 工場拡張ノ件細部ノ相談ヲナス

▲▼9ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月6日(水)

天気 晴

ア、(ママ)タカイ日デアッタ 二時頃廿度九分

上京 山口君ノトラックニ乗セテ貰フ 航空本部ト本廠ニ有馬少佐高橋大佐、深田江技師森中佐ニソレ、挨拶ヲナシ航空局ニ行キ挨拶ヲナス 佐々木アプロノ分請求書ヲ出シテ貰フ 三島堪航証倉三郎氏休ミデ不祥。飛行協会ト東日ニ立寄り帰宅 午後一時奈良原氏來場サレテ居タ 機関學校問題ニツキ安岡ヲ加エ想(ママ)談ス

▲▼10ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月7日(木)

天気 曇り

川口氏ヨリ電話アリ 丁度晝頃發送シタ處デアッタノデ其返事ス
晝前三溝君來 青木君新年來出場セズ止メルトノコトニ話ヲシテ呉レトノコト 原因ハ
妻君ト變ナ關係ガアルトノコトガ青木ノ妻君ニ知レ家庭ガゴタ、シタコトカラツヒニ蒸
發シタモノダロウトノコト 晝食後行ツテ見ル 妻君ニ聞クト五日ニ青木君ノ家ガ出拂
ツタ後チ飛行場デ青木氏ニ酒ヲ出シタ處家へ行コウト云ツタガ誰レモ居ナイ處へ行クノハ
イヤダト云ツタトノコトデアッタ ソレヲ近所デ話シテ居タノヲ青木ノ妻君ノ母親ガ聞
イテ問題ニナツタノデ青木君ガ、ソシナラ止メルト云ヒ出シタノデアッタソウダ。夕方
新花月ニ青木君ヲ呼びイロ、聞クト家庭ノ方ヨリ宗里ノ妻君ガ人ノ前デアンナコトヲ
云ツタノガイケナカッタラシイロ振りデアッタ 四月頃止メタイ希望ハアッタトノコトニ
兎ニ角原因ガ面白クナイカラ四月迄ニ後継者ヲ定メチヤントシテ止メル様ニシタラトヤ
ツト話シマトマリ明日カラ出ルコトニナル
後チ盃ヲ重ネ一時帰宅

◆▼11ページ◆▼ 昭和12(1937)年1月8日(金)

天気 晴

ヨイ陸軍觀兵式日デアル
九時半出發 羽田ニ行ク 朝日ノ新年会ノ爲メオデント海苔巻ノカンタンモノ 出席
者モ大シタ人ハ來テ居ラナカッタ 奈良原ト陸海軍人モ佐官級ガ各二名ヅ、研究所
ノ小川田中両氏位ノモノ。各位ノ藝ガアツテ面白カッタ ケンカモ一組出來タ
木下氏ノ工場ヲ見學ス 丁度自分ノ方ノ計畫ニ近イモノデアッタノデ大ニ参考トナル
工場ノ配置ハ一寸感心出來ナイ點モアッタ
飯沼金太郎ヨリ亜細亜航空學校ノ校長ニナツテ呉レトノコトデアッタ 突然變ナコトヲ
云フ男ダ。少シ頭ガドウカシテ居ヤシナイカシラ

◆▼12ページ◆▼ 昭和12(1937)年1月9日(土)

天気 晴後曇り

午前中坂本氏來場 東日イスパノノ内部検査ヲ終ル 梅本君來 晝食ヲ共ニス
午後第一へ行ク 一昨日以來マダ出勤ハシテ居ルガ親シク妻君ト青木君ト話シモシナイ
トノコトニ夕食ヲ共ニシ氣分ヲナゴヤカニス 尚四月迄デ止メタイトノコトニツイテハ双
方ヨリ協議考究スルコトトス
帰途奥山君ヲ訪問 明日來場ヲ約シテ歸ル
清平大坂ヨリ歸ル
大口上京サセル定款モ發起人モマダキマラヌ由

▲▼13ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月10日(日)

天気 曇後晴

學校申込ミノ件其他清平ト相談 夜帰ル

奈良原氏來場

午後山崎氏來場 ソアラテール圖面持参 夕食後奈良原氏ト八時帰ル
本年グライダーハプライマリーノ改造(主翼ストールセヌ様) 高級セコンダリー(セミソ
アラ) 次ぎニ一人乗 最後二十八米ス。パン高性能機ノ順序ニ設計シテ貰フコトトス
夜江波戸第五聯隊ニ入隊セルモ癩病ノ爲メ即日帰サレ工場勤務中トシタモノト見エ工
場ニ使フテ呉レル様トノ中隊長ノ手紙ヲ持ツテ來タ 兎ニ角今夜止メテ居ク

▲▼14ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月11日(月)

天気 晴

十一年度決算ノ爲メ帳簿整理ヲ初ム

午後作業ノ奥山君來 サル定期作業注文アリ 元ノ計算ヲナシ丁度百円残ルコトトナ
ル 新注文ニ対シ百円内金ヲ昨年未借リタ分ヲ以テオギナウ
今夕クラブノ会合ニ行ク予定ナリシモ金ノ都合モ悪ク中止ス
夜江波戸ノ兄電報ニテ呼ビヨセ連レテ帰ル様ニ云ヒ渡ス

▲▼15ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月12日(火)

天気 晴

青木王子ノ格納庫料受取りニ出張サセベニヤ板引取ル

作業ヨリ江戸川飛行場ヲ見タイトノコトニ行ク シバラク待タサレル 其中奈良原氏津
田沼へ來ラレタノデ同道シテ貰フコトニス 正午江戸川見学 大変ヨクナツテ居タ ○時
半帰宅 奈良原氏ヨリ協会飛行競技会ノ件 各地。ページェントノ件自分ニ打合せ想(マ
マ)談シタイトノコト 木暮君ノ都合ニテ日取り極メルコトトス
帳簿整理
今村ニ財産調査ヲヤラセル

▲▼16ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月13日(水)

天気 晴

朝中山弘一氏上京 電話アリ明日會見約束ヲナス

終日十一年度決算ヲ行ヒ午後六時頃決算表作製ヲ終ル アト帳簿ノ整理ト稅務署
報告書作製ノ事

作業奥山氏來場

安岡ノ話シニ高野氏使ノ高岡(?)來場 身延カラ歸ツテ來タニツキ飛行場ノモノニ對シ
テ青塚氏非常ニ怒ツテ居ルカラ一度アヤマリニ行ツテホシイトノコト 馬鹿ナコトガアル
カト一言ノモトニハネル

▲▼17ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月14日(木)

天気晴

奈良原氏來場

岡、梅本君來場 正午頃三十五分間飛行 十年式テスト終ル 三時頃ヨリ上京 丸ノ
内ホテルニ中山氏ヲ訪問シタガ不在 局ニ立寄り日日ニ行ク 更ニ丸ノ内ホテルへ電話シ
タラ三時ノ特急デ帰坂シタトノコト。

明日ゴム紐購入ノ爲メ百円入用ノ件羽太氏ニ依頼シテ帰宅

和子おバアサント稲毛へ泊リガケデ行ク 生レテ初メテノ事デアアル

▲▼18ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月15日(金)

天気晴

十年式検査ノ連絡デ大分電話料ヲ使ツタ 結局菅井ノサルト東北帝大ノグライダー
ノ内部検査本日午後來場終ル

午後ヨリ上京 飛行館ニテ中上氏私案ノ飛行協議競技会原案及予算ヲ作製提出ス。
外ニペーシエント計畫書 安岡案ヲ提出シテ居ク 之レモ予算ヲクワシクホシイトノコト
デアツタ

東日ニヨリ十年式殘金受取り奈良原氏ト銀坐ヲ散歩シテ歸ル

▲▼19ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月16日(土)

天気晴

奈良原氏來場 夕方歸ル

清平ヨリ電話アリ ヤハリ税金カ、ルトノコト 之レガ対策ヲ講ゼネバナラナイ。板金ニ
一名來場

クラブ一名入会者アリ

姫路ヨリ18%×50%ヲ取り夜東京駅ヨリ三島へ発送ス

▲▼20ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月17日(日)

天気 晴

今朝ハユックリ眠リ九時起床
仕事 乗池君ニ手紙ヲ書ク

終日ノンキニ午後ハ相撲ノ終ル迄ラジオヲ聞ク サンパツニ行ッタガ今日ハ休ミデアッタ
晝頃第一ノ妻君過日ノ禮ニ來場 菓子折ト金一封(五円)持参。安岡ノ小兒病氣ノ爲
メ其マヽヤル

▲▼21ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月18日(月)

天気 晴後曇リ

坂下田村両氏來 東日十年式完成 野口発動機内部検査終了。岡須田両氏來 山口來 第一娘ノ件話シ考慮ヲウナガス

佐々木奨励金ニ口入金 スグ買物ニ近藤ヲ上京サセル

奈良原氏來場 夕方ヨリ協会ヘアラシノ翼ノ試写会ヲ見ニ行ク 徳次同行 徳川閣下ニ會フ 一寸挨拶ス

▲▼22ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月19日(火)

天気 曇後雨

大口朝カラ行ク

自分午前、用ヲスマセ散髪 晝食後一時頃ヨリ出カケル 茶屋ニテ丁度柳父氏ト會フ
満員デアッタ 丁度中入ニツ前カラ見ル。横綱ハサスガニ強イ 両国ガ鏡岩ニ勝ツタノハ
一寸番クルワセデアッタ 双葉山ト笠置山ハ問題ニナラズ双葉ノモノ。出タラ雨が降ッ
テ居タ 安田氏ハ妻君ガ來テ居タノデスグ帰ル アト柳父、荒瀬、岩間、大口ト浅草ノ
鳥屋ヲ案内サセ食事ヲ共ニス。荒瀬氏ノ親類デ調査ノ結果ヤハリ部品ハヨイガ修理ハ六
ツ間數カロウトノコトデ資本家ノ方ヘ話シニ廻ッタ時柳父氏積極的デナカッタ爲メ半分
位シカ出資ノ予約ヲ得ラレナカッタノデ成立ガ予定ヨリ遅レルガトノコトデアッタ
種々プロヘラ其他ノコトヲ話シ最后ニ職工人事ヲ進行中ノコト 機械類ガドンヽ上ツテ
居ルコトニツキ急速ニサレタイ旨希望シテ帰ル。
車中大口ト相談 第二ノ策ヲ速進サセルコトトス

▲▼23ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月20日(水)

天気 雪後晴

初雪アリ 二寸程積ツテ居タ

安岡佐藤所沢ノ技師學校參觀ニ出張

今朝千葉ノ斎藤峯島ヘ大口行ク 峯島金件ニオ上京中トイコト

夜岩間

珍ラシク伊藤西夫氏來 五月ノ自動車競争ニ飛行機ヲ飛バシテ貫ヒタイトノコト二十
年式三台引受テ後契約ヲス 三十円置イテ行ク

福岡ノ箕田中二君來 グライダー部ニ入会ス 会費一円預ル 明日実習費持参スル由

▲▼24ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月21日(木)

天気 曇小雨

安岡佐藤帰ラズ

東日十年式正午梅本、岡氏取りニ來ル

一三抃張試験船橋ニ行ワル、ニツキ竹中ニ準備サセ午後船橋ニ出張ス 四時半ノ自動
車ニテ帰ル 三名ノ内長谷川、大辻終リ萩原明日カ明後日津田沼ニテ行フ由

大口今朝千葉ノ峯島ヘ第二段ノ策トシテ行ク 斎藤ニモ寄ツタ由。夜岩間氏ニ會フベク

安田氏へ行ク

奈良原氏來場

▲▼25ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月22日(金)

天気 曇リ

終日曇リ

大口昨夜岩間氏ト會見 今日岩間氏柳父氏ノ意見ヲ聞キ電話デ返事スル由 夕方明
日津田沼ヘ來ルトノコトデアッタ

作業方針太田休ニツキ布施、大口、角ニ話ス

安岡本日出 佐藤東京ヨリ電話ニテ休ム旨通知アリ

▲▼26ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月23日(土)

天気 晴

時事 広田内閣総辭職ス 在議十ヶ月

南波氏來場 野口サル内部 東北帝大グライダー完成終ル

岩間氏來 必ズ実現サセル ツイテハ急グモノハ何ニカラ先キニスルカトノコトニ二月十日
頃ヨリ建築ニカ、リタイ事 設計部員ヲ早く極メタイコトヲ希望シテ居ク 月曜日返事
スルトノコトデ帰ル

幕張へ土地ヲ見セニ南波氏同道ス

▲▼27ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月24日(日)

天気 晴

時事 大命今夕宇垣大将ニ下ル

奈良原氏來場 明日明後日上京ノ由

決算報告稅務署提出ノ爲メ作製初メル

鈴木伊四郎午後挨拶ニ來場

清平心待チニシテ居タラ夜ニナツテヤツテ來タ 昨日マデノ話シヲナス 清平ヨリ入社希望者其他ノ話ヲ聞ク

仁三郎此月十日頃ヨリコタツヲ入レテヤツタラプツツリ寢小便ヲシナクナツタ

午前中幕張ノ家ヲ見ニ行ク 中ヲ見テガツカリシタ 帰リニニ見タラ其方ガ氣ニ入ツタ

昨夜床ノ中デ家相ヲ見タラ今迄ノ家ガ病氣ノタエナイ家相デアッタ コレニハ驚イタヨクアタツテ居ル

▲▼28ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月25日(月)

天気 曇リ

時事 午前〇時半宇垣大将宮中ニ参内 大命ヲ拝ス

七時二十分起床 清平晝前帰ル

大口南波サンニ頼マレタ地所調査ニ行キ晝前帰ル スグ青木ニ登録申請書ト共ニ持タセテヤル

晝頃第一ノ青木君來

金ノ爲メ少々拂下ヲ行フ

協会ゴム紐五十米二本注文ヲ受ケ姫路製紐へ注文シタラニ割上ツテ居タノデ値上シテ貰フ

夕方寒氣ガシタノデ四時半床ニ入ル

大相撲千秋楽 双葉山全勝ス

▲▼29ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月26日(火)

天気 晴

九時過ぎ起床 決算報告ノ下書キヲ終ツテ清書ヲ今村ニ命ズ 晝頃ヨリ寒氣ス 二時

半ツヒニ床ニ入ル 三時頃二十八度發熱ス 夕食後藥ヲノンデ發汗セシム 後チ氣持チ

ヨクナル

▲▼30ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月27日(水)

天気晴

今日ハ大丈夫ト思ツタガ昨日ノ例モアルノデ大事ヲ取ツテ終日床ニ居ル
大口、今村、佐藤ヲ必要ニヨリ呼び工場財産ノ評價ヲナス 夕方一通り終ル 建物以
外約二万三千円トナル

朝安岡ヲ作業ニヤリ五十円受取ル 買物ヲナシベニヤ板ヲ引取ル
午後協会ヘ電話ニテタノミ東大グライダーノ全堪航証ニヨツテ貰エルコトニシ局ヘ朝話
シテ居イタノデ堪航証貰ヒニヤルタ(ママ)處定置場承認書ガナイカラトテ貰エズ明日ニ
ナル

▲▼31ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月28日(木)

天気晴

床上ゲ

奈良原氏來場

協会金取リニヤツタラ会計居ラズダメ 千葉地方本部ニ聞イタラ、ソノ方ハ伊藤氏旅
行中ニテ今月中ダメ 昨日書カセタノヲ計算ス 尚工場建築物予定昨夜眠レヌマ、書
イタノヲ補足完成ス

家内寒氣スルト云ツテ居タガ今日午後床ニツク 夕方三十八度アリ

朝佐野來 計算ヲシテ手形ニテ支拂 牛肉持参 夜、頂ク

東北帝大ノグライダー品川駅迄出荷ス

▲▼32ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月29日(金)

天気曇リ

時事 宇垣内閣陸軍ノ反対ニ會ヒ流産

協会東北帝大ノ金受取ル 四百円ト十七円也

千葉へ竹中ヤツタガ課長不在デダメ

一力次郎グライダー變更登録申請セヨトノコトニスグ手紙出ス

ゴム紐到着セリトノ 手紙電話アリ

野口ヨリ電話ニテ二月五日ニ、百五十円作ル 明日金間ニ合ワヌトノコトデアツタ

▲▼33ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月30日(土)

天気 曇り雨

時事 林洗(ママ)十郎大将二大命降下ス

六時十分起床 三十分タクシー來 鈴木呼ンデヤツタガマダ寝テ居タ

八時半立川着 早スギタノデ高島館ニテ朝食。今日八井上氏ノ代リニ斎藤氏來 晝迄

ニ終ル 部品バカリデアッタ

清平來 支廠見學サセル 二時大日野氏來 立川飛行航空機見學ニ行ク 自分ハ先キ

ニ帰京 東日ニヨツタガ誰レモ居ラズ 飛行館ニ行キ翼ノ世界ヲ見テ帰ル 八時半帰宅

今日又千葉ノ金取レナカッタ由

▲▼34ページ▲▼ 昭和12(1937)年1月31日(日)

天気 晴薄曇り

大口ヲ呼ビニヤリ機械博覧会ヲ見ニヤル

今日ハ終日ノンビリトス 午後幕張ノ家ヲキメル爲メ家内ヲ連レテ見ニ行ク。取極メ様

ト思ツタラ、先キカラ申込ミノアッタ人へ今照介(ママ)中ダカラ返事ガ來テカラニシテ

呉レトノコトデアッタ 曲 ダメカモ知レナイ

夕方清水ヨリ電話アリ 自動車ノカッタートドラムヲ作ツテ呉レトノコト

▲▼35ページ▲▼ 2月

会社トソアラ一今月中最(ママ)非共完成セシムルコト

▲▼36ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月1日(月)

天気 晴

安岡本日又帰ラズ練習差支ヲ生ズ

晝食後大口清平同道上京 米穀取引所ニ会见ニ行ク 柳父氏ヨリ兎ニ角モウ少シ待ッ

テ貰ヒタイトノ希望ニ対シ事務的ニ期間ヲ定メテ今週中ニ大勢ヲ見テ方針ヲ決定スル

コトトナル。設計部員清平ノ話シニヨリ今週中ニ取キメル必要アリ 之レハ進ルコトニシ決

定ノ上ハ給料問題ハ柳父氏考慮スルコト。帰途岩間安田両氏ト茶ヲノミナガラ尚打合

セヲ行ヒ万一ノ場合ハ漸(ママ)定的津田沼工場整備ヲ急グコトトス

▲▼37ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月2日(火)

天気 雨後曇り

午前中大雨

奈良原氏來場

大口來 峯島ノ借入金ノ口有望ニツキ運動サセテ呉レトノコトニヤラセル

▲▼38ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月3日(水)

天気晴

九時半ヨリ航空研究所へ行ク 田中博士ニ設計者一名依頼 尚清平ノコトモ向カラ入用デシヨウトノコトニ宜シクタノムト申入レ木村氏ニモ一寸會フ 山崎氏ト會見シタガマダ胴体何ニモヤツテナカッタ。スグ帰途江東橋ノ花岡ニヨリドラムヲ買ヒ帰宅ス

▲▼39ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月3日(水)

天気晴

朝千葉ノ国吉ニ行ク 外へ量リニ出シテ呉レトノコトダトノコト 今月分ニ大抵キマリツケルカラト延期サセテ居ク

椎名病院ニ奥山氏ヲ見舞フ 見夕處何ントモナカッタ

帰宅 坂本蓮沼両氏平松十年式ト作業サル内部検査午前中ニ終ル 午後峯島氏並ニ照(ママ)介ノ山崎氏來場 工場ヲ見一通リ計畫ヲ話ス。

奈良原氏來場 明日筑波山デヤロウトノコトニ安岡作業へヤツタガ五十円シカ呉レズ明後日ニシテ貰フ

吉原君清水君ト共ニ來 清水君飛行機曳航ヲ行フ 曳航索離脱場所悪ク電線ニカ、リ、会社カラ來テ貰ツテハツシテ貰フ

▲▼40ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月5日(金)

天気晴

青木王子ト野口集金ニヤル 野口居ラズ 心配シタノガ適中シテ來タ

大口根津保ノ人ト會フベク上京

奈良原氏筑波へ行ク 午後電話アリ 西南ノ風コンヂシヨシトノコト 竹中上京帰ラズ 金這入ラズ明日ノ出発不能トナル 夜先生ニ電話シテ延期ス 竹中西南ノ風デハ研究シテナイカラ自信ガナイトノコト

▲▼41ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月6日(土)

天気 晴薄曇リ

筑波ト電話連絡アリ 明日ノ天候不良ニツキ帰ッテ貰フ様タノシダガ町長ヤ測候所長ガ今夜來ルコトニナツテ居ルトテ一泊スルコトニナツタ ○十五円送金ス 其爲メ廢材拂下ヲ行フ。

夜徳次ニカンタイ買ヒニヤル

山口君自動車來 ドラムトカッター會ワセナガラ作ル

平松十年式今夜々業 明第一日曜休日ヲ第二延期スルコトトス

▲▼42ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月7日(日)

天気 雨

駒林氏自宅ニ電話シテ九日検査ノ件依頼ス

平松氏電報ニテ登録申請書飛行ビンニセラレタシトタノム

午後奈良原氏帰ラル 山崎氏來場 夕食後帰ル 結果十日天候ヨケレバヤルコトニ決定ス

岩間氏ニ電話ス 昨日柳父氏ト會見シタ由 一人デ半分引受ケル人が出來テ十日頃ニ確定スルトノコト 明日尚電話スル由

川口氏電話シテ見タガ絶望デハナイガ進行一時中止ノ状態ノ由

清平午後帰ル 今夜田中先生へ行ク由

▲▼43ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月8日(月)

天気 曇小雪

明日ノ検査ニ間ニ合スベク氣ヲモム 夕方サル試飛行終リ十年式モ發動機廻セタノデ稍安心

東日ノドラムハ出來タガカッター夜八時頃迄カ、リヤハリウマク行カナカッタ 帰ッテカラ又改造スルコトトサルス

▲▼44ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月9日(火)

天気 晴

上天氣トナル

蓮沼氏初メテノ関根氏來場 菅井サル十年式野呂平松完成 鈴木アンリオ内部 以上全部終了 平松分ダケ飛行時間足ラズ明日飛行ノ上報告書持參ノコト

奈良原氏午後筑波へ行ク

岩間氏來 柳父荒瀬両氏共非常ナ意氣込デ確實ニスデニ申込満株ダガ十一日柳父氏広島島へ行ッテ金融策ヲ取ルトノコトデアッタ

夕方大口ヨリ根津保出資ノ件當方三十万円買収内五万円浅草ノ連中ニ貰ヒタイトノ話ノ由

▲▼45ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月10日(水)

天気 曇り晴

平松機試飛行後一三三テソアラ―曳航筑波ニ向フ 十時三十分雲次第ニ低ク利根川上空ヨリ引返ス

午前ノ郵便ニテ平松君ヨリ登録申請書來ルカ待ツタガ來ラズ 止ムナク送ツタト云フ昨日ノ電話ヲ持ツテ上京 航空局ニ頼ンデ堪航証先キニ発行シテ貰フコトトス 東日ニ行キ久シ振リデ羽太氏ニ會フ。ドラムノ金トクリーズノ金七十五円受取ル。和田氏ニ會フベク待ツタガ來ラズ 再ビ局ニ行キ証明書ヲ貰ヒ田中サンニ海軍ノ下士ヲ見習工指導者ニ貰ヒタイトヲ依頼ス。西川氏ニ工場増資ノ件話シ仕事ノ事ニツキ意見ヲ聞ク 大変ヨイコトヲ聞ク 清平ニ最(ママ)非教ヘテヤツテ貰ヒタイト頼ンデ居ク。柳父氏(財産目録自(ママ)参 受付ニ預ケル 佐藤ヨリ帰宅 大口待ツテ居タ 根津保ノ人明日午後來ル由

▲▼46ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月11日(木)

天気 晴

午前中奈良原氏來 食後帰ラル 筑波ニ於テ見事ナ上昇気流ノ状態ヲ雲ニヨツテ見ラレタ由

十一時八分前出發 十一時四十分頃全部無事帰還ス 紀元節祝賀飛行 午後一時頃大久保、清水氏來 一行來 大口ト共ニ會見 工場見学後過巳ノ業績將來ノ見込等ニツキ懇談 二時間程シテ帰ル

▲▼47ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月12日(金)

天気 雨

約東ヨリ野口金取リニヤツタガ出社セズ 局(平松十年式登録申請書ト野呂十年式定置場承認書持參セシム

▲▼48ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月13日(土)

天気 雨

羽田用件ヲ兼ネ佐藤ヲ塚越氏父君葬儀ニ參列セシム

大口來 午後安田へ行ク
雨シゲク夜迄降ル 東京飛行少年機出発不可能
作業金相談ニヤツタガ十六日ニシテ呉レトノコト

▲▼49ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月14日(日)

天気 晴

少年団機九時出発セシモモヤノ爲メ三回行ツタリ來タリ ツヒ二十時着陸同十五分更
ニ出発ス

奈良原氏午後來場

日日新聞ニテ竹中、吉田重、萩原、長谷川四名、ヨッテ、京成千葉駅員トケンカ 千葉
署ニ留置セラレタル由。清平ガ來タノデ午後向エニヤル 夕方漸ク帰サテ(ママ)來タ
西川氏ノ話シヲ清平ニシ一度會ツテ來ル様ニ命ズ
與五左衛門死ス 金太郎妻ノ父 止ムナク自分ノ夏モノ全部 妻ノモノナド入質シテ
三十円ツクリ與ヘル

▲▼50ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月15日(月)

天気 晴

野口電話シテモ居ラズ 倉持ニ返事スル様云ツタガツヒニ電話ガ來ナカッタ
作業ハカドラズ材料キレル

▲▼51ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月16日(火)

天気 晴

空中作業本日ダメ 又一日仕事オクレル
岩間氏晝頃來 晝食ヲ共ニス 大口共ニ話シハ尚少シ待ツテ貰ヒタイトノコトデアツタガ、
ソレデハ切りガナイノデ明日具体的ノ返事ヲ何ントカ聞カセテ貰ヒタイトヲ希望シテ
帰ツテ貰フ

川辺君來 万年筆一本十五円ノヲ買ワセラレル 月末持ツテ來ルトノコト

▲▼52ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月17日(水)

天気 晴

午後峯島氏來 昨日三ツウロコ商店番頭ニ話シタ處同柴田君ハ不賛成ナリシモ店主石
田氏乘氣ニテ先ヅ小規模デ三十万円位デアツテ見テハドウカトノコトデアツタ由 今

日見ニ來ルトノコト 夕方井上君同道ニテ來場 コンナ会社屋ガ中ニ這入ルコトハイヤダ
ガ仕方ガナカッタ 自動車賃五円呉レトノコトニ渡ス
矢野周一君來 一時間余リ話シテ帰ル

▲▼53ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月18日(木)

天気 晴

奈良原氏來場 透明飛行ノ石田千円程内金持ッテ來ルトノコトデアタガ來ラズ 電話
モナカッタ

午後宇部ノ葉方君來 夕方工場仕舞ッテカラ帰ル

今仲氏ヨリ電話アリ 留都(ママ)トス

作業羽布代交渉シタガ出來ズ

大口昨日ノ結果報告アリ 自分ノ提案ニ対シテモ何等要領ヲ得ズ 明日迄待ッテ呉レ
トノコトデアッタ由 今日岩間氏会见スル由 ツヒニ電話來ラズ

王子区役所新築移轉ノ祝賀飛行ヲ行フ

▲▼54ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月19日(金)

天気 曇後晴

奈良原氏來場 筑波最(ママ)非明日ヤロウトテ夕方帰ラレタガ明朝汐早スギテ出發不
可能ニツキ使ヲヤッテ中止ス

岩間氏電話シタガ不在 清平へ電話シテ今夜柳父明日荒瀬訪問サセル 夜八時頃岩
間氏ヨリ電話ニテスグ事業ニ着手スル様ニスル ツイテハ廿廿一兩日ハ商工會議所議員
ノ撰擧ノ爲メ多忙ニツキ廿二日會才事ヲ打合セヲ行フトノコトデアッタ

▲▼55ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月20日(土)

天気 晴

奈良原氏來場 明朝筑波行キヲ、シキリニ望ンデ居ラレタガ金ノ準備ソカズ 漸ク電
話料ヲ納メ得タノデ當分中止スルコトトス
僅少ノ金デ心配スルノガ馬鹿ニツカレル

夜清平來 昨日柳瀬氏岩間氏ニ別々ニ會ッタ由

▲▼56ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月21日(日)

天気 晴

朝西風強カツタガ午後ヨリ夙(ママ)ギル

午前中明日会见ノ対策ヲ考究シ尙將來ノ方針等清平ト協議ス

午後幕張ノ家ヲ見ニ行ク 障子モキレイニ張ツテアッタ 庭ハドウモ氣ニ入ラナイ

帰宅後大口モ來 更ニ明日ノ対策ヲ練ル 向フデドシナ風ニ金ヲ出スト云フカソレガ分
ラナイガ兎ニ角將來出資ニ振替ワルベキ内金トシテ受取ルコトトス

猪又ヨリ二十円都合シテ更ニ夜十円スシヤヨリ借リル ヤット明日迄安心

▲▼57ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月22日(月)

天気 晴

午後二時取引所ニ行ク 岩間、大口、清平、安田、自分 柳父荒瀬会合 柳父氏ヨリ
早ク指定工場トスル爲メ工場設備ニスグ着手スル事 二三万現金ヲ作ル ソレデ間ニ合
セテ貰ヒタイ 今日創立費ノ内金トシテ千円呉レル。但シ会社ノ方ハ平行シテ進行サセ
ルトノコトデアッタ 二三万現金デアル方針ニツキ予算ヲ作ルコトシテ一兩日中ニ打
合セスルコトトス。帰リニ岩間氏ト御茶ヲノミ、柳父氏ニモ事ワツテ居イタノデ金百円
也ヲ車馬費トシテ渡ス 自分ノ借入金整理ノ内地所ヲ片付ネバナラナイノデ其件岩
間氏ニ相談 其金ハ別ニ銀行ニ話シテ見ルトテ明日ヲ約シテ分レル。
帰宅 清平ヲ連レテ帰ル 更ニ予算書ヲ作製 十一時過ぎ終ル

▲▼58ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月23日(火)

天気 曇小雨

七時二十分発立川行き 拂下價格折合ワズ皆キケン。遠藤一人ツヒニ六百十八円二
十錢ト云フ高價ニテ取ル。帰途亜細亜ヲ見学シテ五時新宿ニテ清平岩間氏ト會フ 岩
間氏銀行ノ方出來タラ三万円位融通スルトノコトデアアル由 差當り間ニ合ワズ岩間氏
ハ請負者カラ、ソノ位出サセルコト出來ルトノコトデアッタ 十時帰宅
今日河村ノ婆サンガ來タトノコト 話ヲ聞クトコチラへ又厄介ニナリタイトノ事デアッ
タラシイガソレハ事ワツタ由

▲▼59ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月24日(水)

天気 晴後曇リ

午前中大口來 安田氏へ行ト峰島ニ會フベク上京ス
河村サダサンニ會フ 七十一ニナツタ由 要チヤンノ事ニツイテハ神田へ一切マカセテ交
渉シテ貰フコト 然シアテニハナラナイコト 身柄ニツイテハ一時田舎へ行クコト 其中コチ
ラガヨクナリ皆ノ諒解モツイタラ呼ビヨセテヤルコトトシ金二十円ヲ贈ル

急イデ上京 一時半取引所ニ柳父荒瀬岩間氏ト会見 昨日ノ予算書ヲ提出 諒解ヲ得之レニヨツテ着手スルコトニ決定 三万円中差當リ一万円 アト二回位三三月中ニ支出スルコト 早速建築圖面ヲ作ルコト等ヲ決定ス 研究所ノ博士連廿七日ナラヨイトノコトニ廿七日午後六時雅除(ママ)園トキメ柳父荒瀬氏モ來テ貫フコトス ツイテハクラブノ閣下連モ呼ブコトトシテ帰りニ奈良原氏宅ニヨル

▲▼60ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月25日(木)

天気 雨

岩間氏來 別ニ用ハナカッタガ晝頃迄居テ帰ル

午後大洋社請負者來 朝カラ作ツタ圖面ニヨリ実地ヲ見テ見積リ用仕様書及圖面作製方ヲ依頼ス
夜大工ノ見積書ヲ取ル

▲▼61ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月26日(金)

天気 曇小雨

岩間氏ト正午東京駅ニテ会見 地所整理金六千円他ノ内三千五百円速(ママ)急ニ立替方柳父氏ニ話スコトノ諒解ヲ得共ニ取引所ニ行ク。寄宿舎ノ見積リ昨日大口見テ來タ機械類ノ買入レ等ニツキ報告 柳父氏ヨリ金融ノ件話アリ 二三万ノ予定ヲ五万作ルコトニシタガ三四日待ツテ貫ヒタイトノコトデアッタガ三月一日カラ着手スル爲メニハ明日カオソクモ一日ニハ金ガ出來ナイト困ル旨云ツテ居ク。後チ明日金主ヲ連レテ工場見ニ行クカラトノコトデアッタ

清平トモ會フ 明日ノ打合セヲナス

奈良原氏來場 江戸川飛行場ノ件ニツキ警視廳ニ行カレル

飛行協會へ電話シタラ此間納メタゴムスグ一度デ切レタトノコトニ姫路へ交換方交渉ス 承諾ス

▲▼62ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月27日(土)

天気 晴後雨

明日期日ノ金ノ件大口ト打合セ 今日柳父氏來テカラノ事ニ決ス。

柳父氏三時二十分漸ク來 取引所ノ常務理事吉田氏同道荒瀬氏一三三同乗ス 吉田氏ハ旅客機ニ何回モ乗ツタコトアルソウデ明日クワシク聞キタイカラ來テ呉レトノコトデアッタ 一時柳父氏へ清平同道行ク事トナル。スグ自動車ニテ目黒雅叙園ニ行ク 安満荒蒔両中将ハ不參ノハガキガアッタ 其他ハ全部出席セラル 九時頃宴ヲ終ル タゞカン

タンシ今度更生スルコトニナツタノデ今後宜シクト挨拶ス。大雨ニ会ヒ初メテノ幕張ノ家
へ夜十一時帰ル

◆▼63ページ▲▼ 昭和12(1937)年2月28日(日)

天気 晴

八時過ぎ迄眠ル 十時前工場へ出ル
千葉ノ方明日ノ事ニ大口ト打合せ居ク 山本ノ方行ツテ居ク様云ヒツケテ居ク
清平ト上京 渋谷デ丁度一時ニナル 柳父氏訪問 スグ出カケル用意ニカ、ツタノデア少
時ヲ利用シ吉田氏出資諒解シテ居ルノガ明日着手金トシテ五千円最(ママ)非ホシイ事
ヲ話シテ、吉田氏訪問 約一時間半会谈 荒瀬氏モ來ル 主トシテ作業方針等デアッ
タ 大体諒解シタ様デアッタ 柳父荒瀬両氏ヲノコシ帰ル 清平ト銀坐ニテ分レル
帰ツタラ又鳥飼氏カラ電話ガアッタ由 安岡帰ラズ様子不明

◆▼64ページ▲▼ 3月

一 工場新築増築開始
二 ソアラ完成納入

◆▼65ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月1日(月)

天気 晴後曇

岩間氏オソク大口十一時半柳父氏へヤル アトへ岩間氏柳父氏ノ意向ナリトテ二三日
待ツテ貰ヒタイトノコト 然シ今朝モ大工來テ明日カラデモカ、ラセタイ場合デアルノ
デ十日自分下坂迄ノ日取りノ予定表ヲ作り今夜岩間氏柳父氏ニ會テ變リ理由ヲ話
シテ貰フコトトス 大口ニ時過ぎ帰り柳父氏ハ五日トノコトデアッタ由 岩間氏ニ更ニ
依頼ス

中台ヨリ五日迄五十円預リ千葉ト山本ノ方延期方大口ニヤラセル

奈良原氏來場 川辺君來場 万年筆金渡シアト結婚祝ノ万年筆ト帶留メヲ明日迄ニ
注文ス

清平一時半頃來 千葉迄乗越シシタ由

◆▼66ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月2日(火)

天気 曇リ

岩間氏來 四日出來ルカラ待ッテ貰ヒタイトノ事
設計仕様書出來大洋社晝頃來 向島ト松岡來 圖面持ッテ帰ラセル 八日午前中ニ
見積書提出ノ事 仕様書不備ノ點アリ 大洋社ヨリ送付スルコト
関根氏來場 作業サルト鈴木ローン内部終ル

◆▼67ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月3日(水)

天気 曇後雨

岩間氏來 後チ安田氏來場 マダ例ノ二三日待ッテ貰ヒタイト云フダケデアッタ 丁
度大工來テ明日カラ仕事ニカ、ルカラトノ事デアッタ モウグズ、シテ居ラレナイノデ
三名同道取引所ニ柳父氏ト會フ 岩間氏ノ話シデハ三万円ダケハ用意ガ出來テ居ルト
ノ事デアッタガ、ソレヲタシカメタ處ソウデナカッタ 結果今夜ヨク考慮シテ貰フコトニ
タノンデ帰ル 後チ三人デ相談シテ他ニ金融ヲ求メ万一ノ場合ニ處スル方針トシテ安
田氏岩間氏進メルコトトス
學校問題ニツキニ一人共鳴シテ最(ママ)非運動ヤラセテ貰ヒタイトノコトデアッタ。帰場
大口ト相談 明朝大口安田(行クコト)シテ大雨ノ中ヲ乗合ニ逃ゲラレヌレテ帰ル。鳥
飼夫人ニ時死ンダトノコト 行カネバナライガ明朝ノ事トシテ床ニ入ル 風雨ツヨク
ヨク眠レズ

◆▼68ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月4日(木)

天気 晴

五時起床 鳥飼氏ニ行ク 三十円差上ゲル マダ死体ハ其マ、ニシテアッタシ兄ガ一人來
テ居タダケデ誰レモ來テ居ナカッタ。葬儀ハセズ骨ニシタラスグニ吉君ニ渡シテ自分ハ津
田沼ヘ引上ゲルカラトノコト 之レニ対シテハ何ントモ云ワナカッタ。何ンダカ三十円ヤル
ノデハナカッタ様ナ氣ガシタ 燈明モ消工勝チ 線香モ水、メシ、一本花ヲ上ゲテナカッ
タ。帰場十時
南波航空官來場 ソアラ一定期トB六内部検査終ル
作業金マタ延ビル 今夜奥山帰ッテカラニシテ呉レトノコト
岩間氏安田宅ヘ來 柳父氏ノ方吉田氏好轉且ツ明日今一人ノ方同道工場見ニ行クト
ノコト 銀行ノ調査ハ吉田氏カラ來タモノデアッタ由 報告ハヨカッタトノコト

◆▼69ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月5日(金)

天気 晴

大口昨日二百円約手持ッテ安田氏手ヨリ借入レ出來ルトテ行ッタガ今朝外二五千円

出來ルトノコトニ約手用紙ナキ爲メ判ヲ持タセテヤル 三時頃電話ニテ五千円出來ズ
二百円ダケ目下手配中トノコト 出來タ様ナ話シデアッタノデ作業カラ五十五円這
入ッタノヲ大部分支拂ツテ困ツタ
千葉ノ方心配トナル

奈良原氏ニ明日局へ埋立ノ件聞イテ貰ヒニ行ツテ貰フコトトス 丁度早川氏來 課長ヨ
リ海岸ノ件錦旗會ノ方ドウナツタカ聞イテ來イトノコトデアッタ由 イヨ、ホシモノラ
シイ

柳父氏ノ方來ラズ 橋本善喜來 会社ノ株ヲ半分持ツテ呉レト話シテ居ク 半分ハ現
金デ二三ヶ月内ニ返スコト

▲▼70ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月6日(土)

天気晴

奈良原氏海ノ件ニツキ局へ 安岡堪航証ノ件ニテ局へ行ツテ貰フ 二人共夕方迫帰ラズ
大口今日モ帰ラズ 五千円口ダメトシテモ三百円ノ金モ出來ナイトハ心細イ 二回電
話デ話シタガ要領ヲ得ズ

清平今夜柳父氏へ行ク様云ヒツケル

岩間氏來 取引所問題ニテ柳父氏ノ話シ進行セズトノコト 会社目論見書ヲ進メルコ
トトス

大工本日ヨリ長屋カゝル 夕方金ノ話シアリ イヨ、キタ 平松へ金八日送金方打電ス

▲▼71ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月7日(日)

天気曇リ

朝安岡來 共二九時工場ニ出ル 奈良原氏來 川辺氏依頼ノ三月十日飛行ノ件ビラ
散布特ニコトワツタニモカ、ワラズ尚マイテ呉レトノコトデアッタガ木暮君ト奈良原氏ト
電話ニテコトワルコトニキメル。後チ午後川辺君來 五十万枚出來テシマッタノデ別ニ飛
行機ヲタノシデモヤラネバナナイトノコトニコチラダケ三機ダケ十五万枚マイテヤ
ルコトニキメル。然ルニ川辺君今日ノ話シハドウモ頭ガ變デ奈良原氏トコトワルコトノ電
話デ話シタコトモ一向忘レテ居タニ驚イタ

昨日奈良原氏航空本部ト航空局長ニ行ツタ結果土地デ希望スルナラ津田沼ニ飛行場
ヲ作ツテ呉レトノコト確實トナル 町長不在ノ爲メ明日會フコトトシ区长ニ來テ貰ヒヨ
ク話シ海岸問題ヲ協議 一番良案トシテ一番南寄りノ一区境ヲ賣リ残スコトニシテ貰
フ

岩間氏來 明日自分一人デ柳父氏ニ會フコトヲ打合セル

大口來 安田氏ノ人ニ同行シテ千葉十三日迄延期シテ貰タ由

山崎氏來 車輪ノ圖面貰フ 奈良原、大口、安岡、山崎氏自宅ニテ夕食ヲ共ニス 清
平夜來 昨夜柳父氏ニ會ツタガ見込薄シトノコト 要スルニ取引所ガ元ノマヽニナル爲
メ柳父氏動クノガイヤニナツタ爲メダロウトノコトデアッタ
明日予備策トシテ川口氏ニ會フ約束ヲナス

▲▼72ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月8日(月)

天気 晴曇リ

七時半仁三郎同道宅ヲ出ル 京城ニテ津田沼乗替大和田二川口氏訪問 先ヅ飛行場
問題ヲ話シ会社ノ今日迄ノ経過ヲ語り差セマツテ一二万円ノ借入金ヲシタイ旨述ベル
今日川島正次郎氏ニ會フカラ相談シテ合同銀行カラデモ融通出來タラ一兩日中ニ返
事スルトノコトデアッタ。余リ當テニナラナイガ辭シテ津田沼役場ニ町長ト会见 飛行
場問題ヲ話ス 町長賛成シテ午後奈良原氏ニ會ツテ貰フコトトス 大口役場ニテ土地
及家屋ノ証明ヲ貰ヒ晝食後金融ノ爲メ上京ス。奈良原氏來 一時過ギ町長來場 区
長モ呼び打合せ會ヲナス 明日町長ノ名デ鷺沼区ノ海岸区有地ノ代表ト漁業組合ノ
役員ヲ召集シテ貰フコトトナル
柳父氏ニ晝電話シテ会见ヲ申込ム 明朝九時來テ呉レトノコト

▲▼73ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月9日(火)

天気 雪曇晴

七時半大工來 金ヲホシイトノコトデアッタガ今日柳父氏ニ會ツタ上返事スルコトトス
九時二十分取引所着 二十分程待ツ 取引所問題デヤ、一段落ツイタトノコトデアッ
タ 工場ノ現状ヲ話シ向ノ様子ヲ聞キ飛行場問題モ話ス 芋川氏照(ママ)介ノ千万長
者ヲ今日明日ニツレテ行クトノコト 尚大工ノ金六十四日最(ママ)非ヤラネバナライ
カ才事ニ対シソレハ必ズ間ニ合セルトノコトニツキ土地整理ノ三千五百円モ一所ニ五十
円ダケ最(ママ)非作ル様タノミ佐藤ニヨリワイヤーヲ求メ岩間氏ニ電話シテ明日最(マ
マ)非連レテ來ル様努力セラレタシトタノム

本日午後町長ノ招キデ鷺沼役員小學校ニ集マル 結果ヲ聞キニ行ツタガスデニ散会シ
タアトデアッタ

夕方川辺ビラ持参ス

タノシダ祝モノ椎木ノ帶留万年筆二組出來テ來ル

川口氏ヨリ電話アリ 川島正次郎氏ニ話シテ居イタカラ明日正午東京ノ自宅へ訪問シ
テ呉レトノコトデアッタ

安田氏ノ方ハ今來ラレヌ 明後十一日行クトノコトデアッタ イヨヽ大坂へ行ケナク
ナツタ

▲▼74ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月10日(水)

天気 曇り

朝区長訪問 昨日ノ結果ヲ聞ク 意外飛行場設置反対ニ決定シタル由 理由ハノリガ大変ヨクツイタノデ來年カラ拡張スルニツキ政府トシテモ捕獲シキレマイカラ、ムシロ申出ナイ方ガヨカロウトノコトデキマツタ由。馬鹿ナノニ驚ク

大口來 奈良原氏へ右報告ニ行ツテ貰フ 自分上京 柳父氏ニ會ヒ五百円受取ル 荒瀬氏ノ事聞ク 將來支配人トシタイ由。吉田氏ノ方條件打合セキメタ由 尚細目ニ渡シ交渉ノ上金受取ル由。一方ノ方ハ明日連レテ來ル様依頼ス 自分ハ大坂行中止スル旨話シテ居ク。川島正次郎氏訪問 來客アリ話出來ズ議會迄同道ス。四時過ぎ一應話ス 金六合同銀行へ話シテ呉レル由。飛行場問題通信省へ明日早速話シ縣ヨリ町ノ方へ通知スル様ナ方針ニ出テ貰フコトトス

清平ト津田沼デ會フ 帰宅 八時清平出發大坂へ行ク 祝物ト記念品コトツケ安心ス。京都デ玉木ニ會フコト、北河へ寄ツテ包被塗料ヲ聞イテ來ルコトヲ命ズ。今日ハカナリ心フツカッタ

▲▼75ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月11日(木)

天気 雨風

肥田木ニ清平ノ手紙ヲ持タセテヤル必要上早く工場ニ行ク 大口スグ來ル予定ノ處來ラズ晝頃漸ク來 幕張ノ町長ヤ漁業組合へ行ツテ居タトノコト

奈良原、安岡、鈴木諸氏ト漁業組合反対ニツキ協議ス アラカシタ自分ノ計畫シタ案ニヨリ先ヅ個人的ニ賛成ヲ求メル爲ノ準備トシテ鈴木ニ漁業組合ノ名簿ヲ聞キニヤル。尚海岸ハ昨日取引ニ來ル筈ノ處聞キ合セルト例ニヨツテ來ラズ 何等挨拶モナキ由 安田氏ノ貸金ノ方人ヲ連レテ來ル方モ柳父氏ノ出資者連レテ來ル事モ風雨ノ爲メ明日トナル。ヨツテ二時頃早引トシテ帰宅 静養ス。藥デ腹痛ダケハ直ツタ 最モ朝食ヲセズ晝ハパンニキレデスマセル

▲▼76ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月12日(金)

天気 曇り

終日曇り 小雪アリ

奈良原氏同道航空局長ニ會フ 技術課長モ同席 地元ノ賛成ヲ述ベル 候補トシテ考慮シマストノ事デアッタ

一時半帰場。鷺沼ノ狀況区長海岸呉レルト三千円取レルノダトノコト 大口ノ話シ

或ハソウカモ知レヌ

組合ノ下ニ各組長ガアル由 ソレ等ハ現役員ニ金錢上其他ニ不滿アリ飛行場ニハ大賛成ノ由

鈴木菊雄区长ト昨日会見 組合役員名簿ヲウツシテ來ル

岩間氏來場 旧債整理ニ五千円前渡シノ件交渉ヲ頼ム スグ帰京ス。

安田氏外ニ名金貸シヲ連レテ來ル 工場ヲ見テ帰ル 一万円日歩十五銭 之レハ高イガマダヨイトシテ手数一割位ダロウトノコト ソレデハ一万円借りテニヶ月デ八千百円シカ手取りニナラナイ マダ安岡ヤ大口ニ幾分ヤルトシタラ、トテモダメダが大田シキリニ進メル

▲▼77ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月13日(土)

天気 曇リ小雪

時事 絹子結婚式

今日ハ特ニ寒イ様デアッタ

七時四十分工場着 スグ大坂へ電話ヲカケ清平ニ佐渡島今度ハ金ヲ出シテ貰ワナイコト 若シ株数ノ関係上必要ガ生ジタラ御願ヒスルト云フコトニシテ貰フ。差當リ一万円ニヶ月貸シテ呉レレバ大變結構ダカラソレヲ頼ンデ返事ヲ電報デスル様申ツケル
夜七時頃今會エナカツタ明日芦屋へ行クト電報アリ

朝岩間氏ヨリ千円渡スカラ取りニ來テ呉レトノコトデアッタガ自分電話ガ大坂ニカゝルカモ知レナイノデ大口ヲヤル 處ガ何ント思ツタガ渡サナカツタノデゴタ、シタラシク柳父氏ヨリ誤解デアルカラトノ電話ガアリ後岩間氏ワザ、謝リニキタリシタ。夜大口帰り様子ヲ聞ク。安田氏ノ方利子ニ割十銭手数一割トノコトニ兎ニ角明後日込待ツコトトス 千葉ハ十五日最(ママ)非行クト打電ス

飛行場問題広瀬仙吉ヲ説ク必要アリ大口ト鈴木ヲ朝ヤツタガ不在 鈴木夕方會ヒ二時間程話シテ諒解シテ賛成ニ傾イタ由夜來テ報告アリ 外ニ中台、大工、榮助來。大分町ノ問題ニナツテ居ルラシイノデコラデ飛行場カラハ積極的ニ働キカケナイ方ガヨカロウト考ヘテ大口鈴木ニ其旨話シテ居ク

▲▼78ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月14日(日)

天気 小雨

昨夜清平ヨリ今日會エズアス芦屋ニ行クトアリ今朝八時工場ヨリ、ソチラキマルマデトリヒキマツヘマト打電ス

今日十時兩國発 柳父氏早川氏外出資者一名來場ノ予定ノ處雨ノ爲メ中止トナル。午後岩間氏來場 明日午前九時取引所へ行クトニシ万一整理資金出サナイ時ハ借入

金ヲナシ別個ニ進メルコトトス

大口午後齋藤林作ヲ手ニ入レニヤル ウマク行ツタ様デアル 昨日奈良原氏船橋ノ縣會議員ヲ連レテ町長ニ会見シタル由齋藤ヨリ聞ク

中台來 スベテノ人ハ自分ガ飛行場ヲ作ルト思ツテ居ルラシク逋信省デ作ルト思ツテ居ラナイ由 之レハ区長ト町長ノ説明ガ足ラナカッタラシイラシイ

▲▼79ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月15日(月)

天気 薄曇リ

九時取引所着 岩間立會ヒ寄宿舍用トシテ千円受取ル 会計岩間ニ帳面ヲ作ルコトヲ柳父氏依頼ス 馬鹿、シカッタガ賛成シテ居ク 遅レタ爲メ整理資金ニ五千円及一万円借入金ヲシナケレバナライガ柳父氏ニ出來ナイカトタシカメテ見タガ今月末ニナレバ出來ルカモ知レヌトノコト デハ借金スルカラ利子ハ高イガ御承知ヲ願ヒタイトコトワツテ居ク 柳父氏出來ルダケ早ク金ヲ作りカタ替リスル様ニスルトノコト。十七日來場ノ予定ナルモ早川氏差支アリトノコト 又イツニナルカワカラナイ。岩間氏ト安田氏宅ニ行ク 大口來テ居タ 晝食後阿部ト云フ仲介人ト大森ナルモノニ行ク。先ニ來タ北垣氏ハ吉田氏ト同意ニシテ吉田氏ニ聞合セタ處出資決定セズトノコトニ北垣貸金セズ他人ヨリ出サセルトノコトニテ其人京都ニ出張 今夜カ明朝帰ルカラ其上ニテ決定スルトノコト ドウモタヨリナイ

航空局ニ技術課長ニ飛行場問題聞イタガ確答ヲ得ズ 余リサワイデハ困ルトノコト之レモ又少シ心細クナル。工場ヨリ大工ニ五百円渡ス。大口ト打合セ金太郎分返金 千葉分一ヶ月利子ダケトシテ式百円渡シ明朝行ク由 ツヒデニ国吉へ延期タノマセル

▲▼80ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月16日(火)

天気 薄晴

大口山本返金 森谷利子一ヶ月分入レ国吉延期申込ミニヤル 山本百五十円ト一ヶ月分利子、三円六十銭 森谷五十円入レ三月三十日迄 但シ手数料未拂ヒ 国吉行違ヒニ來場 二三日延期ス 大口立寄り尚ヨク話シテ來タ由

岩間氏來場 株式会社目論見書ノ原稿ヲ作り三時頃帰ル

安田氏ヨリ終日電話ナシ。多分不可能ナラン 第二段ノ策トシテ川島氏頼ムベク朝自宅へ電話シタガ昨夜帰ラズ 晝事務所へ電話シタラ議會ニツキ今夜帰ラレタラ聞イテ居イテ貰フコトトス 明朝電話ニテ会見時間聞クコトヲ約ス

清平夜六時過ぎ帰ル 大坂ノ話シ聞ク 婚禮ハ割ニ貧弱ダッタラシイ 佐渡島其後會エズ電話デ昨夜一寸話シタダケトノコト。京都會ツテ來タ由

▲▼81ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月17日(水)

天気 曇晴

南風後西風強シ 清平ニクラブ機関學校ノ學則ヲ作ルコトヲ依頼ス

中山氏上京電話アリ 午後三時會フ約束ヲナス 川島氏夕五時來テ呉レトノコト

晝食後上京 航空局へ平松十年タンユウ証紛失届ト江戸川飛行場設置願訂正トヲ出ス

中山氏四時半迄待ツタガ帰ラズ 川島氏へ行ク 六時頃會ツタガ他ニ來客アリヨク話シ出來ズ。マダ銀行へ話シテナイガアレダケデハ少シシカ貸サナイダロウカラ他ニ考へテ居クトノコト 逋信省モマダトノコト。銀行ノ方シイテ、ドノ位出來ルカ聞イテ見ル處デアツタガ人が居タ爲メ聞キソコナツタノハ残念 中山氏ニ會ヒ今日迄ノ狀況ヲクワシク話シ出來レバ明日柳父ニモ一度會ツテ貰ヒタイト希望シテ居ク 中山氏今度ハ金鉞賣却ト決定 金取レタラ佐渡島へ二万円返スカラ其内飛行機へ出ス様ニ話シテ見ルトノコトデアツタガサテ 十時帰宅

▲▼82ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月18日(木)

天気 曇リ

競技會ノ件ニツキ奈良原氏午後協會へ行ツテ貰フ

岩間氏午前來場 中山氏昨日ノ意見即チ株式会社ヲ先キニ作り株券賣出シノコト柳父ニ出來ルヤ否? 一二日後土屋氏ノ方決定シタラ税金ノガレノ爲メ進メテ見ルコトニ打合ス

大口区长へヤル 明日全部買手ノ方ト土地ノモノ會合スル由 榮助土代ホシソウナコトヲ云ツテ居ルノデ大口ニ交渉サセ一日自動車代ダケ出シテヤルコトトス

二時頃柳父、早川土屋両氏同道來場 グライダー曳航ヲ見セ早川氏同乗飛行ヲ行フ 四時半終了迄話シ合フ 中々元氣ナ事業家ラシイ人デアッタ 五万円デ出來マス カト聞カレタガ返答ニコマル 岩間助船ヲ出ス 柳父氏五万円ト限定シタコトハマヅカッタ 同氏ナラ十万デモ二十万デモ出セル人デアッタノニ

中山氏夕方電話アリ 明日午後一時立ツ予定ノ由

▲▼83ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月19日(金)

天気 晴

北西ノ風寒シ 清平肥田木同道研究所行キ

十時工場ヲ出テ十一時中山氏ヲ千代田館ニ訪問 昨日ノ狀況ヲ話シ尚柳父氏ニ會ツテ貰フ 清水ビルニ晝食ヲ共ニス。一時中山氏所用アリ 分レテ東日ニ行ク 四月一

日鍛冶橋二民間機ヲ飛バンタイニツキ料金ノ件ヲドウシタラヨカロウトノコトデアッタ
今迄ノ例ヲ話ス 東京側式十円 津田沼二十五円 外二十円ヅ、出ストノコト 福知氏
上京中ニテ會フ。

今村ノ就職ノ爲メ日本空輸ニ行ク 事故ノ爲メ誰レモ居ラズ 常務ノ戸川氏ニ會ヒ、事
故ノ御悔ミヲ述ベ今村ノコトヲ頼ム 一寸六ツ間敷ソウデアッタガ履歴書ハ預テ呉レタ
夕五時ヨリ日比谷ノトウ、亭ニテ東日グライダー坐談会アリ 出席者吉原、出田、
山崎、中村(美津の)、小野、奈良原自分羽太清水。南波氏グライダーノ價格ノコト、
奨励金、懸賞金ノコト、試作費ノコト、最後ニ自分ヨリ運賃割引鉄道省へ出願ノ件ヲ出
ス。九時散会 十一時帰宅

本日大口朝安田氏へ行ク

吉原グライダー賣レズ 聯盟ニ取り入ッテ來タモノト認メラル

▲▼84ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月20日(土)

天気 曇小雨

大口金融ノ件安田氏ノ方北垣氏帰ラズ二十日帰ル由。外ニ野村銀行貸付課ノ松江ナ
ルモノ今日午後三時來ル由ノ處電話アリ廿二日ニ行クトノコト。オソクナルノデ千葉方
面デ小ロニ二千五百円位ヅ、借リル方針ニテ聞キニヤッタガダメ
奈良原氏來場

安岡作業へ金取リニヤッタガ月末ニシテ呉レトノコト

仁三郎今日デ千葉中ノ試験終ル 昨日四ツ今日モ四ツ間違へタトノコトデアッタ

▲▼85ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月21日(日)

天気 晴

北西ノ風ツヨク寒シ

昨夜清平來 共ニ工場ニ行ク

本日採用試験ヲ行フ 岩間大口清平、口頭試問 自分ハ聞き役。數學試験ヲナス
全廿三名來場 内十五名採用 見習十名職工四名事ム員一名 夕方終リビールヲ出
シテ散会

柳田氏夕方來。

猪又話シタルモダメ 中台ヨリ三十円借入。吉野練習生二十一円一時間分入レル
仁三郎千葉中発表ダメ 早速日大ノ準備ニカ、ラセル

▲▼86ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月22日(月)

天気 晴

八時自動車ニテ町長迎へ三行ク 差支アリ助役ト齋藤林作氏行クトノコトニ同行 市川
駅ニテ奈良原氏ト會ヒ、航空局ニ行ク 局長ヲ待チ十時過ぎ會見 技術課長モ列席
町トシテノ歡迎振リヲ具体的ニ示シテ貰ヒタイトハ局長ノ話シ 課長ヨリハ他カラ運動
ガ起ルト困ルカラ新聞ナドニ絶對ニ出ナイ様進行シテ呉レトノコトデアッタ 會見ヲ終
リ上野駅迄送り新橋ニ廻リ協會ニテ日誌ヲ買ヒ局ニ持參 蓮見氏不在 齋藤氏ニ預ル
コレヨリ先キ奈良原氏ト朝日新聞ニ行キ相羽、鈴木、田中ト會ヒ日本飛行クラブトシ
テ朝日ノ計畫ニ協力 歡迎飛行ヲ行フ旨申入レル。

グライダーノ羽布ヲ買ヒ三時半帰場 野村銀行貸付係リト杉江氏等丁度來テ居タ
多分ヨロシイガ明日カ明後日中ニ確定的ノコトヲ知ラセルトノコトデアッタ
今日ヨリ七時初メ五時終ル 佐藤太田大口ニ今日ノ模様ヲ話シテ居ク

▲▼87ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月23日(火)

天気 晴薄曇リ

岩間氏ヨリ本日柳父氏土屋氏訪問スル由。多少不安ノ點アリトノコトニ出來レバ岩間
氏同行スル様タノム

千葉ノ國吉來 明日正午五十円入用トノコトニ惠美ノ本代モ入ルコトデアリ、村山大
工ニ内渡シ金残ツテ居タラト話シ百円ダケニ三日借リル 廿五日ニハ第二回分渡ス筈
大坂へ土丹板送ツタガ電報デ聞合ス 夕方今日送ルトノ返電アリタリ

夜入浴夕食後少々寒氣スルノデ早ク床ニツク 益々サムク湯タンポヲ入レル 左足先キ
神経痛ノ如ク痛ム

夜清平來

試験後ノ採用通知ヲ出ス 四月十五日來場トス

▲▼88ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月24日(水)

天気 雨

身体中イタク、カタガ張ツテ腰ガ痛ム 足ハ三十秒置キ位ニ痛ノ(ママ)ノデ、アンマヲ取
ルヤ、ヨクナル

大口工場ヨリ來 岩間ヨリ本日決定的ニキメタイカラ二人デ來テ呉レトノコトデアッタ
由 自分行ケナイノデ清平ト二人ヤルコトニス

徳治通信簿貰ヒニ行クツヒデニセルロイドヲ買ワセ工場ニヨラセ国吉ニ五十円渡ス

仁三郎優等賞ヲ貰ツテ來タ 徳治ハ相カワラズ乙丙丁ガ多ク甲ハ一ツモナイガ二百七
十人中二百十五人目トハマダ出來ナイノガアルラシイ

▲▼89ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月25日(木)

天気 雨後曇リ

大口來 昨日ノ話シヲ聞ク 杉江ノ方廿八日ニ決定スル由 目下興信所調査中ノ由
調査費杉江立替ル由 多分出來ルダロウト思ワレル 利子一錢六ノ手數百円デスム由
山本岩間氏來ルトノコトニ晝迄ニアセ出シテ晝起床 工場ニ行ク 岩間氏ノ話シニヨル
ト百万円ハオロカ七十万円モ少々オボツカナイノデアルガ万一ノ場合六十万円位ハ銀行
ヲ利用シテモ七十万円ニハゴギツケルツモリダカラ 最此際權利ヲ多額ニ見積ラナイコト
ニ願ヒタイトノ希望ノ由 右ハ昨日皆帰ツタ後岩間氏特ニ、ツツコンデ聞イタ由。尚土
屋氏へ見セル本工場ダケノ予算書ヲ作ツテ呉レトノコトニ作ツテ渡ス。夕方早く帰ル 寒
ケガスルノデ酒ヲ一本ノンダガコンドハ熱クナル スグ床ニ入ル

▲▼90ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月26日(金)

天気 晴

時事 日大中入学試験

午前八時三十分

徳治ト仁三郎連レ立ッテ日大中へ行ク

ユツクリ寢床デ熱ヲハカリ三十六度五分ヨリ上ラナカッタノデ起床 九時過ギ工場ニ出
ル 奈良原氏來場 船橋警察署主權ノスパイ防止坐談会ニ先生ニ行ッテ貰フ

晝食後上京 取引所ニ柳父氏訪問 權利ノ件確定スルツモリデ行ツタ處其點ニツキ一
昨日ノ事ヲ話シタガ、イヤ別ニ何事モナカッタトノコトデ話ス機會ヲ得ズ。タゞ進行ヲ
計ルト云フコトダケヲ聞ク。然シソレニハ買収價格ト權利ノ問題ガキマラネバ出來ナイ
筈ダガ、コチラハシイテ云ワナカッタ 今月末千五百円ヨコストノコトダケヲ確メアトハ
飛行場問題ヲ話シテ帰ル。今日朝カラ考ヘタ處デハ野村銀行ノ一万円出來レバ、誰レノ
方デ借りナイデモ出來ル予定モホゞ立チソウナノデ柳父ノ方モツヽコナカッタ 第一
航空ニ立寄りテ帰ル

ジャツピー佛飛行士ノ歡迎会出席ヲ止メテ早く帰ル

▲▼91ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月27日(土)

天気 晴

八時前出勤 一三ベンツ内部ト鈴木アンリオ完成検査ニ來場 坂下蓮見両氏終ル
山口君自動車取りニ來ル 宗里妻君ト青木來 山口君ヲ紹介ス 奈良原氏來場
熊谷氏來場 担保少シ不足ノ爲メ一三式トアンリオ追加 多分コレデヨカロウカラ二
時頃確定ノ返事スルト大口ト話シテ帰ツタ由 午後電話ナカッタ 大口寒氣ガスル由ニ

ツル帰宅サセル 四時頃安田氏ヨリ明日午後工場へ行クトノコト 要件ハ昨夜大口ガ聞イテ來タ金ヲヤラズニ先ツ建築シテ呉レル請負師ヲ見ツケテ契約トスルトノコトデアッタ 一昨日來一万円出來タラ何ントカ右ノ様ナ方針デア人ノ力ヲ借りズニヤツテ行コウト考ヘテ居タコトト愚(ママ)然一致シタノデアッタ
仁三郎日大中合格ノ通知來ル

▲▼92ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月28日(日)

天気 晴

昨夜清平來宅

十時工場ニ出ル 安田氏渡ス予算書再製終日カ、ル 清平ニモ手傳ワセル
京都、山形、富山ソレ、採用通知ヲ出ス
四時過ギ大洋社ト其親請負來場 明日契約ノ由 大口ヤルコトトス。杉江ノ方モ工場備品並ニ飛行機發動機棚卸表ヲ作製 明日大工持ッテ行カセルコトトス
大坂カラ婚禮ノ写真ガ來タ

▲▼93ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月29日(月)

天気 晴

大口野村銀行ノ方ト大洋社建築契約ノ爲メ上京ス 野村ノ方イヅレニシテモ電話カケル様話シテ居イタノニ五時過ル迄ツヒニ電話ナシ 不安ノ中ニ帰ル
安岡ニ作業会社へ金ノ件デヤツタガダメ 午後奥山來場 明日出來ルダケ都合シテ貰フ様タノム

今日ハ鈴木菊ヨリ十円取り清平ニ二円布施ニ三円渡ス 五円明日ノ爲メニ残ス
中台今日米屋ニ支拂フ爲メ大分苦心ノ様子デアッタ 氣ノ毒ニ思フ
横須賀拂下一三式練習機外計器類引取りニ出張 自動車一台タノム 十七円

▲▼94ページ▲▼ 昭和12(1937)年3月30日(火)

天気 曇晴

大口來場 昨日野村ノ方調査報告未着ノタメダメ 四日頃ニナル由。請負契約ノ方モ材木屋ガ柳父ヲヨク知ッテ居テ柳父氏デハ信用ナク爲メニ之レモダメトナル
奈良原氏來場 明日中沢氏ニ會フトノコトニ二万円借入方依頼ス 岩間氏來 会社促進方ニツキ柳父へ今日モ會フ由

仁三郎ノ入學手續キニ徳治ダケ日大へヤル

柳父氏ヨリ電話アリ明朝十時行クコトヲ約束ス

鈴木アンリ才奨励金願書作製

明日ノ支拂ヒ予定表ヲ拂ル

佐渡島西店荷物引換書來ラズ打電シタアトエ銀行ヨリ通知アリ 代手ニナツテ居タ

◆◆95ページ◆◆ 昭和12(1937)年3月31日(水)

天気 薄曇リ

六時十分起床 七時四十分工場 九時上京 局ニ今日ノ受検ノグライダー登録申請書ヲ出シ山田輪盛館ニヨリ柳父へ行ク 千五百円受取ル 岩間氏居リ荒瀬氏モ來リ目論書用収支予算書ヲネリ作製ス 晝過ル イソイデ帰途奈良原氏へ十円居キ、百円札ヲクヅス爲メ羽布ヲ一反買ヒ浅草橋ヨリ京都第二工業へ三十円旅費送金ス。帰宅 清平内藤ト云フ請負師連レテ來ル 夕方田口來場。支拂ヤ何ニカト、ゴタゝス。安田氏ヨリ電話アリ大口大洋社ニ見積リヨリ一割高クナツテ引受人アリキメテヨイカトノコトナリシモ何等條件ワカラズ明日ノコトニシテ貰フ様返事ス 後チ大口千葉へ取アエズ百円ダケ利子ト手数料ノ半額ヲ持タセテヤル。アトへ又安田氏ヨリ電話アリ安田氏ノ爲メニ損ヲシテモヤルト云フ人デ將來株モ持ツト云人ダカラ此際キメタ方ガヨイトノコトデ、マカセテ呉レトノコトニ何分宜シクト云ツテ特ニ柳父氏ノ方考慮ニ入レテ貰ヒタイコトヲ依頼ス。シカシ後チ迄氣ニナルノデ明朝大口ニ上京前宅へ寄ル様徳治ヲ使ヒニヤル

◆◆97ページ◆◆ 昭和12(1937)年4月1日(木)

天気 晴

大口杉江ト安田へ行ク前宅へ寄ラセ安田氏ニ昨夜ノ電話ノ話シヲナス。工場清平ト出ル 安田氏ヨリ電話アリ 今日午後一時請負師側ト行クカラ在宅タノムトノコトニ羽田ノ朝日出発式ハ清平ヲ代理トシテ安岡ノ王子機ニ同乗シテヤル。
奈良原氏訪問 行ケナイ旨コトワリ同氏一人行ツテ貰フ 尚昨日中沢氏ト會見ノ模様ヲ聞ク 一万円出資ノ話シハマダセヌガ株募集ノコトヲ話シタラ大變乗氣ノ由 來ル四日小供ヲ同乗飛行ニ連レテ來ルカラ其時ニ話シスルトノコト 一寸失望。大口帰り杉江ノ方ダメト確定。安田氏ノ方五時頃全部來場 石田組ノ由 顧問ト云フノガ安田氏ノ知人デ中ニ立チ昨日ノ話シデ今日ハ又更ニ二千円高クシテ呉レトノコト 材料騰貴ノ爲メデアツタガ安田氏一人交渉 千円ヲ上ゲルコトトシ総額ニ万五千余円ニテ契約スルコトトナリ契約書間ニ合ワズ。一時注文書ヲ発スルコトトシテ右手續キス。金ノ支拂ハ三回拂トノコト。之レハ後金ト了解ガアルト思ツタラ、ソシテナカッタノハ意外デアツタガ今更否ヤハ云エナカッタガ安田氏ハ一部引受ケルカラ安心シテ居テ呉レトノコトデアツタ

380頁へ

(380ページへ続く)

▲▼98ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月2日(金)

天気晴

奈良原氏來場

朝散髪 午後第一航空へ山口ノ話シニ行ク。山口ノ方モ親兄弟ヲ見ナケレバナラナイノガ不安ラシク當分川北ヲ校長トシテヤルコトニナツタラシイガ尚親類トモ相談ノ上返事スルトノコトデアッタ

矢野君ニ會フ 帰場シタラモウ帰ッタアトデアッタ

船橋市制祝天(ママ) 大變賑カデアラシイ

仕事ナク明日明後日二日休マセルコトトス

大口二日間安田へ行ク由 金融ノ件小口ヲ話スコト 場合ニヨツテ鷺巢カラ借り出ス方

法岩間氏ト相談シテハドウカト云ツテ居ク

▲▼99ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月3日(土)

天気晴

朝カラ上天気デアッタ

庭木ノ植替エ池ノセメント修理ヲナス

晝食後清平ト工場ニ行 石田組ヨリ明日材料搬入スルトノコトデアッタ

晝前内藤君見積リヲ見ル 総額壱万七千余円 丁度七千円ばかり安クナル 大ニ考へ

サセラレル

山崎氏來場 四時頃帰ル

フトン來ラズ電話デ請求ス 七時カ八時迄ニ持参スルトノコトデアッタ

▲▼100ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月5日(月)

天気 曇後晴

八時工場ニ出ル 安岡今日モ帰ラズ

奈良原氏來場 協会ノグライダー飛行ノ予算ヲ作ル 奈良原氏上京セラル 中沢氏

交渉主眼

中台仲介ニテ古家五十円ニテ賣渡シキマル 十円内金受取ル

大口昨日腹ガ痛ムトテ帰ツタガ今日出テ來ナイ處ヲ見ルト悪イカモ知レナイ 安田氏

へ電話スル 明日來ル由 岩間氏ニハマダ會ワヌ由。柳父氏へ電話シテ十五日入所者ニツ

キ金ノ入ルコトヲ話シテ居ク。尚印刷物マダ全然カッテ居ラナイ由ニ撰擧デイソガシ

クナルカラ早クスル様云ツテ居ク。
坂東氏ニ會フ爲メ上京 時間ガアツタノデ東日ニヨル
380頁へ

本記事ハ五日ノ分
(380ページへ続く)

▲▼101ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月4日(日)

天気 雨曇リ

雨が降ツテ居タノデ家ニ居タラ晝頃迎ヘガ來タノデ工場ニ行ク 中沢氏伊丹中将奈良原氏來場 中沢伊丹両氏ノ妻君小供アンリオニ同乗飛行ス 明日奈良原氏中沢氏へ話シニ行クコト

▲▼102ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月6日(火)

天気 晴

時事 朝日亜欧飛行神風号飯沼飛行士操縦塚越機関士同乗出發ス
地鎮祭ヲ行フ 朝柳父氏ニ電話デ知ラセル
午後岩間氏來 印刷ニ着手シタトノコトデアッタ 契約ノコト岩間氏ニクワシク話ス
安田氏モ來場。石田池本契約書取カワス
終ツテ野武士会ノ会合ニ出席 佐々木航空官歓迎会 十時散会 十一時帰宅

▲▼103ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月7日(水)

天気 晴

イヨ、本日作業初マル
古イ家モ取コワシ初マル 残金四十円 計五十円受取ル
中台中極局へハ六十円ノ由
田口君ニ木工機械据付ヲ命ズ
午後中沢氏ニ會フベク奈良原氏宅ニヨリ同道ス 會ツタガ全然金ヲ貸ス様子ナク例ノ奈良原式デアッタ 株ハイクラカ持ツトノコトデアッタ
岩間氏ヨリ電話アリ 昨日ノ予算書渡シタコト ゲラ刷ガ明日頃出來ル由
青年學校ニツキ清平ト山東君町長へ會ヒニ行ク

▲▼104ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月8日(木)

天気 晴

安岡今朝出勤 三日以來初メテアッタ
明日局ヨリクラブ十年式内部同一三完成、東日ソアラ―内部検査坂本蓮見両氏來ル
トノ電話アリ

協会へ補助金聞合セル 今日送金スルトノコト
夕方倉重ヨリ電話アリ 正憲ガ死シタトノコトダガ本當カトノコト。母カラ其後二度
程協会ノ金ヲ貰ツテ呉レトノハガキガ來テ居タノデシラベテ見ルト三日付ノデ死亡ノコ
トガ書イテアッタ 讀メナイ字デアッタノデ氣ガツカナカッタノデアッタ
朝日機今日アテネ迄向ツタノデ祝賀飛行ノ打合せアリ鈴木代理ニ行ツテ貰フ
十五日前ノ金氣ニナル

▲▼105ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月9日(金)

天気 雨

時事 パリ迄九十二時間ニテ到着 スグ出發 ロンドンニ向フ
ヒドイ雨風デアッタ

丸山氏ヨリ金到着 無イ時トテ嬉シカッタ
志鶴へ佐藤博、朝日ノ新野外二名ノ有功章授與式ニ參列 終ツテ取引所ニ行ツテ印刷
物ノ下刷リヲ見ル 午前中二本印刷ニ出シタトノコト
定款ニ工場買入レハ五万円ダケ株券デ交付スルトトナツテ居ル外ニ何ニモ書イテナカ
ッタ 此點ハ融通資金デ現金買入レヲスルノデ差支ナク發起人ニモ諒解サセルトノコト
デアッタ。發起人会ヲ來週早々行フ由。陸軍ノ方ノ交渉人物ヲ聞カレタノデ今迄會ッ
タ人之レカラ會フ予定ノ人ヲ云ツテ居ク

▲▼106ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月10日(土)

天気 晴

時事 日本時間午前〇時二十七分神風号ロンドン着 日本万歳朝日万歳 約九十四
時間ナリ

坂本蓮見両氏來場 一三ベント完成十年式内部ソアラ―内部検査終了 晝食後歸ル
一時ヨリ飛行協会主催ノ神風成功祝賀会ガ日比谷デ開カレタガ時間ガナクテ中止ス
石田組本日ヨリ本式ニ工事着手初マル
大坂東京両朝日新聞、名古屋三菱、中島へ成功祝電ヲ出ス。中島ヨリハ謝電來ル

▲▼107ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月11日(日)

天気 晴

時事 清水録君十国峠ニテトイフェルニテ一時間三十二分飛ブ

好天気ノ日曜デアッタ

午前中菊ノ植替後發起人会ノ説明ニマゴツカヌ様諸種ノ収支予算ニツキ細目ヲ調査記入シテ居ク

山口君來 其爲メ午後工場員主ナルモノ会合ヲ中止ス 船橋へ電話デ連絡 午後四時半頃妻君ト娘來 茶菓トビールサイダーヲ出シ一時間半程居テ見合ヲ終リ帰ル 後チ山口ヨリ希望ヲ聞イテ居ク

夕方清平帰ル

午後キミ鷺沼ヨリ連レテ來ル 胃ケイレンノ由 夜ハクルシガツテ家内ハツヒニ一睡モセズ 自分モ眠レナカッタ

▲▼108ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月12日(月)

天気 晴

朝岩間氏ヨリ十時ニ取引所へ來テ呉レトノコトニ上京 少シオクレ十一時半取引所ニ行 柳父氏發起人廻リデ居ラズ。十五日頃迄ニ發起人会ヲ開キタイ予定ノ由。十五日前 必要ナ金ニツキ荒瀬氏ヨリ十五日後ニシテ呉レトノコトナリシモ急速ヲ要スル旨強張(マ)マス 岩間氏八百円出スカラ柳父氏ニ二時立替テ呉レト迄云ツタガ理事長出所ノ爲メ柳父氏退席 其時伊藤氏ト岩間氏デ相談シテ呉レトノコトデアッタガ馬鹿ニシタ話 徳兎二角アトカラ來タ大口ト合セ安田氏岩間氏ト美津濃ノグライダー展ヲ見ニ行キ 茶ヲノミナガラ自分ニ対スル將來ノ保証ヲ求メル旨及十五日前ノ金最少限八百円明日作ルコト岩間氏ニヨク話シ分レル 岩間氏更ニ取引所へ行ク 自分ハスグ帰宅ス キミ今日モ悪ク夜穴倉醫師ヲ呼ブ

清水昨日着陸後アオラレ轉覆 打撲傷ヲ受ケタル由

▲▼109ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月13日(火)

天気 曇リ少晴

操縦士試験アリ石原大尉來場 船橋ニテ実施 無事終ル 大変スラハトスム

今日午前中明後日來ル見習工ノ振當テ指導方針等ニツキ打合せ会ヲ催ス 清平風引ノ爲メ休ム

今朝ヨリキミハキ氣止マル 但シ変ナコトヲ口走ル様ニナリ氣味悪ルシ

岩間氏來 八百円持參 三百円岩間氏作り五百円ハ柳父氏ヨリ岩間氏借り入レノ形デ持ツテ來タ由

今日更ニ社長及専務ニテ社務ヲ代表ストノ定款ニツキ自分ノ立場ヨリ定款ノ訂証(ママ)

ヲ望ム 岩間氏ハウツカリシテ居タラシク、賛成意見デアッタ。昨日ヨリ植木屋這入り
マキノ木ヲ植替ヲナス

◆▼110ページ◆▼ 昭和12(1937)年4月14日(水)

天気 晴風

一三式船橋ヨリ帰場ノ爲メ試運転中逆立シテペラコワス
晝頃ヨリ清平、大口ト買物ニ上京 船橋ニテ机ト椅子ヲ合セテ買ヒ上京 大工道具木
道具等一切ヲ購入 四時帰場ス

◆▼111ページ◆▼ 昭和12(1937)年4月15日(木)

天気 曇雨

朝岩間氏ニ電話ス 今日柳父氏訪問後今日明日ニ行クトノコト
新入社見習工廿一名來場 ニギヤカニナル 奈良原氏來場 話シラシテ貰フ 自分ヨリ
モ一通リ注意ヲ與ヘル 作業ハ佐藤、太田、角。作業後ハ山東君ニソレ、指導ヲ依頼ス。
今夜新旧ノ顔合セノ爲メ茶話会ヲ聞(ママ)ク
東日ノ昨日ノ事故ニ対シ見舞電報ヲ打ツトアトニ須田氏今朝四時死亡ノ通知アリ弔
電ヲ發ス 明日午後四時大坂ニテ告別式ノ由。大坂ノ兄ニシキミ依頼ノ電報ト十五円
送ル

◆▼112ページ◆▼ 昭和12(1937)年4月16日(金)

天気 晴

清平本日ヨリ営業部長トシテノ職ニツカセル爲メ航空局へ安岡ト同道挨拶ニヤリ明大
中學部へグライダーノ注文取り東日へ連絡 航本廠へ渡辺君ト會ヒニヤル
大口奈良原サン令嬢ノ養子問題ニツキ上京
協会グライダー補助金受取ル 鷺尾練習費來 内五十円工場へ入レル
午後船橋へ行キ石原大尉ニ會フ 試験終ツテ帰ル迄來居ル
岩間氏來 過日ノ八百円五百円ハ柳父氏ヨリ岩間氏借リタコトニナツテ居ルノニ対シ廿
日頃返金スル様柳父氏ヨリ念ヲ押サレタ由。十五日迄ノ發起人会モイマダキマラズ柳
父氏ハ到底ダメト思ワル ツイテハ廿四日ニ柳父氏へ最後ノ提案トシテ資金ヲ出スカ、
發起人会ヲスグ開クカ然ラザレバ發起人ト目サル、人へ直接面会ヲ求メル旨傳達ヲ乞
フ 私用ノ二千円柳父氏出來ネバ岩間氏廿一日必ズ作ルトノコトデアッタ

◆▼113ページ◆▼ 昭和12(1937)年4月17日(土)

天気 曇り後晴

降りソウナ日デアツタガ晴レル

大口オソク出勤 午後清平田口、ト篠原鉄工所見学ニ行ク 田口早朝ヨリ行ク 清平昨日ヨリ上京 夕方帰ル 用件ハ相當効價ヲ上げて來タ

奈良原氏來場

一三式船橋ヨリ安岡持ツテ帰ル 其時妻君ヨリ山口ノ方ドウカト聞カレタ由。宗里ノ方ハオーライトノコト 明日須田君ノ迎エニツキ打合セ香奠ナドキメル 午後三時ヨリ仁三郎同道上京 高島屋ニテ中學生服ト自分ノ合服ヲ買フ

栄助土地測量ニ午後役場員連レテ來 山東君立合セル

▲▼114ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月18日(日)

天気 晴

清平同道七時二十分品川着 安岡太田先着 時間ガアルノデ一度出テミルクトパンデ朝食ヲ取り帰ル 佐藤來テ居タ 乗池君ニ會フ 旋風部品ソロエテ居テ呉レル由。瓦斯電ニ古い機械ガ沢山アル由

七時十六分遺骨着 婦人連ハ顔ヲ上ゲラレナカッタ 自分モ目ニ一杯涙ノタナルノヲドウスルコトモ出來ナカッタ。自動車ニ乗ルノヲ見送ツテ安岡ガ十円入ルトノコトニ百円札ヲクツスノニ苦心ス 散髪ヲシテ千住ノ佐藤サンへ娘ノ病氣見舞ニ行ク 不在デアツタガ上野駅デ晝食後東日ニヨリ大蔵清水ニ會ヒ羽田ノ朝日ノ亜欧飛行成功祝賀会ニ行キツヒデニ帝大ノ試作機ヲ見ル プロペラノピッチノ多イノニ驚イタ

▲▼115ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月19日(月)

天気 薄曇リ

今朝十時取引所へ來テ呉レトノ安田氏ヨリノ事傳ニ大口同道上京 十時十分取引所着 岩間安田両氏先着 今月負請(ママ)師支拂八千円 伊藤個人分五千円 其他計一万五千円ヲ廿五日ニ作ルコトヲ安田氏ヨリ柳父氏ニ申込ダガ確答ヲ得ズ 漸ク廿一日乃至廿三日發起人会ヲ開ク 其上安田氏ニ指ヲツメサセナイ様(負請(ママ)師ノ支拂)善處スルトノコトデ五千円ニ対シテハ初耳ダカラ、急ニ云ワレテモ困ルトノコトデアツタ、ニ対シ自分ノ無口ナコト 殊ニ金ニ対シ一度請求シタラ他ノ人ノ様ニ同ジ事ヲ繰返サナイカラ將來モ其ツモリデ聞イテ貰ヒタイト事ワツテ居ク 尚發起人トシテ岩間、安田、大口ノ名ヲ入レサセル

岩間止ムヲ得ズ午後ヨリ国(金作(ママ)ニ出發 明日二千円持參スル由

東日ニ行キ大蔵羽太同道シテ須田氏告別式ニ行ク 五時帰場

全ヨリ昨日机卜椅子ニ組來

▲▼116ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月20日(火)

天気 晴

吉井練習生入会ス 但シ千円デ一人前ニシテ呉レトノコト
協会ヨリ福井へプライマリー一台送付方依頼アリスグ荷造 明朝發送ノ手配ヲナス
奈良原氏來場 午後上京セラル ツイデニ協会へ寄ツテ貰フ
夕方岩間氏ヨリ電話アリ 今帰ツタ明朝早ク行ク、發起人会ハ明後廿二日行フ明日
工場ヲ見ニ行クトノコトデアッタ

▲▼117ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月21日(水)

天気 晴

發起人会ノ前ニ柳父ノ意見ヲ聞キ且ツ發起人会ノ諒解ヲ得サセバク不要事項ニツキ箇
條書キトス

岩間安田両氏來場 右ヲ見セ諒解ヲ得 五ヶ條アリ 岩間氏三千円作ツテ來タニツキ
右金ヲ柳父ノ方不要ノ爲メ石田組へ提供 二十五日ノ延期ノ策ヲ立テ出カケタ處へ塚
本氏來 同氏ノハカラヒニテ弍十円ダケ内入シ卅日一杯無條件待ツコトナリ安田氏
其方ニ行キ明日ノ打合せト右五ヶ條諒解ノ爲メ岩間氏ト上京 柳父氏ニ會フ 明日ハ
十時東京發工場ヲ見テ歸リニ清水ビルニテ發起人会ヲ開ク由 五ヶ條ニツキノレ、柳
父氏ノ解答ヲ得不満足ナガラ決定ス。安田氏へ行キ右報告シ成立ニツキ安田岩間氏ニ
謝禮ヲ述べ、佐藤ニヨリ買物シテ、船橋ノ青木君送別会ノ爲メ鈴木館ニ行ク 八時丁
度 コレカラヤル處デアッタ 第一妻君ヲ呼び山口ノ話シス 万事OK 二時終ツテ帰宅

▲▼118ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月22日(木)

天気 曇後雨

丁度十二時發起人等約十名柳父氏同道來場 工場ヲ見テ晝食後歸ル 自分等モ自
動車デ上京 清水ビルニ行ク 三時發起人会前ニ現物出資ヲ全額拂込ミスル事ヲ更ニ
交渉シタ處法律上出來ナイモノト思ツテ居タラシカッタガ出來ル事ヲ話ストスグ承知シ
タ

出席者早川芳太郎、武田次七、吉田嘉次郎、片山博士 眞崎氏代理十時氏以上 外
柳父、安田、岩間、大口、清平 柳父氏ヨリ會議進行。軍部關係ニツキ説明ヲ求メラレ
昨年徳川、板野両氏ト交渉事情ト自分ノ見解ヲ述ベヨク諒解セラル 第二工場ト其
資金ニツキ吉田氏ヨリ不用論アリ 自分ヨリ説明 主トシテ武田氏氏(ママ)熱心ニ聞カ
レヨク諒解セラル 武田氏一足先キニ歸ラレタガ、ヨイ人ト云フ感ヲ得タ。十時大佐ヨ

リ軍部ノ意向トシテ資本金ノ多イ程ヨイトノ意見出テ、協議ノ結果百五十万円四分ノ拂込ト決定ス 五時散会

▲▼119ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月23日(金)

天気 曇リ寒シ

上京 今月支拂ノ金準備ノ爲メ取引所ニ行ク 丁度岩間氏居リ安田氏モ來ル 現物出資全額拂込ミノ件裁判所ヘタシカメニ行クトノコトニ同道ス ヤハリ出來ルトノコトニ其手續キニテ進行スルコトナル。航空局ニヨリ清平ニ持タセテ來タ青年學校ノ許可書ヲ見セ田中サンニ海軍ノ人ノ件聞ク 今月除隊者ガアルカラ向ケルコトニナツテ居ルトノコトデアツタ

清平ヲ東日ヘトイフェルノ日誌ト堪航証持參サセル

自分取引所ニ歸ル 十時大佐來 更ニ軍部ノ様子ヲ聞ク 十三期生ノ由 柳父氏ハ又モトノ七十万円ニシタイ希望デアツタ由 十時氏更ニ貳百万円説ヲトオコサエ話サレタノデ百五十万円ニ決定ス

金策ノコト自分肥田木福井ヘ出發サセル爲メ歸リヲ急イダノデ安田岩間両氏ヨリ話スコトニナル

▲▼120ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月24日(土)

天気 晴

今朝床ノ中デ考慮中フト新株主ヤ従業員全部ニシテカラ今自分ガ死ンダラ、ドウナルダロウト思ヒ到ツテガク然 目ガ醒メル思ヒガシタ。コレハドウシテモ、健康第一主義デ行カネバ將來何百人ノ人ニ迷惑ヲカケル事ニナル。三五年ハ大ニ健康ヲ保持セネバナナイ。ソレニハ先ヅ酒ヲツ、シミ、ラジオ体操ヲヤルコトデアル

粕谷君ヨリ岩間氏ニ対シ安田氏モ三百ダケ株ヲ持タネバナライカラ何ントカヨロシク、タノムトノコトデアツタ 大口聞イテ居タノダンウダガ話シガナカッタ。承認ヲ與ヘル但シ大口ニハ岩間氏ノ手前モ貸シタコトニシナケレバト云ツテ居ク 勿論其ツモリトノコトデアツタ

山口君來 結婚問題決定 スグ第一ニ行ク。青木居ラナクナツテ、スデニ内部不統制ノ由 大變急ギ出シ夜青木及宗里未亡人來 今月中ニ(青木ノ居ル内ニ)内祝言ヲシテ貰ヒタイトノコトニ明日羽太氏ニ相談シニ行クコトトス

▲▼121ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月25日(日)

天気 雨

三時頃小柴來 午前一時四十分トラック工場ニ飛ビ込ミ昨日來タ三島ノグライダーヲ更ニワシタトノコトニ朝行ツテ清平ニ解決ヲ命ズ 夕方車持主來テ百二十余円三十円ツノ月賦トナル

丁度晝羽太氏宅ニツク グライダーノ件廃棄シテ新調ノ補助金貰フ様手續キ方タノム山口ノ件クワシク話ス 承認ヲ得。社トシテハ今度補員ニ引上げ十年式ノ練習ヲヤラセル予定デアッタ由

帰途宗里ニヨル 娘モ來年ニシテ呉レトノコトデアル由 一寸ムツトシタ 昨夜アンナニ急グカラ其ツモリデ話シヲシタノニ。デ明日青木君ニ本人ヲ直接アワセルコトニキメテ帰ル

◆◆122ページ◆◆ 昭和12(1937)年4月26日(月)

天気 曇薄日サス

奈良原、長島両氏來場

今村ヲ呼ビヨク話シス 今後引續キ居タイトノコトニ今ヨリ月給トス

飛行機曳航ヲ行フ 竹中一回 後全一回一軒家ノ先キニ着陸

姫路製紐ヨリ支店長來 ゴム紐販賣ニツキ半額提供ヲスルトノ事デアッタ 之レニツキ相談ノ上明後日返事スルコトトス

清水君ニ三島ノ件電話ス 二台共新ラタニ製作補助金ヲ貰フコト 外二万一ノ場合五十円及三百円出シテ貰フコト

夕方青木、山口來 自宅ニ帰リ夕食ヲ共ニシ昨日未亡人ヨリ話シノ件ニツキ不要ノ點タダス 青木君モ返事出來ズ 今夜帰ツテヨク相談ノ上明朝返事スルトノコトニ山口君泊ツテ貰フコトトス

◆◆123ページ◆◆ 昭和12(1937)年4月27日(火)

天気 雨降タリ止ンダリ

清平引越シ終ル 午後出勤 グライダーノ受注ト姫路製紐会社ゴム取引ノ件話シ合フ太田上京 ツヒデニ佐藤氏娘葬儀ニ参列サセル 七時頃帰ル 安田岩間懸命ニヤツテ居ルラシイガ會エナカッタトノコト 明日又行ク由

明治中學山田君來 飛行機曳航三回練習ス。尚中學用トシテB六型注文アリ

清水君ニ電話ス 東京高工B二型着手シテ呉レトノコトデアッタ

山口君今日一日津田沼ニ止メ居ク 宗里ノ東京ノ叔父サン來ルトノコトニ待ツタガオイ(ママ)ノデ十一時頃出カケル 行違ヒニ來タガ、第一ニテ會フ 早速話進ミ結局キマリツケル方ガヨイトノコトニ、ソレニ青木君ノ居ル間ト云フコトニナリ五月七日内内デ結婚式ヲ上ゲルコトニ決定ス。幕張ニ帰リ山口ニモ其旨話ス 本人モ正式ノ結婚式ハ金ガカ、ルカラ此際ヤリタクナイトノコトニ丁度ヨカッタ 此調子ナラ、アト経営モウマク

行クカモ知レナイ

▲▼124ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月28日(水)

天気晴

久シ振リノ快晴

グライダー製作ノ準順序ヲ工場ニ申渡ス

十時氏ニ會フ爲メ上京 ソレヨリ先大口安田氏へ行クベク上京 別ニ行ク必要モナイガ
工場ニ居ルヨリデヤツテ居イタ方ガ、ヨサソウダ

佐藤ニヨリシユプルヲ買ヒ十時氏ニ電話ス 自宅ニテ會ヒタイトノコトニ土産物ヲ買ヒ、
清水ビルノ事務所ニ行ク 安田氏一人岩間柳父両氏野村銀行ト交渉中ノ由

十時氏訪問 立派ナ家デアツタ 岡田勇氏ノ近所デ小供同土ハヨク行クトノコト。第
一ノ用件ハ發起人ノ顔触レガ株屋ト米屋バカリデ軍部ニ悪カロウカラ重役ハ注意シタガ
ヨイトノコトデアツタ 他ニ工場ノ拡張方針今日迄ノ経過其他ニツキ懇談 晝食ノ馳走
ニナリ帰途東日ニヨッタガ誰レモ居ラズ 又事ム所ニ行ク 岩間氏ヨリソコデ待ツテ居テ
呉レトノコトニ五時半迄待ツ 柳父荒瀬、岩間來 安田氏ト会见 野村ノ方九分通り
マトマリ決定的ノ返事ガ今電話デアル筈ダカラ此處デ待ツトノコトデアツタガ自分ハ東
日ニ用件アリ十時氏ノ話シダケシテ東日ニ行ク 羽太氏ト會見 山口來月七日式ヲ舉
ゲルコト 暇ヲ貰フコト諒解ヲ得

八時半頃安田氏へ野村ノ返事ヲ聞ク爲メ電話シタガマダ帰ラナイトノコトデアツタ

▲▼125ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月29日(木)

天気晴

ヨキ天長節 大觀兵式ヲ代々木ニ行ワセラル

五時半起床 ラジオ体操ヲ行フ

工場ニ行ク 大口上京ス 岩間氏ニ電話スル 明日判ヲ持ツテ九時取引所へ來テ呉レト
ノコト。後安田氏ヨリ電話アリ 同様デアツタガ昨日アレカラ銀行ヨリ人ガ來テ右ノ話
シニナツタ由 大体間違ヒナサソウニ思ワレル

中台勘定六百八十余円ニナル 国吉來 明日ヲ約ス 半分デモヨイトノコト

奈良原氏來場。グライダー曳航練習アリ

角昨日破損ノソアラ―後部修理ヲナス

▲▼126ページ▲▼ 昭和12(1937)年4月30日(金)

天気晴

總撰擧 電車デ津田沼二行キ投票シテスグ上京ス
九時五分取引所着 岩間氏スデニ待ツテ居タ 十時頃銀行ヨリ電話アリ アト少々待
ツテ呉レトノコト 十一時頃更ニ電話アリダメダトノコト 岩間君ノ話シデハ垣添支店
長ガチャ、ヲ入レタモノ 原因ハ柳父氏ニアリト云ツテ居タガ今更止ムヲ得ナイ 差當
リ今日ノ支拂ヒニ最小限切りツメタ處三千円入ル 岩間千円爲替小切手ヲ持ツテ居
テ、ソレヲ出シタガ柳父二千円出來ナイ 千円ニシテ呉レトノコトデアッタガ最(ママ)非
二千円作ル様依頼シ岩間氏ノ小切手ヲ新宿追金ニ替エ三行キスグ帰宅。急ギノモノカ
ラ支拂フ 大口ヲスグ取引所ヘト二千円取りニヤル 夜七時頃漸ク帰ル 国吉明日行ク
旨打電ス
東京高工、三百二十五円受取ル トイフエル受注
津野二会见サセル

◆▼127ページ◆▼ 5月

- 一 グライダー販賣網
- 二 軍部接近

◆▼128ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月1日(土)

天気 薄曇リ

大口上京ス 午後日比野、長両氏來 大口奔走ノ人タチ 聞イテ見ルト二三日前新
聞デアタ鋼板会社ノ人デアッタ 新聞デアタ處大辺(ママ)ヨイ様デアッタ。人柄モヨサ
ソウデ長氏ガ出資者 日比野氏ハ元自轉車ヲヤツテ藤原ヲ知ツテ居ルトノコトデアッタ。
プレス作業ヨクヤツテ居ル。スベテ話シハシテアルソウデ自分ノ意見ハ今迄ノ関係ヲ不道
徳ナコトハシタクナイガ円満ニ解決ノツクモノナラ結構ダト返事シテ居ク 工場ヲ見テ
歸ル
羽太氏ヨリ電話ニテ館山ヘプライマリー一台注文ヲ受ク
津田某來 東京飛行少年團カラ小型ソアラノ設計ヲタノマレテ今ヤツテ居マストノコ
トデアッタ。ソナコトハ無關心ニシテ雇ヒ入レテモヨイ希望ガアレバ採用スル旨申入レテ
居ク

◆▼129ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月2日(日)

天気 雨

大雨風 夕方ヨリ晴レル

昨夜吉田重雄、竹中、萩原、來宅 夕食ヲ共ニス 吉田竹中ヨツテ信太郎ニ酒ヲツイダリ、煙草ヲノマセタリ佛様ノ中ヲ酒ダラケニシタ 吉田泊リ今日夕方帰ル 妻キンノ處ヘ行ク 六時過ギ帰ル 和子宅デ待ツ 夕方モウ帰ル々々ト待チ兼ネテ居タ
朝カラ湯ヲワカサセ晝食前ト夕食前ニ回入浴ス
午前中清平トグライダー賣出シノ原稿ヲ作ル
夜佐藤孝吉來 初メテマーチヤンヲヤル 出來ソウニナツテ一回モ上ラズ仕舞 九時半床ニ入ル

◆▼130ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月3日(月)

天気 晴

快晴トナル。五時半起床 日記体操朝食出勤
一番バスニテ出勤 本日ヨリ鷺ノ巢出勤シタガ午後ヨリ引越シノ爲メ休ム
清平明治、東日、東京高工協会ヘヤル 夕方電話アリ 柳父ガ來テ呉ト云フカラ行クトノコトデアッタ。岩間安田両氏ハ事務所サガシニ出カケル由
大口運動ノ三宅又一人連レテ來ル 大口ソレニ収支予算ヲ書イテ呉レトノコトデアッタガ明日安田氏ト相談ノ上行ク様話ス
今日ハ終日イソガシカッタ。東日ヨリグライダーニ三台更ニ注文アリ 廿九日大坂(間ニ合ス様引受ケル
夕方工場員會議デ審議ス 間ニ合セルコトトス

◆▼131ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月4日(火)

天気 晴

廿六日迄プライマリ五台製作ノ方針樹立
ソアラ―翼合ワズ手間取ル
清平ヨリ電話アリ 早ク帰ル様ニ云フ 四時半頃帰ル 東京事務所円滑デナイラシイ
粕谷君ノ話シニヨルト今日十一時長氏ノ方会见申込デ來タトノコト 多分ヨイ話ダ
ロウトノコト 然シ余リコノマシイ事デハナイ 何ントカ円満ニスベテヲ運バセタイモノダ
柳父氏ヨリ明朝武田氏照(ママ)介ノ岩崎トカ云フ人ガ行クカラ宜シクタノムトノコトデアッタ
午後第一へ行ツタガ不在 夕方山口君自宅へ泊メル 青木君來 式ニ関スル打合せヲナス 妻君ニツタエサセル

◆▼132ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月5日(水)

天気 晴南風強

奈良原氏來場。新会社發起人中ノ随一竹田次七氏岩崎氏亀井貫一郎氏同道來場
正午帰ル。自分スグ上京 局二明治ノ標式ヲ貰ヒ東日二行ク予定ノ處和田氏ニ會フ 羽
太其他洲崎へ行き不在トノコトニ見積書ヲ預ケル。工場ヨリ電話アリ 日比野氏ガ會ヒ
タイトノコトノ由 取アエズ安田氏ニ電話シテ今迄ノ経過ヲ聞クコトニス。佐藤ニヨリ事
ム所ニ行キ安田氏ヲ待チ様子ヲ聞ク 資産十五万円 権利十万円 外ニ今建築氏ト柳
父氏ノ方ノ金トテ五万円 計三十万円ト云ツテ居ル由。三時日比野氏ノ事務所ヲ訪
フ 資産十万円ト云フ 長氏モ後チ來。権利ハ自分ノロカラハ申上ゲラレナイト逃ゲル
但シ目下ノ新会社トノ關係ヨリ自分カラ進ンデ此話シハ進メタクナイ 尚將來此話ノ
如何ニカ、ワラズ仕事ノ上デ提携シタイト希望ヲ述ベル。兎ニ角資産表ヲ見タイトノコ
トニ明日持參セシメルコトヲ約シテ更ニ安田氏ニ右報告シテ帰ル

◆▼133ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月6日(木)

天気 晴風強

夕方北ニカワリ急ニ寒クナル

朝財産目錄ヲ作り十万余円トナル 大口二午前中ニ持タセテヤル 尚昨夜來氣付イ
夕點ヲ書キ出シ安田氏ニ持タセテヤル

十日棟上ゲヲヤルトノコトニ準備ニ着手ス 餅ヲ中台へ 折詰ヲ関ニ注文ス

午後第一二行キ明日ノ打合せヲナシ料理屋ノ注文モナス

晝前山口ノ母トイトコ來 幕張ニモ行ク

清平柳父へ標式購入ノ説明ト明治中學東京高工へ行ク

夜大口帰り安田氏ヨリ柳へ千円へ請求 貳百円今日作ルコトニナツタ由

◆▼134ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月7日(金)

天気 曇リ

日比野氏ヨリ今夕六時自分ト大口トニ會見シタイトノコトニ清平ト大口ヲヤルコトニキ
メ返事ス。昨日安田大口ヨリ柳父ニ千円金ヲ作ルコトヲ交渉 結局貳百円今日貰フコ
トニキメテ來タトノコトニツキ非常ニ不愉快デアッタノデ大口ノソソナコト貰フナイ様ニ
サセル 安田氏大口ノ氣ヲ悪クサセナイ事モ考ヘネバナライノデ大口ニハ二百円位貰
ツテモ何シモナライカラ、コトワレト云フコトニス。粕谷入用トノ金五十円八明日東
日ヨリ入ル金ニテ支拂フコトヲ約ス

午後帰宅 抱一ノ晝ヲ表具屋へヤル。山口四時頃來 母昨日ヨリ氣分勝レズ今夜ハ式

ダケニ列シ宴会ニ出ラレナイトノコトデアッタ 六時半自動車來 七時第一着 式ハカ
ンタンニ終リ鈴木館ニ行ク。山口側ニハ母ト眞野君 静枝側ニハ母、叔父二人太郎及太
郎氏ノ養母、青木夫妻以下小供全部。御嫁サンハ案外ハヅカシガラナイニハ安心ヤラ驚
イタリ

十一時帰宅 無事終了 清平十二時帰ル

▲▼135ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月8日(土)

天気 晴小雨アリ

清平局ト東日ヘヤツタガドチラモ用ヲナシ得ズ

粕谷君來 昨日事ム所ニテ岩間氏式百円持參サレシヲ大口君ハ自分ヨリ金ヲ受取ルナ
ト云ヒ渡シテ居タ處折角岩間氏が苦心シテ作ツタ事デアアルノデ安田氏が預テ居タガ、
當分借りテ居クトノコトデアッタ。何ントデモ理クツノ有ルモノト感心シタ

鳥飼氏來 結局東京デ仕事ヲシタイガ池田ニハ金ノ事ハ話シテ呉レルナトノコト 僕ノ
方ノ千円ト政夫カラ千円程出シテ貰フツモリトノコト 六月中頃ニハ金ガ出來ル予定ト
話シテ居ク

正午山口夫妻田舎ノ母挨拶ニ來 心配シタ事モ顔色ヲ見テ安心シタ

▲▼136ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月9日(日)

天気 晴

快晴 氣持ヨシ 午後風強クナル

奈良原會長大坂ヨリ帰ラル

八時工場ニ出ル プライマリー四台廿五日迄ニ完成予定ヲ作成 三河ト佐藤ヨリ材料
着

明治中學ノグライダー完成ス 明日名命(ママ)式アリ 近藤外一名組立ノ爲メ朝出
張

五時帰宅 錦魚ノ玉子ノ流レ出サナイ様金網ノ取付ヲ作ツタリ盆栽ノ手入レヲ少シヤ
ル

▲▼137ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月10日(月)

天気 晴

十一時工場ニ出テ町議撰舉ニ行ツタガ権利ナク第一ヨリ今夕ノ事ヲ打合セ上京 東
日ニ行ク 大藏奈良原氏居ラレ会谈 清平明中ノ金受取ツテ來 共ニ明中グライダー
命名式ニ參列 四時終ル 清平先キニ帰ヘス

更ニ東日ニ行キC二ノ書類ヲ羽太氏ニ渡ス 明日プライマリー金呉レル由 飛行館ニ行ク 出席者相羽木暮欠席 其他ホトンド出ル 然ルニ主賓ノ青木ツヒニ來ラズ 電話シタガ病氣トノコト 決結(ママ)山口ノ照(ママ)介ダケニナツタガ盛会デ十時散会
山口ノ話シニヨルトヤハリ川北面白クナカッタ由 青木氏ノ前デガント申渡シタ由 ソレモヨカロウ

▲▼1388ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月11日(火)

天気晴

電話ノクジガアツタガ當ラナカッタ

午後一時ヨリ上棟式 少シオクレル 祝物ガゾク、來タ 予期シナカッタガ別ニ御返シノ心配モナイトノコトニ今日ノ折詰トモチヲ配ル。柳父、荒瀬、岩間、安田諸氏其他数名來場 盛会デアッタ

野呂君羽田ニテ重傷 大月病院ニ入院ス 安岡見舞ニヤル

東日ヨリ六百円受取ル 代引ノ品全部引取ル

▲▼1399ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月12日(水)

天気晴

朝木下氏ヨリ電話アリ 午前二時頃野呂君死亡セリトノコト 竹中ト清平ヲヤリ午後自分行クツモリデ上京シタガ行ケナクナル

正午青木、山口ヲ航空局へ同道挨拶ヲサセル

東日ニヨル C1最(ママ)非出シテホシイトノコトデアッタ 急グ爲メコンプレッサヲ買ヒニ行キ四時受取リスグタクシーデ津田沼迄帰リ上野ニ取付ケヲサセル。他ノ羽根モダメデアッタ由。東日ヨリ更ニ電話アリ 大坂ヨリ修理ヲ持ツカラ最(ママ)非出シテ呉レトノコトデアッタ

▲▼1400ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月13日(木)

天気晴

清平木更津へ出張サセル

工場出 京都カラ來タ林ガ吹付ケヲ二年バカリヤッタ事ガアルトノコトニヤラセルコトニシタ

一時頃竹中ヨリ電話アリ 三時カラ野呂氏ノ告別式ヲヤルトノコトニスグ出カケル 金ガ足ラナカッタノデ香奠十円ダケシカ出來ナカッタ 丁度三時十分着 父母姉弟ニ會フ 式後火葬場迄行キ六時四十分終リ出ル 更ニ寺迄送り焼香シテ帰ル。丁度十時ニ

ナル。大坂カラ玉木ガ來テ八時迄居タガ九時東京発列車デ帰ッタ由
木更津二百五十円受取り 五十円清平持ッテ 上京シタ玉木ヲ送ッテ行ッタトノコト
トノコト

▲▼141ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月14日(金)

天気 曇後雨

昨夜玉木ヲ送ッテ清平上京 午後三時頃研究所ヨリ電話アリ ゴム板ヲ買ッテ帰ル様
命ズ 八時過ぎ帰ル 丁度ウマイゴム板ガアッタ

矢野負傷シタ日 一週忌ニナル 明後日寺デ御経ヲ上ゲテ貰フコトス

吹付ケ午後二ナッテ漸クウマク行ク様ニナッタラ雨ガ降り出シタ。急グ仕事ニナルトマダ
一寸モ目ガハナセナイ

奈良原氏來場

夕方ノ便デ佐渡島ヨリ手紙來 オコッテ來テ居タ ト云フヨリ自分ノ身ヲ考ヘテ注(ママ)
告シテ來テ呉レタモノデアルガ、スグ行ク事ガ出來ナイノハ残念デアル

▲▼142ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月15日(土)

天気 晴

思ヒガケナイ上天気ニナリC2型ノ塗装ガウマク行ッタ C1ノ修理モ順潮 明日C2
性能検査ヲ行フ予定山崎氏ニ知ラセル

清平立川へ 帰リニ横河電機見学ト渡辺ニ會フコト

野呂君遺骨今夜七時上野発帰ル由 安岡見送りニヤル

▲▼143ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月16日(日)

天気 曇リ小雨

ソアラ完成 清水、羽太、山崎、奈良原氏來 夕方竹中一回直線飛行ヲ行フ 成績
良シ 方向舵ヤ、キ、悪イトノコト

C2修理進ム

夕方鈴木館ニ行キ清平ヲ加ヘ六人食事ヲ共ニス 初メカラ終リ迄笑ヒ通シデ客モ藝者
モ女中迄大満足 十一時帰宅 途中工場ニヨル マダヤッテ居タ 少年工ガ多カッタ。
之レハイケナイコトデアル

▲▼144ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月17日(月)

天気 晴

南南東五六米ノデ絶好ノ試飛行日和 正午蓮見氏來場。C2ヨリ初メC1ニテ終ル
四時半終了。プライマリーニ機内部検査終ル 成績ヨシ
奈良原氏來場 昨夜羽太氏大気嫌ニテ將來モ引續キ他へ注文ヲ出サナイデ呉レル由
今日ハシカシ急(ママ)ガシカッタ 夜七時迄工場ニ居ル 荷造函ヲツクラセル

▲▼145ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月18日(火)

天気 曇風強

昨夜荷造リツヒニ徹夜シタ由 ドウモ箱ガウマク出來テ居ナカッタノデ一部ヤリ直サセ
ル 四時迄三品川へ着スル様トノコトニ手配シテ清平ト上京。局ニ行キアトノ廿四日ノ完
成検査ノ件廿日ノ内部検査南波氏ト相談ス 内部検査ヲハブイテ廿四日ノ完成検査
ダケニナル

羽太氏ト東日デ会フ 清平モ來タガ特許局ノ方ノ話シニ行ク 五時半漸ク荷物品川ニ
來リ竹中社へ來 C1ノ胴体下ヲ破損シタ由。C1ノ金明日貰エルコトニシテ帰場

▲▼146ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月19日(水)

天気 晴

廿四日完成ノ内(ママ)合セ会ヲナス

日本飛行機ヨリ使アリ 黒沢ノ件ニツキ多田サンガ會ヒタイトノコト 本日午後三時カ
ラ四時迄ニ行クコトヲ約ス

上京 東日ヨリC2ノ残金七百五十円受取り内式百円清平ニ渡シ米井商店へ支拂ヒニ
ヤル

山本順平大佐ニ海軍省デアフ 一寸立會デヨク話セナカッタガプロペラ木製ハ目下過剩
状態デ見込ミナイトノコトデアッタ。再会ヲ約シ航空青年團ニ行ク カギガカヽッテダ
メ 貧弱ナ事ム所デアッタ。日本飛行機ニ行ク 多田サンニ會フ 黒沢止メルコトニツイ
テノ話シデアッタ。多田サンモウマク行カナイノデ大分元氣ガナカッタ

柳父氏ト打合せ 廿一日午後十時出發ノコトニキメル 丁度羽太氏ナド同車デアッタ
買物ヲシテ工場ニヨリ帰ル 八時

工場ノ仕事ヲキメルコトニアセル氣持チヲ生ズ

▲▼147ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月20日(木)

天気 曇強風

秋田氏ニ新会社ノ諒解ヲ得ル爲メ上京 久シ振リデ会见 スグ諒解ヲ得 二十分程会

談シテ取引所ニ柳父氏訪問 寢台券ヲ渡シ明日ノ打合セヲナシ航空本部ニ有馬少佐ヲ訪ネグライダーノ件ヲタノミ中川少将ニ會フ 種々懇談ノ結果ヤハリ板野中佐ニ万事相談セヨトノ結論ニ達ス 之レニ対シ何ガヨイ方法ヲ講ゼネバナライ。ペラノ件聞クノヲ失念ス。大日本青年航空團本部ヲ訪問 今日ハ主任ノ摺沢大佐(予備歩兵)ニ會フ 何シニ飛行機ノコトヲ知ラナイカラトノコトデアッタ 目下毎週一回ヅ、理事会ヲ開キ会則ナド決定中ノ由。事ム所貧弱ナノデフト秋葉原ノ事務所ヲ思ヒ出シ、岩間ニ會ヒ共ニ取引所ニ行キ相談 有馬サンニ電話シテヨロシケレバ荒瀬氏ニ電話スル様話ス 二時帰場 梅川ノ胴体作業不良

◆▼148ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月21日(金)

天気 雨

終日雨 午後二更ニ大雨トナル中ヲ神風羽田ニ着 偉ナリ

プライマリー四台完成ノ件 其他不在中ノ事ヲ打合セル 四時半帰宅 仕度ヲナシ八時半宅ヲ出テ幕張ヨリ乗車

寢台車ハ偶然羽太氏等トトナリ合セデアッタ

◆▼149ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月22日(土)

天気 晴

九時大坂着 柳父氏ヲ梅田ホテルニ送り帰宅 西店ト連絡ヲ取り行ク 柳父氏ハスグハ困ルトノコトニ一人行ク 結論ハ営利本位デアラシタカラ国家本位デアレトノコトデアッタ。ソウユウ西店ノ氣持ハヨク分ルノデ、軽飛行機クラブノ名誉会長ニデモ推舉シタガヨイト考ヘル。兎ニ角柳父氏ニ會ツテ貰フコトニス 丁度中山氏モ來 中ノ島ノ末広ニテ會見。古イコトカラ話シ出シテ営利本位デナク国家本位デヤル様ト希望ヲ述ベラル。終ツテ自分ハ大毎ニ行キ撰手達ト共ニ楯津ニ行ク。帰リテ柳父氏ニ電話シタガタ方マダ帰ツテ居ナカッタ。夕食ハ新世界デア喰ヒ十時奈良原山崎両氏ヲ梅田駅ニ迎エニ行ク

◆▼150ページ◆▼ 昭和12(1937)年5月23日(日)

天気 曇リ雨

五時四十分起床 ラジオ体操後柳父氏ニ電話ス 今日ハ他ヘ行クトノコトニ楯津ヘ奈良原山崎氏ト云(ママ)ク 七時過ぎ着 八時ヨリ予定通り開会式 十時半頃終了 晝食後一時ヨリセコンダリーノ競技開始セルモ雨降り出シ八田君ノ三番機デ中止トナル 後又止ンダガスデニ散会后デアッタ ヤレバ今日中ニスマセルコトハ出來タノダガオシカッタ

夜清水山崎奈良原氏ニ柳父氏ヲ迎ヘ牛肉デ食事ヲ共ニス。柳父氏明朝八時デ名古屋ヘ立寄り帰ル由 今月末金ノ件話シテ居ク 勿論先月末ノ残りノ件ハ柳父氏モ心得テ居ルノデ心配シテ居ルトノコトデ拂込デ來ル由

▲▼151ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月24日(月)

天気 雨

セコンダリー組降ツテモヤルトノコトニ奈良原氏楯津ヘ 山崎氏ト自分ハ川西見學ニ行ク 梅田駅前デ北尾君ニ會フ 十時川西着 小野氏進藤氏ニ會フ 海軍監督官ガ自分ニ會ヒタイトノコトニ會フ 約一時間話シ見學ニ写リ小野氏ノ実験室ダケデ晝ニナリ晝食後工場ヲ見學 鋼管胴体ノ治具ヲ見參考ニナル デニアルミノスパー製作方ハ実ニ原始的ナヤリ方デアッタ 二時自動車デ送ラレ帰坂 大毎ニヨリ松下氏小西、利根川君等ト生駒へ行ク 五時ニナル 山ノ家ニ這ル 夕食ニ大市ヘ出カケル 審査員ノ連中ノ處ヘ奈良原氏ズン、行クノデ氣ニナツタガ、ツイテ行ク 羽太君寢テ居テ來ラズ 食事ノ事デ城高氏外二人ハ下山ス。アトノ人等ニ自分ヨリ魚ノスキヤキヲ馳走シ三十円余リフィニス 途中羽太君來タガ朝日ト比較サレテ評判悪ルカッタ

▲▼152ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月25日(火)

天気 晴

今日ハダメノ予定ガ朝カラ快晴トナル 風弱ク四米ガ最高デアッタガ明日明後日ハ尚悪イ見込ミノモト二十二時出發サセルトノ命ニ竹中第一番機トシテ十二時丁度出タガ三分間程デ余リ上昇ヲアセリ上舵ヲ取ツタ爲メ失速 ブリルトナリ山中ニ墜落 機大破セルモ負傷ナク、セ骨ヲ打ツテ居タノデ心配シタガ骨折、脱臼等ノ事モナク安心 五時過ギ帰宅ス 新世界ニテ入浴 夕食後清平カラ電話シテ呉レトノコトニ八時電話カケル 東日ト、木更津ノ通航証明書ノ事デアッタ。ツマラナイ事ダガ分ラナイラシイ。佐野清三郎來 十一時過ギ帰ル 川西ノ内部ノ話シヲ聞ク。アンマヲ取ル 山カラ降りルノデ非常ニツカレアンマヲ取ル 東日大坂ヘプライマリーニ台品川ヨリ發送

▲▼153ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月26日(水)

天気 雨

ドレー機ツヒニ失敗 誠ニ御氣ノ毒ニ堪エナイ

朝生駒山ヘ電話シテ奈良原先生ニ來テ貰フ。其間散髪ス 十時ヨリ竹中ノ見舞ニ行ク 元氣ニナツテ居タ。大毎ニ行キプライマリー發送ノコトヲ話シ金ノ事ヲ頼ムツモリノ處

羽太氏不在ノ爲メ中止シ朝日ニ挨拶ニ立寄ル 中島氏ト小西重役ニ會フ 其他ノ人々ハ今日ハ急(ママ)ガシイノデ会ワズ 佐渡島西店へ同伴。会谈ノ爲メ奈良原氏ヨリ佐渡島氏ニ名譽會長ノ件ヲ御願ヒス。シキリニ辭退サレタガ御願シテ居ク。三時帰宅 五時社へ電話シテ羽太氏ニ金ノ件タノム。明日山ノ支拂ヒ工場カラト兄カラ十円ヅ、借リテ居ク 昨日見晴シテ奈良原先生大分氣前ヲ見セタ由 困ツタ事ダ
昨夜アンモモマセタノガ悪ク今日足ガイタクテ困ル
夜兄等ト新世界ニ万歳ヲ聞ク 面白カッタ 十一時半床ニ入ル

▲▼154ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月27日(木)

天気 晴

八時生駒着 先日世話ニナッタ倉外科へ礼ニ行ク 金ヲ取ラナイノデ五円置イテ、前田氏ニヨウカン一折ヲ求メテ山ニ登ル
車中和田氏ト一所ニナル 九時雨ノ爲メ中止ト決定 午後一時ヨリ盾津ニテ賞品授與式ヲ行フ

山ニテ小栗、橋本先生ニ會フ

清水Cニニテ一等トナル B組ハ大坂ノ大久保 霧ヶ峯ノ武石、三等ハ利根川君 使用機体ハ一等ハイツレモ幣(ママ)所製品

楯津ニテ井上長一ノフライイングボート墜落 五名即死ノ報ヲ聞ク 中ニ中前政ニモ這入ツテ居タノデ取アエズ道頓堀ノ事務所へ奈良原氏ト共ニ行ク。五時五十七分ニテ奈良原氏名古屋へ行ク 明晩八時半ノ寢台券ヲ買ツテ居ク

▲▼155ページ▲▼ 昭和12(1937)年5月28日(金)

天気 晴風アリ

朝來 西風七八米アリ 晝前楯津ニ行ク 玉造駅ヨリプライマリー運送中デアッタ。駅ニモ行ツテ見タ 翼ナドウマクハ積ンデアッタガ小骨ガ数本折レテ居タ。ヤハリ杵ヲ作ラネバダメダ

一時ヨリソアラ飛ブトノコトデアッタガ一時半一機飛行 ダンダン高ク昇ル 又一機上ル 又一機出タトノコトニタマラズ生駒ニ登ル 最后ノ一機ハグリコ號デ墜落大破 松本操縦士ハ頭ニ負傷シタガ大シタコトハナカッタコトハ幸デアッタ 前田氏ニ見舞ヲ述ベルアトハ中止シタ由 二機ハ先キガ志鶴アトノガ清水デアッタ マダ飛ンデ居タ 四時二十分ニテ下山 スグ大毎ニ行ク 五時十五分大蔵ニ會フ 時間切レデ金取レズ明日ニ出発延期ス。竹中ヲ見舞ヒ帰宅 スグ寢台券ヲ明日ノニ替エテ貰ヒヤル 其マ、取替テ呉レタ

◆▼156ページ◆▼昭和12(1937)年5月29日(土)

天気 晴

九時半大毎着 羽太氏十時半出社 六百円受取ル 和田氏ト共ニ楯津ニ行ク。丁度式ガ初マツタ處デアッタ 終ツテ、プライマリーノ組立初マル
晝食後井上ノ殉職者葬儀ニ行ク 四王天サント同車ス 車中根岸、小暮、浅見ニ有功章ヲ送ルコト、評議員ヲ奈良原氏二代エテ貫ヒタイトノコト等ヲ話シテ居ク 葬儀ハ丁度弔辞中デアッタ。入口デ藤井靖造氏ニ會フ シバラク話ス中清平突然來 如何ナル重大事件ガ起キタカト思ツタラ木更津ト聯盟ノ堪航証ガマダ出ナイトノコトデアッタガ之レハツケタリデ重役ニナル件ニツキ兄カラ自分ニ話シサセル爲メニ來タラシイ
竹中ノ入院料ヲ支拂フベク行ク 丁度父ガ來テ居テ、ツヒニ拂ワセナカッタ 大毎ニ行キ堪航証ノ件ト写真ノコトヲ話シ大蔵ガ居レバ広告ヲ頼ムツモリアッタガ、ドレヲ迎ヘニ行ツテマダ帰ラズ 止メテ帰ル。夕食後七時発ニテ帰京 久次郎同道ス

◆▼157ページ◆▼昭和12(1937)年5月30日(日)

天気 晴

六時三十五分東京駅着 久次郎ヲ秋葉原迄送リソレヨリ岩間氏訪問ス 株申込正式ニアッタノハ発起人中竹田氏一人トノコト 明日ノ金ノ件金額ヲ減ジルガ準備シテ居ルトノコト。正午帰場。荒瀬氏ニ名連レテ來テ居タ。株主候補ラシイ。終ツテ三島ノ新聞記者三名來場 御殿場カラ來ルノカト思ツタラ、ソウデナク広告料ヲ要求サレタノデ酒肴料トシテ三十円包ンデヤル 馬鹿ヲ見タ 夕方帰ル。国吉來 明日ニ二時頃津田沼へ來テ貰フコトトス

◆▼158ページ◆▼昭和12(1937)年5月31日(月)

天気 晴

時事 林内閣総辭職ス

八時工場出 大口君ニ税金ヲ持タセテヤリ安岡洲崎行キ二十円渡ス 十時半取引所ニ行ク 事ム所ノ方ニ皆居ルトノコトニ行ク 岩間、柳父両氏ダケデ清平山東君ナド待ツテ居タ 柳父居ラズ 晝頃取引所へ來テ呉レトノコトニ行ク 金出來テ居ナイトノコトアキレタガ、アキレテモ居レズギリ、四時十五分マデカ、ツテ漸ク新職工ノ分トシ千五百円ダケアルトノコトニソレニ持合セノ百六十円ヲタシ清平ヲ工場へ急ガセ大口ニ六電話デ其旨ツタエ善所サセル 尚アトノコトニツキ、明日岩間氏ト相談シタイトノコト。川辺君來 取引所付近ニテ會フ 坂本ガ最(ママ)非自分ニ會ヒタガツテ居ルトノコト スデニ三百万円現金ガアルトノコト。然シ之レハ一寸ヨルノデ、小野金六ト云フ一人デヤレル

人ノ方へ話シテ貰フコトニキメル 但シ二人キリノ極秘トスルコト
佐藤氏ニヨツタガ不在 坂東氏幸ヒ上京中トノコトニ山王ホテルニ行クガ不在 明日會
ヒタイ旨書キ居イテ帰ル 五万円融ヲタノンデ見ルツモリ

◆▼159ページ◆▼ 6月

(一) 会社創立 事業ニ直進

◆▼160ページ◆▼ 昭和12(1937)年6月1日(火)

天気 雨曇リ後晴

今朝一時的切り抜デ時局轉換資金トシテ有ノマヽヲ訴へ坂東氏ノ義氣ニスガル爲メ五
万円融通ヲタノンダガ入レラレナカッタ 四日頃再ビ來京スル迄考慮シテ居クトノコト
出發間ギワデ二十分ノ会见デ分レ、取引所ニ行ク 今日ハスベテ志トチガウ 夕方ニナ
リ漸ク五十円程度ノ高利デ柳父岩田三人連帯デ借リルコトニキメタガ明朝岩間交渉
ノ結課(ママ)ヲ柳父氏電話スルトノコトデアッタ。岩間ノ態度ハ大坂帰りテ以來大分違
ツテ來タ様ダ。佐藤氏ニ会フ 会社百万円トシテモ尚物件出資ヲ未拂込ニ直サネバ出
來ナイノデ其相談デアッタガ之レモ出來ナカッタ。工場トシテハダキ込株ナドナキ完全
ナル新会社ガ出來テ初メテ合流スベキデソレ迄固ク持シテ居ラナケレバナライナイトノ見
解ハタシカニ相違ナカッタ。自分ナガラ少シ、アセリ気味デアッタ ココラデ冷静ニ考へネ
バナライナイ
夜大口來 兎三角多少ノ金融ヲ必要トス

◆▼161ページ◆▼ 昭和12(1937)年6月2日(水)

天気 晴

終日在所 大口上京 買物ヲタノム
十一時半約束ニヨリ取引所へ電話スル 柳父ト丁度岩間根本問題ニツキ相談中トノコ
ト 今朝金策ノ方行ツタガ伊藤名議(ママ)デハ貸サナイトノコト 勿論自分ガ借リル性
質ノモノデハナイ 昨日ノ約束ノ如ク三人連帯トスベキデアル 尚ヨク依頼シテ居ク 然
シ何ンダカ返事ガ、アイマイデアッタ 自分ニ対スル態度ガ大坂帰り以來何ントナク氣
ニ入ラナイ 彼二人デ何事モ出來ルト思テ居ルラシイ 此マヽノ考へデ成立サセテハ將來
禍根ヲノコスモノト考へネバナラヌ 終日待ツタガ其後何等ノ電話モナシ
大口六時迄ニ帰ル筈ノ處ツヒニ帰ラズ不安ツノル。万一不成立ノ場合ノ対策考慮ヲ要
ス

尚サシ當ツテノ五日ノ支拂ヒニツキ如何ニスベキカ。万一不成立ノ場合二三ヶ月ノ金融
ヲ要ス

◆▼162ページ◆▼ 昭和12(1937)年6月3日(木)

天気 晴

八時出所 其前色々会社ノコトニツキ考慮ス 岩間氏二十一時事務所デ会フ約束ヲナ
ス 十時ヨリ航空局ニヨリ横須賀拂下代金五円ヲ拂ヒグライダー堪航証ノコトヲ聞ク
マダ木更津ニ聯盟モ一ツモ出テ居ナカッタ。書類ガ出テ居ナカッタ

事ム所ニ行ク 居ラズ 取引所ニ來テ呉レトノコトニ行ク 柳父株数控ノ様ナモノヲ広ゲ
百万円モ六ヶ敷ノデ八十万円ニシタイトノ話ノ中へ福西、山田、塚本三氏來。柳父氏
其書類ヲ福西氏ニ示シ八十万円ニシテモ尚千株不足ニツキ小川サンニ最(ママ)非持ツテ
貰フ様尽力サレタシト懇願シテ居タノデ、岩間氏ヲ呼び出シ、自分ニマダ相談シナイ中
ニ他ノ人二十八万円スルトカ発表スルコトハ不都合千万デアルトノ立(ママ)前ヨリ自分ノ
意見ヲ述べ自分ニ小川サンへ道同(ママ)シテ呉レト福西氏ヨリノ希望デ同道ス 会談一
時間程ニテ芝デ分レ新橋駅ニテ岩間氏ト御茶ヲノミ左三件ヲ柳父氏ニツタエテ貰フコト
トス。(一)完全ニ拂込ミヲ済スコト (二)会社成立ノ期間ヲ定メルコト (三)会社成立
迄融通資金ヲ出スコト (四)百万円以下ニシナイコト 成ベク百五十万期(ママ)定方針
ニテ進ムコト 以上四ヶ條ヲ提出シテ分レ、考慮ノ上一應安田氏ニ話シテ居ク必要アリ
安田氏へ行ク 丁度大口ト表デ一所ニナル。五時半安田氏ヨリ取引所へ電話カケテ見
テ貰フ 柳父氏不在ノ由ナリシモ荒瀬、岩間兩人マダ居タトノコト 柳父氏モ居テ相
談シテ居ルコトダト思ワル

表ニヨレバ現物出資四千株トシ外二千株ダキ株ガアルコトニナツテ居タ コレデハトテモ
仕事ガ出來ナイ

◆▼163ページ◆▼ 昭和12(1937)年6月4日(金)

天気 晴

風ヲ引タラシイ 二三日來ノ習慣ニナツテ三時頃目醒メ会社対策ヲ考慮 五時頃ヨリ
又眠ク六時二六一寸起キニクイガ我マシシテ体操ヲ續ケル

中台へ支拂ヒト外ニ余分ニ借りラレタラト思ツテ同氏ノ弟ニ話シテ貰フコトトシタガタ
方出來ナカッタトノコト

奈良原氏ト上京 局ニヨリ南波サンニタノシテ明治ノ堪航証出シテ貰フコトニキメル。

飯沼渡辺ニ会フ 飛行館ニ同道ス。清水仁郎氏ト奈良原氏ト会见 食事ヲ共ニシ江戸
川地均シノ高島ノ件ニツキ協議 清水氏ノ話シデハ相當努力シテ居ラレ現ニ、ワカモト
ト有望ナ話シガアルラシイ。ソレニ加エテ局ノ許可有リ次第飛行場奨励金ノ申請ヲスル

コトニキメル。帰途奈良原氏ニ船橋ノ長島君ニ一千元カ二千円融通方話シテ貰フコトトス
帰所シタラ松野氏ノ照(ママ)介デ出資シタイ希望者ガ來テ居タ。帰ルト同時二千葉ノ
大立目氏來 東金銀行ヨリ出資又ハ借入ノ件ヲ話シス
柳父ヨリ電話アツタ由 清平ヲヤル。明日午後一時來テ呉レトノコト。安田氏ヨリ電話
ニテ柳父氏ガ僕ト同道竹田サンヘ行ツテ貰ヒタイトノコトノ由 止メルコトトス。水野、
帝国少年團明朝会ヲ約束ス。川辺君來タリタル由

▲▼164ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月5日(土)

天気 晴

朝国吉來 工場ニ出テ清平ノ出勤オソクジリ、ス 十時前工場出スグ出田氏訪問
津野君設計ソアラ―製作注文ヲ受ケル 予算九百円ノ由 圖面ニ水野ニアルトノコトニ
電話ヲカケテ居イテ貰ヒ美津濃ニ行ク 中村氏ニ會ヒ圖面受取ル 提携問題ニツイテハ
水野支配人下坂中ニテ帰京後相談スルコトトス 東日ニ行キ羽太氏ノ帰リヲ待ツ間柳
父氏ノ回答ヲ取ル必要アリト考ヘ手紙デ催促スルコトニ安田氏ト打合ス
五時前羽太氏帰り出田ノ水野ノ報告ヲナシ明日鈴木ノ葬式ニ來ル由 自動車ノ代ト
荷造材料代受領書ヲ預ケ帰ル。川辺ト會フ爲メ中央亭ニ行ク 約小一時間待ツ 大
口今日行ツタ由。日比野ノ方カラ書類ハ川辺君ガ受取ツテアル由 大口ハ自分ニ、カク
シテ其事ヲ知ラセナカッタアマリ潜航運動モ面白クナク川辺ハアク造(ママ)坂本ト合流
ヲ進メ小野サンハ知ラナカッタガ坂本ノ方ノ社長ニナル人ダトノコト 予定ノ筋書キラ
シイ

▲▼165ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月6日(日)

天気 雨曇リ

柳父ニ手紙出スコトヲ止メ十時工場ニ行キ氏ニ電話シテ來テ貰フコトトス スグ行クトノ
コトデアッタ
一時半頃來 十時氏同道 スグ眞意ガ讀メタ。十時氏シキリニ進行係リヲツトメラレル
然ルニ先ヅ財産價格ヲ八万三千余円ヲ柳父ハ發起人会デ八万円ト云ツタカラ、ソレ以
上出セナイト云フコトデ一モンチヤクアリ 結局八十万円デ四分ノ一拂込ニシテ成立
サセタイ 現物出資ノ四十株ガ万一不要デアレバ柳父ガ三千株拂込ニ対スル時ノ爲メ
買契約シテ居イテモヨイトノコト ソレデ尚二千式百株ノダキ株ハ止ムヲ得ナイガ此際
最(ママ)非成立シタイカラ承知シテ呉レトノコトデアッタ 之レデイケナケレバ止メルト
ノコト 暗ニオドシノツモリラシイノデコチラモ驚イタツモリデゼヒ成立サセテ貰ワネバコ
マルト表情荒クニツテ居ク 明日午後返事シテ呉レトノコトデアッタ

三時十五分ニナツタノデ自動車ヲタノミ寺へ積田君ノ告別式ニ行ク 其自動車デ駅迄送ル。帰ツテ明朝辨ゴ士ニ相談スル準備ヲト、ノエル
飛行少年團カラ電話 事ハ山崎氏デヨイカラ九百円デ作ツテ呉レトノコトデアッタノデ
山崎氏ニ電話デ其性能等ヲ一寸聞ク
夜大口ニ右報告シ東金銀行ヲ促進サセルコトトス

▲▼166ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月7日(月)

天気 晴後雨

時事 信太郎一週忌

七時宅ヲ出テ八時半巢鴨ノ春沢辨ゴ士ニ会フ 十時半迄居テ今迄ノ会社ノ成行ヲスツカリ話シタ處別ニ問題ハナイカラ止メタ方ガヨカロウトノコトデアッタ。尚自分モ心當リガアルカラ話シテ見様トノコトデアッタ 工場財産目録ヲ居イテ出田氏ニ行ク 洲崎ヘ行ツテ居ルトノコト 十一時十分デアッタノデ財部氏ヘ車ヲ飛ばス 十一時半大口先着シテ居タ。財部氏ノ話シデ當方ノ希望ヲ出シテ貰ヘバソレニヨリ契約ガ出來タラステ内金トシテ必要ナ金五万位六出サセル。ソレハ一週間以内ニキメルコトガ出來ルトノコトデ將來ノコト迄何カト話シガアッタ 非常ニハツキリシタ話シデ信用出來ソウデアッタ。晝食ヲ進メラレタガ急グノデ大口ヲ残シ出田氏ニ行キB七契約シ四百円受取り東日ニヨリB七受注ヲ報告ス 津野ノ設計圖ハ出田氏ヘ返ス 東日デ自動車代ト荷造費ヲ貰ヒ川辺來 奈良原氏ニ會フ 川辺シキリニ坂本ノ方ヲ進メルガ發起人拂込ミガアルノハ君ガ見タノカト聞イテ居タガソレハ見ナイトノコト聞テ明日會ヒタイトノコトデアッタ。五時工場ニ歸ル 皆寺ニ行ツテ居タノデスグ行ク 鳥飼氏モ來 泊ル

▲▼167ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月8日(火)

天気 雨

本格的ノ梅雨トナル

今日ハ終日自宅ニ引コモリ柳父氏ニ対スル解消問題ニツキ研究 解消理由書ヲ作ル
財部氏ニ対スル條件ニツキ考慮ス 尚明日提示ノ予算書、其他ヲ整理ス
清平上京 府學務課ヘヤル スデニ六台発注シタ模様トノ事 川辺君ヲ津田沼へ連レテ來テ大口ガ財部氏ヘ行ツタ件ノ諒解ヲツケサセ様ト思ツタガ會エナカタ由 夕方明正午白木屋前ノ塩瀬へ來テ呉レトノコトデアッタ由
財部氏ハ夕方五時ニ來テ呉レトノコト
今日ハシンミリト落付クコトガ出來タ

▲▼168ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月9日(水)

天気 雨

今日ハイソガシカッタ 清平ヲ所沢ノ拂下ニヤリ大口ハ友田ト財部へ 自分ハ航空局へ明
中ノ記録ヲ持ツテ行ク。佐々木氏ガ居ラレタノデ和田サンニ帝大ノ試作ヲタノンデ貫
フ。スグ快諾シテ呉レタ 丁度帝大ノ學生ガ課長ノ處へ其補助金ノ事デ來テ居タノデ
会フベク待ツタ 中々話ツキズ。川辺カラシキリニ急イデ來ルノデ齋藤氏ニ依頼シテ帰
ルコトトス 森サン本日限り局ヲ止メ新国際航空会社へ入社 伯林へ駐在ニナルトノコト。
津田沼飛行場ノコトヲ聞ク マダ未定トノコト 運動スレバ余地アリトノコトデアッタ
局ニテ井上長ニ會フ。坂本ト新橋三河屋ニテ会见。川辺ノ話ト同ジデ何等進歩シタ
話シハナカッタ タゞ重役株五百株ニ対スル証コ金一千弍百五十円ノ拂込受取書ヲ見セ
タコト 野村東京支店ニナツテ居タ。小野氏所長 松岡氏ホトンド出ストノコトニ其両
氏ニ會見サセテ呉レ 其レデ我點(ママ)ガ行ツタラ大ニヤロウト返事シテ居ク
東日ニヨリ府學務課ト聯盟ニ聯絡ヲ取ルコトヲ進言シテ居ク
三八一頁へ

(381ページへ続く)

▲▼169ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月10日(木)

天気 晴

秋ノ様ナ快晴 朝眠ク七時半起床
柳父氏ヨリ毎日電話アリ今朝モ又電話アリ 安田氏午後一時來ル由ガ四時半頃來
朴春琴交渉中ノ一ニ名同道 ソレ等ハ帰ツテ貰テ自宅ニ行キ解消問題ニツキ協議 コチ
ラカラ解消ヲ希望スル書類ヲ出スコトハマヅイノデ大坂カラ四千株ニ直スコトハ不讚(ママ)
成デアルコトト三千株買取問題ハ柳父氏ヲ信用出來兼ネ理由ヲ明日岩間氏へ話シテ
貰フコトトナル 八時頃帰ル
朝坂本飯沼ナル人ヲ連レテ工場ヲ見タダケデ帰ル 何モ話シハナカッタ。山東氏事務
所ヲ引上げ來ル
財部氏へノ二十五万円氣ニナツタガ大口ハハッキリ云ツテ來タトノコトデアッタ

▲▼170ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月11日(金)

天気 晴

近頃朝眠ク六時ノラジオ体操ニヤット間二合フ
午後安田氏宅へ岩間荒瀬両氏会同 夜電話ニテ明日四人デ会见シタシトノコトデアッ
タ

安田氏照(ママ)介ノ家具屋來 必要品ダケ見積リヲ取ルコトトス

清平明治ノ堪航証取リニヤツタガ明治ノ方デ定置場ヲ定メナカッタ爲メツヒニ貰エナク

ナツタ由

▲▼171ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月12日(土)

天気 曇り小雨

大口千葉へ早朝ヤツタ 貸金ノ方ハダメデ出資ノ方ノ話シ中ノ由
財部へ八時頃電話スル スグ來テ呉レトノコトニ大ロヲ先キニヤリ自分旅費ヲ都合シテ
アトヨリ上京 十時半ツク 財部氏トノ契約書デアッタ 一通リ目ヲ通シタ處十五万
円シガ買収費ガナイ様ニ思ツタノデ其點タシカメルト十五万円ハ現金デ会社成立後株
券デ更二十五万円 内五万円ハ財部氏へ礼 外ニ現金幾等クレルトノコトニ一割一万五
千円ト定メ契約ス 夜契約書ヲヨク見直シタラ大分補足スベキ點ガアルコトヲ發見 本
契約ニ補足スルコトトス。東日ニ一寸ヨリ日大中父母会ニ行ク 校長ノ挨拶ガ永ク又後
援会ヲ作り毎日五十銭出スコトノ話シアリオソクナリ徳治ノ先生ニダケ会ヒ仁三郎ノ
先生ニ会フ時間ガナクナツタ 四時ニナツタノデ川辺トノ約束時間ガ一時間モ遅レタノ
デ工藤ニ行ク 両国駅上ニテビールヲ一二杯ノミ話ス 坂本ノ方計算書ヲ呉レトノコト
デアツタガ、ソツトシテ居イテ貰フ 財部仮契約ノ話シヲシ川辺ニモ財部ヨリ礼ヲスル筈
ノコト 又出サセル様ニスル旨話シテ連絡取ル様ニサセル

▲▼172ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月13日(日)

天気 晴

仁三郎虫ヲ採リニ學校カラ井ノ頭公園へ行ク 寒イ日デアッタノデ取レナカロウ ハタシ
テ取レナカッタ由
十時過ぎ安田氏少シ遅レテ岩間氏來 自宅へ案内シ岩間氏ニ其後ノ心境ニツキ御話
シ 結論トシテ解消條件ハ二人ニマカセルカラ解消手打ノ爲メニ皆デ一度会见スルコト
ヲ希望シ柳父氏ト單獨会见ハ意味ナキモノトシテコトワル 三時頃帰ル
朝財部トノ契約不備ノ點ヲノートニ書キ出シ本契約ニソナエル
午後三時過帰宅 床ニ入り眠ル 少々ツカレタ様ダ

▲▼173ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月14日(月)

天気 曇り

蓮見内田両氏來 アンリオ完成検査 グライダー三島ノB二トプライマリー 東奥ノ
プライマリー 東京高工ノB二胴体其他内部検査終ル 二時頃作業会社ノサル發内
部検査ノ爲メ内田氏同道作業会社ノ新作業場へ初メテ行ク 中々立派ニ出來テ居タ。
製圖ヲヤツテ居タガイツモナガラ中々大変ナ仕事ダ 補助ガナクテハヤレマイ 明日ノ

旅費ニコマルノデ十円取りアト明日中ニタノンデ居ク
帰ツタラ丁度中台カラ話シノアツタフロート取りニ來テ居テ四十五円受取ル 五円中
台へ禮ニヤル

清平研究所和田所長ト山崎氏ヘヤル

▲▼174ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月15日(火)

ツイ此間両手ヲヒロゲテ山ノ上カラソワリンクシタ夢ヲ見タ 之レハ廿前後ニヨク見タ夢
デアツタ。ナツカシイ縁喜(ママ)ヨキ夢デアツタ。今朝又アブロデ飛ンデ呉レトタノマレ地
上滑走ヲヤツテ少シ浮イタガ、アブロハ初メテデモアリ永ク飛バナイカラ謝文達ヲ一所
ニ乗セルトテサガシニヤツタ中ニ目ガ醒メタ 今日ノ交渉ヲ控エ此自重振りハヨイ暗示デ
アル。大ニ落付カネバナラナイ(朝書ク)

航空局ニ立寄りアンリオ登録申請ヲナシ清平ト財部ニ行ク 大口先着 先日ノ契約書
ニ対スル補足項目ト本契約ニ対スル希望條件ヲ書イタモノヲ渡ス 全面的ニ承認 念書
トシテモヨイトノコトデアツタ 仕事ノ事ハ部品ハ自分ノ案デバルブ、タツペツト類ノ製作
ガヨイト云フコトニ決ス 明日カ明後日資本案ヲ連レテ工場見ニ行クトノコト 一寸マダ
スグ金ニナリソウニモナイ

帰途十時氏へ先日ノ挨拶ニ立寄り解消ノ件報告ス 十時氏何ントカマトメル爲メ同氏
自身竹田氏ヲ訪問シテ、マトメルカラヤラセロトノコト 一度ハ御願シテ出タガ引返シ安
田岩間両氏スデニ解消條件ノ交渉中デアルノデ竹田氏へ行クコトヲコトワル

佐藤藤二郎へ経過報告シ材料ヲタノミ、信田ニ會ヒ安田氏へ行き今日十時氏会見ノ結
果ヲ報告ス 岩間氏同席

大口ト帰宅ス 清平明治へ行ク 夜十時上野迄又行ク

▲▼175ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月16日(水)

天気晴

朝大口千葉大立目氏へ行ク 五万円日歩ニ錢七厘デ出來ル由 但シ大立目ヲ使ツテ
呉レトノ條件付 明朝尚細目ノ條件聞キニヤル

夕方大口財部ノ方へ行ク 夜十時頃帰り明日午後三時頃カ明後日早朝行クトノコト
デアツタ由 一寸急ニ六間ニ合ワナイ

川口氏ヨリ電話アリ 明朝八時行クコトニキメル

クラブヨリ五十円入り電氣屋支拂フ アト明日ノ会費

朝第一へ行キ電話ヲ借りテ安田氏ト荒瀬氏ニ電話カケテ居ク。

午後安田岩間ヨリ電話アリ 解決案トシテ何百円カヲ柳父モ損ヲサセルコトニナツタガ
返済方法ヲ公正証書ニシテ呉レトノコトデアツタ由。シテモヨイガ期限ヲ切ルコトガ出

來ナイ ソレデヨケレバト返事シテ居ク

▲▼176ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月17日(木)

天気 曇リ小雨

八時丁度川口氏ニ行ク 経過ヲ話ス 同氏ヨリ合同銀行ニスデニ話シテアリ頭取ハ古
莊航空本部長ト実ノ兄弟デ書類ヲ見タイトノ事デアル由 スグ帰所 財産目録建物
受負見積書、十三年度収支予算書ヲ作製 十二時自分持参 ヨク説明シテ今日午後
行クトノコトデアッタ 大口朝行ツタ大立目ノ方モ合同へ話ストノコトデアッタ由 川口
氏トカケ合フノデ其事双方へ話シテ居ク。スグ上京 安田氏へ行ク 岩間氏モ居リ昨
本日十時氏又出テ來テ更ニ竹田氏ヲ、カツイデ成立サセル様ニトノコトデアッタ由。尚
解消ノ方モ條件決定。案ノ下書ヲ貰フ。話シガニツニナツタノデ帰ツテ大口トモ相談ス
ルト云ツテ居ク 建具屋ヲ安田氏呼ビ注文ス。塚本氏モ呼ビ自分ヨリ目下ノ状勢ヲ話
シ近日具体的ノ返事スルコトトス

中央亭ニテ川辺君ニ会フ 財部氏カラ受取ルトハイヤダカラ自分カラクレトノコトデア
ッタ 心得テ居ク 同道シテ片岡局長送別会ニ行ク 三十四名出席 盛会デアッタ 東
日ヨリ和田羽太氏來 イヨ、羽太氏大坂行き決定セル由

▲▼177ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月18日(金)

天気 曇雨

昨夜オソクナツテ今日眠カッタ 夜八時前床ニ入ル

朝大口來 大立目昨日合同銀行頭取ト会见 工場見ニ行ク 書類ヲ見タイトノ話シ
デアッタ由 ソレハ財産目録ハ出シタガ之レハ問題ニナラナイ 要スルニ仕事ト人ニ出スノ
デ予算書並ニ從來ノ成績等ヲ見タイトノコトデアル由 工場ヲ出テスグ川口氏ニ電話
スル 大立目ノ話シデハ川口氏カラマダ書類ガ出テナイトノコトデアッタガ川口氏ハ出シ
テアルトノデアッタ 尚今日午後カラ旅行 明日夜帰ルトノコトデアッタ。大立目午後
來 夕方自宅へ食事ヲ共ニス 結局銀行へ変ナ感ジヲ持タセテモイケンイノデ川口ト大
立目トテウマク打合セテ月曜日銀行へ行クコトニ決定ス
府中刑務所ヨリ來場 グライダーノ製作ヲ引受ケタイトノコトデアッタ 材料モ向ツテ
持トノコトモ出來ル由

▲▼178ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月19日(土)

天気 晴

宇田川氏ヨリ會ヒタイトノコトニ午後大口上京 ツヒデニ安田氏へ寄ラセル 十時氏提

案ノ件ハ止メルコト 朴春琴ノ方ハ進メテ貰フコト

大口朝財部へ電話スル 今日ハマダ榊原ノ方ノ登記ニ行ツテ居ルトノコト 之レモ大分アテニナラナクナツテ來タ

今日ハ佐藤太田カラ解消ノ件聞カレル 猪又モ中台カラ聞イタト知ツテ居タ 大口ノ話シタニ違ヒナイ

イヨ、急ガネバナラナイガサテ 小額ノ準備モ必要ト思ワレル ドコヘ話ソウカシラ大牧、佐々木大坂ノ講習ヨリ帰ル 夜安岡、佐藤佐々木自宅ニテ夕食ヲ共ニス

▲▼179ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月20日(日)

天気 晴

九時工場出 奈良原大口來場 駒林氏ニ電話シテ新標式ノ記入方ヲ聞ク マダキメテナインウダ。適當ニシテ呉レトノコトデアッタ

川口氏電話シタガ昨夜帰ラナカッタ由 明朝八時御伺ヒスルカラト事傳テ居ク

第一ニ行キ妻君ニ會ヒ山口ノ国元へ今月カラ二十円ツ、送金スルコトヲ決メル。作業ニヨリ明日四五十円作ツテ貰フコトヲ頼ンデ帰ル

出田氏ヨリグライダー今一台注文シタイカラトノコト 明日來ル由 山田今日來ル筈ツヒニ來ラズ

山崎氏三時頃來 C五ノ胴体現圖終ツテ帰ツタラ八時 角モ同道夕食ヲ共ニシ十時頃帰ル

夜ニナルトツカレテダメダ

▲▼180ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月21日(月)

天気 晴

朝川口氏へ行ク 合同ノ方非常ニヨカッタガ大立目ガ行ツタ爲メ合法的デナイト貸サナイコトニナツタガ明日銀行へ一所ニ行クトノコトデアッタ

帰場 大口ニ相談 大立目へ棒(ママ)觀ノ件ヲ申込マセル 然ルニ大口ノ前デ銀行へ電話シテ川口氏ハ一度モ行ツテ居ラナイコトヲ立証シタ由 尚今スグ頭取モ専務モ居ルカラ

會ヒニ行コウトノコトデアッタ由 ドウモコマッタコトニナツテシマッタ。其内財部ヨリ明日午後行クトノ電話アリ 結局財部ノ方ガ出來レバ銀行ハ入ラナイノデ明日ノ決(ママ)

果ヲ見タ上銀行へ行クコトニシソレ迄大立目モ川口氏ノ方モ延期シテ貰フコトトス

午後奈良原清平協會東日府學務部へ行ク。日本飛行少年團ヨリプライマリー一台注文アリ 午前中出田氏ヨリ同様一台トゴム注文アリ

▲▼181ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月22日(火)

天気晴

六時頃川口氏ヨリ八時二十分千葉ノ房総新聞迄來テ貫ヒタイトノコト 種々考慮ノ末大口ヲ取アエズヤリ今日中ニ大立目ノ方トノ円満ナル兩者提携ヲ望ムコトニサセル十一時頃大口帰り藤谷君ノ方ヲ引受ケ一時札デスマセル様ニスルトノコトデアッタ由一安心ス 明日会见ノ由

財部ノ方五時丁度來場 二人連レテ來タ イワユル小説ナドニ出デ來ル重役タイプノ人間二人デアッタ 奈良原氏ヨリ一席話シアリ 約小一時間デ終ル アトデ紳士録ヲ調ベタガドチラモ出テ居ナカッタ 今日午後平松子來 東京ト千葉ノ金融出資イヅレガヨイカラ、占ツテ貫ウ 今月中ナラ東京 其後ハ千葉トノコト 但シ東京ノ方ハ余リ金物デナイトノコト ドウヤラ其點ハ當ツテ居タラシイ

今仲氏來宅 ツヒニ千円ニ負ケタ 今月中ニ取引出來ルモノトシテ口約ス
東奥義塾グライダー發送ス

◆▼1822ページ◆▼ 昭和12(1937)年6月23日(水)

天気曇

川口氏ヨリ來テ呉レトノ電話ニ朝行ク 銀行へ行ク前ニ菅谷君ノ宅デ大立目ノ方解決シタイトノコトデアッタ 一寸工場ヨリ九時半菅谷氏宅へ初メテ行ク 大口先着 大立目君ニ來テ貫フ。丁度川口氏モ來 菅谷氏ヨリ話シテ要ハ伊藤工場ノ發展ヲ期スルニアルカラ自分等二人ハ遠慮シテ川口氏ト伊藤君トデ銀行へ行ツテ貫フトノコトニ決ス 両氏ヨリ其旨銀行ノ頭取古莊氏へ通ズ 晝食後丁度一時銀行ニ入ル 古莊頭取ニ専務ト會ヒ工場ノ現場、過去將來ニツキ説明シ通信省陸軍ノ方針等後一時間ニ渡ツテ説明シタガ結局専務ヨリ物の担保ナケレバ人的保証ヲ希望サレ佐渡島此最ナツテ貫ヒタイトノコト 川口氏モ判ヲ押スコトハ承知セラル 然ニ大坂ハ見込ミナク双方考慮ヲ約シテ会见 一時間四十分ニテ帰り菅谷大立目ニ右報告ス 菅谷君千葉デ判ヲスルモノヲ作ルトノコトデアッタ

帰場 岩間氏待ツテ居タ 東京ノ方デ興銀デ話シガ進行中トノコトニ必要書類一通リ渡ス。川辺君來 坂本ノ方イツデモ金ガ入ルナラ出スカラトノ事傳デアッタ。

夜大立目、峯島來 別ニ何ノコトデモナカッタ タゞ保証人ガアルカトノコトデアッタ ナイ旨答ヘル 茨城工、中學ヨリグライダー注文アリ

◆▼1833ページ◆▼ 昭和12(1937)年6月24日(木)

天気晴

七時半川口氏訪問 万一ノ間場(ママ)差當リ式万円作ツテ貫フ様ニタノム 自分行クベク話シタガ菅谷君ヲ今日ヤルカラトノコト 後チ菅谷氏ニ電話シタラ明朝會フトノコト

ト 今日銀行へ大立目一所二行ク由 困ツタヤツダ。グライダ製作ノ年度表ヲ作ラセル
九時大口ト上京 宇田川氏訪問 駒沢氏代理ダト思ツタラソウデモナカッタ 然シ駒
沢氏ニ話ス由 計理士デアッタ 中村栄一郎ト云フ 貳百万円四分ノ一拂込ミ 自分
ノ方ヲ三十万円 半分ヲ現金半分ヲ株券 尚株券ノ由アリ 御礼ヲスル旨述ベテ居ク
ヨク理解出来タ様デアッタ 尚來月十二日迄財部ノ方ノ引カ、ッテアル事ヲ話シテ居
ク 晝食後大口財部へ行ク 自分東日二行キ清水奈良(ママ)氏ニ會フ 清平來 共ニ朝
日へ挨拶二行キ丁度河内君ニ會フ。協会ニ行ク途中連盟北島サンニ會フ 一寸話シテス
グ分レ協会へグライダー損害賠償金ヲ請求 貳百元也。川辺君ニ會フ 廿六日財部へ
一所二行ツテ貫ヒタイトノコト 承知ス 五円貸シテ呉レトノコト。岡田氏ニ會フ 月末
半額ノ件会社ノ成行キヲ話シナントカシテ貫フコトヲタノム。佐藤ニ立寄り中間報告ヲ
ナシ五時頃安田氏へ行ク 大口來タガ八時頃迄ニ來ルト云ツテ出タ由 八時四十分迄
待ツタガ來ラズ帰ル 岩間氏ト電話デ話ス

◆▼184ページ◆▼ 昭和12(1937)年6月25日(金)

天気晴

菅谷同道古荘頭取ヲ訪問 貳万五千円ダケ話シタガヤハリダメ 仕事ニ金六貸スガ判ハ
ヤハリ入用トノコト 菅谷君吉田甚三郎氏ヲ説イテ判ヲサセルカ出サセルトノコトデア
ツタ 今月中ニヤルト云ツテ居タガサテドウカ。大立目ニ一寸挨拶ニ立寄り十一時帰場
清平上京サセル

大口財部昨日ノ話シデ今日午後二時電話デ具体的ノ返事スルトノコトデアッタ由 ツ
ヒニ電話ナシ 夕方明日川辺連レテ行ク旨電話カケテ居ク
夜八時床ニツク 少シクタブレタ様ダ 粕谷君今日來ラズ 六百元ノロデ困ツテ居ルラ
シイ 何ントカ方法ヲ講ジテヤラネバナライナライナイ

◆▼185ページ◆▼ 昭和12(1937)年6月26日(土)

天気晴

朝川口氏訪問 吉田甚左衛門氏ノ事ヲ聞ク 菅谷君ノ事モ信頼シテヨイトノコト 今
日會フ由 依頼シテ居ク。上京 協会ニ立寄りグライダー日誌ヲ求メ弘中ノ番号ヲ貫
ヒ電話デ津田沼へ知ラセテ居ク 渋谷駅前デ川辺君ニ會ヒ財部ニ行ク 川辺君ト財部
君ノ行違ヒヲ諒解サセル 自分ノ方ノコトハ火曜日ニ返事スルトノコトデアッタ 大口ガ
アセツテ居ルガ、ヨイ人ヲ入レテ貫ヒタイ希望ヲ述ベテ出ル

岩間君訪問 安田氏ノ窮状ニスキ六百円約手デモ書イテヤロウカト相談シタガ必要ナ
カロウトノコトニ向フカラ云フ迄待ツコトトス 廿八日発起人會ヲ開キ報告シタイトノコ
ト 自分ハ出席出来ナカッタラ手紙デモヨイトノコトデアッタ

東日ニ清水君ト約束アリ津田沼へ同道スベク行ク。丁度安田氏カラ電話ガアッタトノコトニ電話ヲカケルト石田組ト會ツテ貰ヒタイトノコトニ、スグ安田氏宅ニ行ク。シバラク待ツテ福西、山田、塚本三氏來。目下ノ金融ト新会社創立狀況等ヲヨク話シ延期ヲ乞フ。廿九日ニ大体兩方分ルノデ四日報告スルコトトシテ分レル。奈良原清水ト自宅ニテ夕食ヲ共ニス。

▲▼186ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月27日(日)

天気 曇後雨

明日午後四時ヨリ清水ビルニ於テ行フ解消報告發起人会ニ清平ヲ出席サセ(ママ)コトトシ其原稿ヲ書ク。最モ紳士的ニ皆シナフ傷ツケナイ様ニ書ク。

其他中學校青年學校へノ手紙原稿清平書カナイノデ山東君ニ依頼ス。

大口ニ安田ノ手形問題話ス。

午後北島サン來。三時頃自宅へ同道。食ヲ共ニシ七時頃帰ラル。坂本ノ方ニ対スル様子ヲ聞キニ來タモノト思ワル。北島氏ハ賣渡説デアッタ。ソレハ自分モ近來考へテ居タ處デアアル。

▲▼187ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月28日(月)

天気 曇小雨

朝菅谷ニ行ク。マダ吉田氏ニ會エナイ由。之レハ予期シタコトデアアルノデ川口氏ニ二千元ばかり出來ナイカ聞イテ見タガドウモ出來ソウニモナイ様ナ口振りデアッタガ會見ナサイトノコトニ電話デ打合せ上京スルトノコトニ午後一時川島サンノ宅デ會フコトトス。工場ニ帰ル前国吉ガ朝來タノデー一寸寄ツタガ不在。明朝返事スルコトトシテ帰場。粕屋手紙デ安田氏ヨリ八百円ノ手形貸シテ呉レトノコト。一寸見當ガツカナイノデ粕屋ニ聞イテ見タガ分ラズ。コトニ粕谷ニ工事設計カントクノ千弍百円ノ請求書ヲ提出シ安田氏トハ別ニシテ呉レトノコト。兎三角安田氏ニ會タ上ノコトトシテ急ギ上京ス。川島サンへ行ツタラ一寸三十五分オソカッタノデ川口氏二十分前ニ帰ツタトノコト。飛行館ニ行キ電話デ安田氏ニ來テ貰フコトトシタガツヒニ來ラズ。岡田氏ニ會ヒ三十日ノコトヨクタノム。

羽太和田氏ノ歓送会ハ大變盛會デ三十五六名ニ上リ荒蒔閣下モ出ラレタ。磯部氏モ來。

▲▼188ページ▲▼ 昭和12(1937)年6月29日(火)

天気 曇雨

朝川口氏訪問 補助金立替タノシダガダメ 今日堀田伯ニ会フノデ予算書ガ入ルトノ
コトニ帰ツテスグ作製 晝過ギ千葉ノ菅谷君處ヘ届ケル 丁度川口氏ヨリ電話アリ出懸
ケルトノコトニ菅谷君ニ頼ンデ国吉ニ立寄り帰場 最後ノ手段トシテ九八銀行ヘタノムコ
トニシタガ時間遅レタ刻六時半銀行ニテ支店長ニ話シタガ、二三日先キニシテ呉レトノ
コトソレモ本店ト相談シナケレバトノコトニ見込ミナシ。銀行、手形ハ二三日延バス。役
場ノ税金、千葉ノ森谷請求イヅレモ明日限リトノコト。夕方福西ヘ電話シテ経過報告
五日頃ニナル旨述ベテ居ク
大立目三時頃杉野ト云フ人ヲ連レテ來タ 十万円位出資スルトノコトデ大分キビ、シ
タ人デアッタ
清平上京サセル 青年團プライマリー十二台 セコンダリー五台見積書出セトノコト
デアッタ 苦イ中ニ大ニ嬉シカッタ 銀行ノ帰り中台ヘ立寄り五日頃迄皆ノバシテ貰フコ
トトス

◆◆1899ページ◆◆ 昭和12(1937)年6月30日(水)

天気 雨

今日ノ支拂ヒ大口千葉へ行ッタガ四時頃漸ク帰りヤハリダメ 専務ノ帰りヲ待ツテ居
タ由 大口ノ方ガモウジキ出來ルノダカラ、ソレ迄待テトノコトデアッタ由

粕谷君來 昨日柳父氏ノ方ノ發起人會ニ安田氏出席 大変ナゴヤカナ解散デアッタ
由 岩間氏不出席

工場員其他五日頃迄皆延期 役場ハ夕方大口帰ツテカラ東奥ノ委任状ヲ持参 押ツ
ケテス。安田氏ニ電話シ福西氏ニ話シテ呉レトノコトニ更ニ福西ヘ電話ス 銀行ノ方ノ
調査未了 財部ノ方明日行ッテ結果知ラセルコトトス 不在ノ由 塚本氏ニ話シテ居イ
テ呉レトノコト

早朝国吉來 午後一時迄ニ出來タラ持参スルコト 然ラザレバズット延ビルコトトス

◆◆1900ページ◆◆ 7月

○六月会社不成立ニ終ル 金融又然リ 優秀ナル会社成立ヲ期シ金融ヲナスコト
イカガワシキ人物遠ザケルコト

○青年航空團受注ノコト

◆◆1911ページ◆◆ 昭和12(1937)年7月1日(木)

天気 曇リ

余リツカレタノデ今朝ラジオ体操後又床ニ入り九時起床 工場出 奈良原氏同道上京 東京駅ニ羽太氏大坂へ轉任ヲ見送り協会ニ行キ補助金ト飛行機ノ送金方ヲ依頼シ和田氏ニ會ヒ木更津ト夏期講習ニツキ打合 夏期講習ハ未定 木更津ハ工場カラ行ツテ打合セスルコトトス 外ニ一三式呉レルカラ整備シテハ如何トノ話シデアッタ 貰フコトトス。佐藤ニ立寄りワイヤーヲ請求シ帰場 夜モ早く床ニツク

▲▼1926ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月2日(金)

天気 曇後晴

午前九時航空局出頭 前田、吉原、自分、三名ニ対シグライダー試作奨励金ヲ出スソアラ一ニ台。他ニ複坐機各一台ノ予定デアッタ 明日複坐ノ方キマル由 ソアラ一ニ機デ五千式百円 複坐増シタ場合七千式百円也。引受ヲ下ル 江戸川飛行場ノ件許可ニナラナイトノコト 内務省デアト貸サヌ由。井上ノ利用組合ノ件井上氏ニ聞ク 技術課長ノ手許デニギリツブシナルラシイトノコト。競技用サル間ニ合ワヌ由

研究所ニ山崎氏訪問 局ノ件報告 ソアラ一ノ設計料五百円 複坐機ヲヤル場合三百円増ニテキメル。清平カラ電話アリ 安田氏へ寄ツテ呉レトノコト。行ク 石田組ヤカマシイカオク昨日大口ヨリ話シアッタガ今日七時ニ會フ約束アリトノコトニ七時迄待ツ内津田沼へ電話シタガ大口居ラズ 千葉へ行ツタ由 佐藤ニ行キ万一ノ場合大坂へ同道シテ貰フコトヲ依頼ス。安田氏宅ニテ塚本氏ニ會ヒ、大國ニテ十時頃福西山田氏ト会见。十四日迄待ツコトニ決定
十二時帰宅 ア、ツカレタ

▲▼1936ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月3日(土)

天気 晴

大口坂本ト昨日寓(ママ)然アッタトノコト ソレカラ話シガ出テ手取り廿五万円デ話シタ由 今日夕方會フ約束シタトノコトデ手取現金三十万円 重役ニナル必要アルナラソレニ要スル株ヲヨコスコト 但シ金融取引ノ事ヲ固ク云ツテ居ク 宇田川ノ方へモ財産書類持参 成ベク早く直接ニ會見サセルコト

奈良原氏來場。奥山氏來場 サル見積書ヲ作ル 弘前振替貯金デ金送ツタトノコト 協会小野サンへ金送ルコト依頼ス 井田氏ヨリ電話ニテソアラ一注文スルカラ月曜日午前來テ呉レトノコト

九州ノ前田氏來 利根川君同道夕方ニナツタノデ新花月へ案内シテ夕食ヲ共ニス 駅へ送ツテ帰ル途中大神宮ノ前デ佐藤氏ニ會フ 一人同行者アリ 又佐渡屋ニ行ツテ食事ヲ共ニシ九時半頃帰ル ヤハリ出資者ノ件デ株屋デ林トカ云フ人ガアルトノコト 余リ気乗リハシナイ

◆▼194ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月4日(日)

天気晴

八時半迄床ニ居ル 大口來 今朝十時坂本來ルトノコトデアッタ 十時工場ニ出ル 工事調ベヲ行ヒ材料ヲ書キ出シ三河屋ヲ呼び木材ヲ注文 バツンハ太田ヲヤリ交渉サセラルヤルトノコトデアッタ。息子ガ今夜幕張へ相談ニ來ルトノコトデアッタガ來ナカッタ 奥山氏十時頃自宅へ來 サルノ契約成立 明日第一回百五十円呉レル由 大ニヨカッタ 夕方清平山崎氏へ行ク 大口自宅へ招キ明日ノ支拂予定表ヲ作ル 十時頃坂本外一名來場 晝食ニ大口同道ス 自分トハ何等話シナシ。大口八十二日頃取引ノ様ニ話シテ居イタ由

◆▼195ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月5日(月)

天気晴

六時五分前起床 大口清平ニ支拂ヒ予定ヲ相談シ八時上京 局へ行ク 南波氏ニ會フ ホンノ一寸話シガアッタダケ 青年航空團東京へ十五台先月スデニ中野君カラ口約アッタ由 氣ノ毒ヲシタコトニナッタノデアッタ 出田ニ行キCニ注文ヲ受ケ五百円内金ヲ受取ル 東日ニ行キ清平ニ五百円渡シ帰ヘス 青年航空團ダメ。貯金ノ方モ今日受取レナカッタ由。アトハ協会ノ金ダカ之レモノゾミ 薄ク、兎ニ角ヨイ様ニサセル。一時半角ト新宿デ會ヒ、タクシーヲ聞イタラニ円トノコトニ止メテ国分寺迄行キ乗合デ刑務所ニ行ク 工場ハヨク整頓サレテ居タ。内部モ朗カ デイヤナ感ハチットモシナカッタ。タゞドコモ鍵ガカ、ルノガ一寸氣ニナル位デアッタ 就 役者ハ幸福ダト思ッタ 木工作业ハ彈薬函ガ大部分デ年産十万円達スル由。リブ十台分毎月位ノ予定デ一本 五十銭位ト慮シテ形ヲ居イテ行ク。契約ハ二ヶ月分 保証金ヲ入レルノダソウダ。巢鴨 へヨリグライダー製品ヲ見ル 水野ノ分デヨク出來テ居タ。銀坐デ角ト夕食ヲ共ニシヨク現状ヲ話シ工場内ノ空氣ヲ聞ク 九時半帰宅

◆▼196ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月6日(火)

天気 晴南風

清平高工、ベニヤ、佐藤等へヤル 何レモ結果ヨロシカラズ

和田氏ヨリ夕方青年航空團ニ吉原ガ行ツテ居タトノ知ラセアリ 多謝

奈良原氏來場 高工機昨夜松坂徹夜 今夜組立 オソクナリソウダ 山東君上京

振替ノ金拂出シ中台へ全部渡ス 石田組菅原君今日デ引上ゲルトノコトニ夕方山東君
ニ粕谷君同道船橋デ夕食ヲ出ス
石田組ヨリ山田氏外一名來場 タゞ見ニ來タダケ 安田氏ドコカノ顧問辨ゴ土ヲ連レ
テ來場 夕方帰ル 後ニ市川ノ浮谷竹次郎氏突然來場 奈良原氏ヨリグライダーノ
説明アリ 一所ニ帰ヘラル。李來場 朝鮮飛行場ヲ慎ニ聞合セルコト 野口ノ機體賣ル
カ聞イテ吳レトノコトデアッタ

◆▼1977ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月7日(水)

大口坂本へ収支予算持参シ確実性ヲ聞イテ來ル様云ヒツケル。稲毛ノ川島夕方來 森
谷ノサインクデアッタ。利子サエ入レバヨイトノコトデアッタ
朝佐野利一來 晝頃適居タ 協会電話ヲカケタガマダ送金シテナカッタ
帝国へ試験ニ石原太(ママ)尉來 晝頃挨拶ニ行ク
午後榊原先生來 トイフェルガアッタラトノコトデアタノデ聯盟ノガ空イテ居ル筈トオ
シエル

奈良原氏來場 昨日夕方浮谷竹次郎氏ト同道帰途車中ニテ工場後援ノ意志アル由
一度会ツテ見タラドウカトノコトデアッタ

◆▼1988ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月8日(木)

天気 晴

八時頃宇田川中村両氏來 会社定款モ出來テ今日六時カラ東京デ市川市長ニ會ツテ
吳レトノコト 初メテ浮谷氏ノ來タ理由ガ分ツタ。何ソノ爲メカ今朝川口氏へ聞キニ行
ツタバカリデアッタ 川口氏モシバラク會ワナイトノコトデアッタ
石田組諸材料引上一切ヲ終了ス。ペンキ塗りガマダヤツテ居タ
事務所ヲ新屋へ引越シ順(ママ)備ヲナス
テールエレベターヲ船橋ノ佐藤へ交渉サセル 今夜相談シテ來ル由。
清平上京 高工ノ局手續キニ行ク
安田氏ヨリ無儘デ三万円借りサセルトノコトニ依頼ス 夕方財産目録ヲ持ツテ來(ママ)
コイトノコトニ持参、シタラ合資会社デハ出來ナイトノコトデアッタガ尚交渉中ノ由
中村氏宅ニ行キ、ソレナラ今川橋ノ生稻ニ行ク 浮谷氏スデニ先着 九時迄イロ、ノ話ス
非常ニ乗り氣三二日中ニ返事スルトノコト 尚大口ヲ安田へヤリ自分ハ浮谷氏ト銀坐ニ
行き尚十時頃迄話シ合ヒ更ニ自宅タクシーデ送ラレ車中懇談ス

◆▼1999ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月9日(金)

天気 曇リ

ムシ暑イ日デアッタ 夕方雷聞ユ

石田組ノ菅原ワザ、十四日ノ支拂ヲ念ヲ押シニ來ル。大口昨夜安田氏へ泊ル 粕谷君來 無儘ノ方ダメニツキ高利ダガトノコト 最悪ノ場合ヲ考慮シテ借入レ手續キダケシテ居クコトトス 高八三万五千元 六十日デ手数千七百五十円 利子二十銭デ四千貳百元 計五千九百五十円也

大口午後帰ル 昨夜二時迄起キテ居タトテ今日ハ何ニモ出來ズ帰ツテ寢サセル
新築事務所へ引写ル

清平木更津へヤル 十七日無期中止トナル

高工堪航証出ル 和田氏受取ル

一三式五時過ギ帰ツテ來タガ着陸不可 洲崎方面ニ向フ

▲▼200ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月10日(土)

天気 晴

三島ノトイフェルトA二検査スルトノコトニ分解シタ機体ヲ又組立ル 三時頃終ツテ上京 佐藤氏ニ行キ今夜大坂へ行ツテ貰フコトヲタノミ八時半発ニキメ清平ト今日ノ検査ノ結果ヲ持ツテ南波氏訪問 諒解ヲ得 八時十分東京駅着 大口清平ノ見送りヲ受け出發ス
ドウゾマトマリマス様祈ル

▲▼201ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月11日(日)

天気 晴

七時二十分大坂着 坂急ニテ神戸ニ行キ佐藤氏娘ノ宅ニヨリ朝食ノ馳走ニナル 佐藤氏入浴ナドシテ時間オクル。佐渡島へ電話スル 晝カラ出カケルトノコトニ急ギ行ク 電車ヲ坂急ト坂神ト間違ヘ三十分以上遅レ十一時半佐渡島宅ニツク。約一時間佐藤氏ト交々話シ大分ヨイ方ニ傾イタト思ツタガ出カケル時間ナノデ佐藤氏ハ今夜立ツガ明日店へ來イトノコトニ分レル ヤ、ヨイ様ニ思ワレルガ樂觀出來ナイ人デアル 佐藤氏ト兄ノ宅ニ帰ル 大掃除ヲシテ居タ
夕食後七時ノ汽車デ佐藤氏帰ル 見送ツテ切符ヲ買ツテ渡ス

▲▼202ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月12日(月)

天気 晴

神佛ヲ祈リ九時半宅ヲ出テ佐渡島ニ行ク 丁度十時出店サル 約小一時間待ツテ話

シニウツリ結局銀行ノ出スノニ対シ壹万五千位ト思フガ結局三万円迄保証仕様トノコト 銀行カラ人ガ來テ呉レル話シガアツタノデ連レテ來ルコトニ約シ十二時帰宅 晝食後十円借り一時発ツバメニ帰ルコトトス 京都ヨリ其旨打電ス 車中伊藤次郎氏ニ會フ 九時清平駅ニ來 種々考慮ノ未安田へ行ツテ佐藤氏ハ清平ニ報告ニヤル。安田氏ト粕谷君高利貸ノ處へ行ツタトノコト 約二時間待ツ 大坂ノ話ヲシ石田組ハ一万円ダケニシテ貰テ居キタイ旨相談 十二時迄カ(ママ)ツタガ塚本氏訪問 一万円ダケ入レアトハ新会社成立迄待ツテ貰フコトノ諒解ヲ得 石田組ノ方ハ塚本氏引受ルトノコト二十二時十分押上発終電ニテ帰宅ス

◆▼203ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月13日(火)

天気 晴

二時仁三郎ヲ工場ヘヤリ近藤ヲ田無ノ明大ヘヤルコトヲツタエサセル 大口君來 昨日菅谷君ノ手デ野田ノ柳田ガ聞イテ今日貳万円明日三万円増資シ合資会社ノ増資ニスルコトトノ條件書ヲ持ツテ來テ居タ。佐渡島ヘ話サナイ先キナラ、スグニモヨカツタノニ工場ヘ行キ菅谷氏ニ電話ス 佐渡島保証ノ件菅谷氏モ嬉ビ川口氏十時ニ來ルトノコトニ同時刻千葉ニ行ク 菅谷氏宅ニテ柳田氏ノ代理齋藤氏中山両氏ニ會見 札ヲ述ベ銀行不調ノ場合ヲ尚依頼シ晝食後迄航空問題ニツキ話ス。清平上京。川口氏菅谷氏ト一時過ギ合同銀行ニ行ク。ウルサク堅クルシイコトヲ云フノデイヤニナツタガ結局川口氏判ヲ押シ、佐渡島ニ會ヒタイガ行ケナイトノコト。ツヒニ佐藤喜三郎氏ヲ佐渡島ノ信任アル人トシテ會ツテ貰フコト。判ハ行員ヲ大坂迄ヤルコトデ、キマリ散會。帰宅 奈良原鳥飼氏ニ會フ 大口坂本カラ全部デナイガ出來タカラ來テ呉レトノコトノ由 明日行カセルコトトス。安田氏ヘ銀行ノ經過電話シ明晩大坂ヘ行ク予定ト話ス

◆▼204ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月14日(水)

天気 曇リ

七時白戸ニ行キ機械カンナヲ借リル件交渉 丁度明日明後日休ムトノコトニ二人熟練者ヲツケテ貰フコトヲタノミ帰ル 角ニ早速準備ヲ命ズ。佐藤氏ト漸ク聯絡取レ午後二時行クトノコト 一安心 清平昨夜帰ラズ 今日モツヒニ連絡ナク氣ヲモム。奈良原氏來 肥田木函根ヘ出張サセル。

佐藤氏來 二時半ヨリ出カケル 菅谷氏デ待ツコト一時間 三時過ギ菅谷氏帰り銀行カラ呼バレタトノコト 専務ヨリノ話シ大立目カラ会社ノ借金ハ多ク数万円デハ不足職工モ逃出シテ居ルナド云ツタ由。ソレタカラ昨日會フコトヲ主張シタノデニ(ママ)、トシデモナイコトニナツタ。モウダメト見ナケレバナラナイガ、佐藤氏折角來タノデ一應行クトノコト 其前大立目ニ會ツタ方ガヨイトノコトニ大立目ニ會フ。自分カラハ會見ノ

模様ヲ聞キ大立目カラハ自分ノ行動ニアキタラナイモノハアルガ、出來ルモノナラヤツテ
呉レト頼シタトノコト。ソシテハアテナラナイガ兎ニ角大立目ガ電話シタラ専務ハ
今日ハ會ワナイトノコトデアッタガ、佐藤氏ハ明日ハ來ラレナイカラトノコトニ行ツテ見タ
ガ玄關拂ヒ 非常ニシヤクニサワル。一切解消ノ外ナシト見テ佐藤氏ヲ送り菅谷ニヨリ
川口氏ニモダメヲ報告 菅谷君ニ齋藤氏ノ方ノコトヲタノミ明日午前九時會フコトニシ
テ大立目ニヨリ大立目ニモ合同ノ件ハ一切手切ルカラ折角御尽力頼シダガトキツパリコ
トワツテ歸ル
大口清平待ツテ居タ 佐渡島カラドウナツタト電報ガ來テ居タ 他ノ口ノ話シテ銀行
キメテナイト返電ス
千三百円青年團内入リアリ ホットスル

◆◆205ページ◆◆ 昭和12(1937)年7月15日(木)

天気 晴

菅谷氏宅ニテ齋藤氏ト會ヒ共ニ上京 東京駅ニテ宮崎ト云フ人ト會フ 同氏早速石井
氏ヲ呼びニ行ク 一時頃來 共ニ曙ヘ行キ晝食ヲシナガラ會談 某華族ガ組合組織ノ金
融デ十萬円単位デアルトノコト。コチラハ五萬円ヨリイラナイ理由ヲ説明ス 十萬円ナ
ラ保証人ヲ要スルコト 五萬円ナラ工場担保ダケデヨイトノコト 一兩日中ニ本人上
京スルカラ早急ニ工場ヲ見ニ連レテ行ク 利子六分又ハ六分五厘 手数二三分トノコト
デアッタ ヨク依頼シ工場ニ寄り齋藤氏來ルノヲ待ツ 粕谷ニバツタリ會フ 石田組強コ
ウトノコトニ安田氏ヲ呼ブ。夕方齋藤氏來 粕谷安田氏宅ヘ行ツテ貫ヒ齋藤氏ト工場
デ柳田氏ヘ提出スル予算書ナト作製 九時ニナル 自動車ヲヤトヒ千葉迄送ル 大口ヨ
ビニヤリ結局十時過ギヨリ大口同道石田組ヘ伊藤大坂ヨリマダ歸ラヌコトニシテ延期
交渉ニ行ク

◆◆206ページ◆◆ 昭和12(1937)年7月16日(金)

天気 曇雨

一番自動車デ齋藤訪問 書類ヲ持參 今日柳田氏ニ會フ由 自分ハ白戸デ終日待ツコ
トトス。角ケズリ物ニ白戸ニ來 ヤツテ居タ 晝食後栖間君ト演藝館ニ行ク 間モナク
齋藤氏演藝館迄來 三時頃デアッタ 柳田ウマク行カナイラシク中山ニ會ツテ頼ムノガ
ヨイトノコトニ、菅谷君ニ立寄り一寸右報告シテ帰宅 スグ幕張ヨリ野田ニ行ク 六時
頃中山氏宅ニツク。スグ柳田氏ニ會エトノコトデアッタガ一寸考ヘテ先ヅ中山齋藤會ッ
タ上ノコトニシテ貫ヒ自分トノ會見日時ヲキメテ明日中ニ工場ヘ知ラセテ貫フコトトシ
テ歸ル。乗合ナク約一時間歩イテ清水ニツキタクシーヲヤトヒ色々考タ末宿ヲ取ルコト
ニシ待月ニ泊ル アンマヲ取り養命酒ヲ買ヒ身心ノ回復ヲ計ル 明朝中山氏ニ柳田氏ニ

会ッテ貰ツタ結果ヲ聞イテ帰ルコト 浮谷氏三三万円程心配サセルコトニキメル

◆▼207ページ◆▲ 昭和12(1937)年7月17日(土)

天気 晴

時事 上越ヨリ利根江戸川出水 死傷アリ

六時起床 手紙ヲ書イテ中山氏ヘタクシニ持タセテヤル 七時十分中山氏野田へ來
タ由電話アリ 柳田氏昨夜出水ノ爲徹夜シタノデ二時間程タツテカラ話シスルトノコ
ト 待ツ 十一時電話アリ 中山氏ガ調査シテ宜シケレバヨイトノコト 丸通ニ行キ中
山氏ト會見ス 廿三日頃中山氏工場見ニ行クトノコトデアッタ

朝七時浮谷氏ニ電話ス 午後行クコトトス 十一時五十五分野田発一時浮谷氏宅着
日本エタパイプ会社篠塚氏ガ金ヲ作ルトノコト 百万円二分ノ一デ權利三十万円ハヨ
イガ篠塚氏二五万円浮谷氏二五万円中村一派二五万円 計十五万円ヲヤツテ貰ヒタ
イトノコト 然シ会社ハ現状ノニ引ツキ債権債務ハ新会社デ一切支拂ヒヲナスコト 其
他工場員ニ対スル自分ノ考ニ対シテモ考慮スルトノコトデアッタノデ五十万円金額拂込
ミ濟トスルコト 石田組ノ株ヲ印時ナスコトノ條件ニテ承認シ共ニ上京。中村、佐藤、篠
崎氏等ト花月ニテ會見 取キメヲナス 石田組ハ二十二日全額支拂フコトニ決定 一
週間内二五万円迄 一ヶ月以内ニ会社設立スルコトニ決シ、稍ヤホガラカニナツテ帰宅
九時 十時過ぎ大口東京ヨリ寄り

◆▼208ページ◆▲ 昭和12(1937)年7月18日(日)

天気 晴

朝齋藤ト菅谷へ昨日一昨日ノ報告ニ行キマダコトワルコトニシナカッタ。帰宅後工場ニ行
ク予定ナリシモ財部ガ來ルトノコトニ大口ダケ會ワセル爲メ行クコトヲ止メル 終日在
宅静養

山崎氏來 車オソク工場へ來タノガ六時頃 宅へ七時過ぎ來 夕食 種々打合セテ帰ル
清水Cニニテ国府ノ台ニ曳航飛行 今日ハ国府台泊リ

◆▼209ページ◆▲ 昭和12(1937)年7月19日(月)

天気 晴

今日久シ振リデ工場出勤 來客齋藤氏 昭和ノ件 菅谷氏別四十万円以上出資ノ件
栄助地代二十円渡 清水、国府台ヨリ帰ル。石田組三名來 廿二日支拂約束ス 浮
谷氏來 石田組ニ會ツテ貰フ 役員ノ氏名株数ヲ最少限度ダケ書キ出ス
羽太氏明日入営トノコト 見送りニ行クコトトス

▲▼210ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月20日(火)

天気 晴

時事 北支事変重大化

六時半宅ヲ出清平ト上京 途中腹痛ヨリ市川ニ下車 八時十分前東日着 羽太氏入
営ヲ見送ル 九時迄和田氏ト講習会ノコト 仁丹ノコト其他会談 青年航空團へ挨拶
ニ行キ清平ヲ工場へ帰シ自分航空本部へ高橋大佐有馬少佐ニ挨拶ニ行ク 海軍省ニ山
田中佐ヲ尋ネタガマダ出勤セラレナイトノコト 協会ニ行ク 小野少将甲府へ行ツテ不
在 中學校へ普及ノ件ヲ聞クツモリガ出来ズ 佐藤喜三郎ニ浮谷氏トヤルコトヲ話シニ
ヨル 三十万円ノ権利ヲ十五万円ヤルコトニツキ佐藤氏ノ反対アリ 篠塚氏ト元知合
トノコトニ佐藤氏個人トシテ其件ニツキ話シニ行ク 篠塚氏知ラナカッタラシイ。ヨク諒
解シタ由デアッタ。スグ帰宅 斎藤氏ヨリ電話アリ 明日中山氏行ク筈トノコト 菅谷
へ朝大ロヲヤル

木工機械修理注文ヲ発ス

奈良原氏來場 作業サル十年式王子別其他グライダー検査

▲▼211ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月21日(水)

天気 晴

十時頃安田粕屋來 遅レテ岩間氏來 山田氏ヨリ電話ニテ金請求アリ。晝頃浮谷氏ヨ
リ昨日話ツイタ安心セヨトノ電報大口ト自分宛ニ來 然ルニ山田、福西、塚本來場
少シモ話ツイテナイトノコト 篠塚ニ電話スル。タシカニツイテ居ル。話シタモノヲスグ
ヤルトノコト 三時頃秘書峯尾外一名來 聞イテ見ルト昨日石田組ノ弟ニ會ツタ 諒
解シタ筈ダトノコト 少シ話シガ違イソウダ 結局會ワセテ見タガ、話ツイテ居ナカッ
タコト分ル。自分、安田、塚本、岩間、同道日清生命ビルニ篠塚ト會フ 丁度浮谷氏モ
居合セタ。イキナリ篠塚氏ヨリ來月十日迄ニ会社成立必ズ支拂フ 其間出來次第明
日ニモ渡ストノコト。今日間ニ合ワナカッタコトニ対スル話シ更ニナシ

石田組へ返事ノ上峯尾迄回答スルコトニ安田氏ヨリ話シ一日引上ゲル 自分アトニ残り
夕食ヲ共ニシタガ金ノ話シ更ニナク仕様ト思ツタガ今日一所ニ來タ狩野ト云フ人が居
タノデ明日浮谷氏ト會フ約束シテ

382頁

(382ページへ続く)

▲▼212ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月22日(木)

天気 薄曇り

六時起床 成田山参拝 ミクジヲ引ク 凶ト出ル 思事カナワズトアリ憂ウツヲ感ズ
午後石田組ヨリ電話アリ 篠塚氏ノ秘書來店 会社成立迄支拂ヲ延期申入レアリシ
モコトワリタリ。明朝九時工場へ貰ヒニ行クトノコトニ回電話アリタリ 夕方右安田へ
電話カケサセル 大口朝中村へ行ツテ帰ラズ 自分七時斎藤ト船橋駅へ來テ呉レトノコ
トニ行ク 七時四十分頃自動車デ東京カラカケツケ來 昭和へ話シシタトノコト。柳田
ハ中山ノ調査面白カラズ明日今日中山ヨリ柳田ニ報告スル由 尚明朝斎藤野田へ行ク
由。コレモ當ニナラナクナツタ。斎藤君話シ永ク九時過ギル スグ浮谷氏へ行ツタガ、晝
出タマ、マダ帰ラヌ由。一先ツ帰宅 大口七時過ギ帰ツテ來タ由。少シ早スギル様ダ
本記事ハ廿一日分

▲▼213ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月23日(金)

天気 晴

三時過ギ大口ヨリ電話アリ來テ呉レトノコトニ安田へ行ク 今日福西山田、岩間塚本
安田、五人デ坂本へ行キ飯沼ト云フノニ会ツテ交渉シ、書類ガホシイトノコトデアツタ
トテ過已三年間ノ營業成績明年度ノ收支予算第二工場ノ計畫書ト收支予算ヲ作製
右交渉ヲ前記五人ノ外ニスミ粕谷ヲ加エ委任状ヲ書キ報酬ヲ一割ト定メル。十二時ニ
ナツタノデ又タクシーデ清平大口ト帰ル 稲毛迺三円 スグ床ニ入ル
今朝工場へ行ツタラ中村ガ会社書類ヲマトメニ來テ居タガ金ガ出來ナイ爲メ今日自分
ガ苦シマナケレバナラナイコトニツキ会社進行不可能ヲ考エ中村氏ヨリ浮谷氏へ其旨ツ
タエテ貰フ
夕方大口ヨリ宇田川氏へモ其旨コトワル

▲▼214ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月24日(土)

天気 晴

清平上京 日本少年團金受取ル。明治中學金千葉ニテ受取リ四百円入金アリ。所員
へ百七十円 中台へ百円 羽布九十円 其他ニテ丁度無クナル
又姫路へ拂へナクナル
大口浮谷氏ト朝会見サセル。金出來ナイ爲メ石田組ト成ル契約ヲシタ爲メ会社進行
シテ貰エナイコトヲハッキリサセル。財部ニ会ワセル 又電話モアリタリ 財部ノ話シタ資
本家ガ坂本ノ方ノ出資關係デ坂本賣込ミニ行ツテ居ルコトヲ聞キ込ミ対策中トノコト
早クマトメテ呉レルコトヲ依頼ス。今日安田、福西、岩間三人デ坂本ノ方へ交渉ニ行ツタ
ガ夕方迄電話ハナカッタ

藤倉工業ノ社長來場 田寺氏同道 グライダー用パラシュートノ件

徳治ムネガイタイトノコトニ稲毛ノ布施サンニ行ク。レントゲンノ結果右肺ガオカサレテ居ルコト判明ス

▲▼215ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月25日(日)

天気晴

今朝石井氏來ルトノコトニ齋藤氏先ヅ來 十時頃石井菅原両氏來 大口ト三人デ會フ。内容ハ石井氏ヨリ話シテアルトテ少シモ聞カズ工場ヲ見テ雑談。鈴木館ニテ晝食ヲ共ニシ船橋駅迄送ル。李起楨ヨンデ居イタノデ來 野口サル千円 羽布全部張替テ千五百円デ終ルコトニ話ス ケチナ奴デ朝鮮人ノクセデアルガ、シヤクニサワル 国へ相談シテ返事スルトノコト。夕方山崎氏來 C五ノ全体圖及ビ試作機一人乗ノ略圖ヲ持参ス 奈良原氏來 浮谷氏今朝奈良原氏訪問 何ントカナナイカトノコトデアッタ由。石田組トノ関係上出來ナイト、コトワツテ貰フコトトス。尚念ノ爲メ日野氏照(ママ)介ノ久保田氏ニ金ノ相談スベク明日正午日野氏ニ會フ爲メ電報ヲ打ツ 徳治ノ病氣聞キニヤル ケツカク性デアアルガマダ傳染スルコトハナク夏休中ニナオルトノコトデア心ス

▲▼216ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月26日(月)

天気晴

朝安田ヨリ來テ呉レトノ電話アリ大口ヲヤル 自分航空局へ補助金調べニ行ク 經理デ奈良原ノ判ダイケナイトカ云ツタノデ富田氏ガハンバクシテ書類ヲ返シタリシタノデ遅クナツテ居ルトノコトデアッタ。南波サンニ會フ 東亜ノ金支拂ツテナイノヲ東亜デ話シタ爲メ駒林サンガ迷惑シテ居ルトノコト 赤面ノイタリ。コソ、帰ル 飛行館ニ行ク 入口デ奈良原、清水ニ會フ。従軍願書ヲ北尾氏ニ預ケ、地下室ニテ日野氏ヲ待ツ 正午來 共ニ食事ヲナシ清水ヲ帰ヘシ 奈良原氏ヨリ久保田氏ノ件ヲ話ス 日野氏ソレヨリ仕事ヲヤッタ方ガヨイトテ成曾(マ)マ圈飛行機ノ話シヤ、何ニヤカヤ煙ニマカレル様ナコトノミ 少シモトリトメツカズ 萱場製作所へ行き社主四郎氏ニ會ヒ見學シタコトト何ニヤラグライダーヲ作ル様ナ話シデ分レル。東日ニヨリ和田氏ニ會ヒC二ノ諒解ヲ得、佐藤ニ行ク 奈良原氏トモ想(ママ)談 明日久保田氏ニ會フベク自宅へ電話シタラ不在 朝八時頃在宅トノコトニ其頃電話スルコトトス

▲▼217ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月27日(火)

天気晴

奈良原氏八時來 久保田氏へ電話 午後四時東京會館ニテ会フコトナル。午前中福西氏來ルトノコトニ待ツ 正午福西山田塚本岩間安田粕谷六人來 ソロ、賑ヤカナ事ダ 福西氏ヨリ経過話シアリ 結局大日本航空ニ集リ親会社トシテ五十万乃至百万全額拂込ミノ子会社ヲツクリコチラデ三十万乃至三十五万ニ見積ルコト 月末ノ支拂ニ対シ一万円位福西氏ガ心配スルトノコトデアッタノデ依頼ス。塚本氏ヨリ福西氏ガ誰レニモ話サズ自分ダケニ七時上野駅迄來テ呉レ一度會ヒタイトノコトデアッタ。ドンナコトガ 福西氏ダケニ対スル報酬ノコトガ 安田氏ノコトカ、イツレ此辺ト考ヘテ上京 佐藤氏ニ立寄り、サンパツナドシテ時間ヲ消シ七時十分前上野駅一二等待合室ニ行ク 塚本氏待チ居リ池ノ端ノ料亭ニテ福西坂本ト他デ会见中ヲ待ツ間塚本氏ヨリ話シアリ ヤハリ安田氏ヲ如何ニスルカトノコトデアッタ。間モナク福西氏來 自分ノ見解トシテ安田氏自身自分ヲヨク知ツテ自分ニ飛込ンデ來ラレルナラバアク迄共ニ心中スル迄共ニ引上ゲテ行キタイト思フ旨ヲ答エル 尚柳父氏ノ方解消後他ノロガ出來タ時ハ岩間氏ト共ニクラブノ方ヲ努力シテ貫ヒ其方デ共ニヤツテ貫フコトニ話シハシテアッタガ後チ、少シ行カナイト、ノケモノニスルナドト云ツテ居タトノコトデアッタ

大口晝会见後財部へ行ク 特ニコトワツテ呉レトノ依頼モアッタ爲夜福西氏ニハ前記ノ自分ノ意見ダケヲ述べ安田氏ノ今後ニツイテハ福西氏ニ一切御マカセスルコトトス

◆▼218ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月28日(水)

天気 晴

時事 本日ヨリ北支一帯ニ總攻撃ヲ開始サル

十時半東京駅デ会フ約東ニテ上京 斎藤ト會フ。石井へ電話シタガ会社へ來ナイトノコト ツヒニ二時迄待ツタガ來ナイ タクシーデ石井ノ宅迄行ツタラ土浦へ行キマシタトノコト 不都合ナヤツダ。シカモ三河島町屋ノ裏長屋デ、五万十万ノ大金ヲ取アツカウ人ノ住ム場所デハナイ スツカリ失望シタ ツマラヌコトニ之レデモ五十円バカリ金ヲツカツタ。スグ帰宅 岩間氏待ツテ居テ財産目録ヲ作り渡ス。粕谷君原外二名來場 大物飛行機ノ関係者トノコトデアッタガ、後チニ聞ケバ原ノ義兄弟ガ昭和飛行機ニ関係シテ居ルトノコト 明日十時會ヒタイトノコトデアッタ由。止メタ方ガヨイト云ツタガ大口熱心ナノデ向ノ云ヒ分ヲ聞クダケデ大口個人トシテ會ツテ見ルコトトス。ソレニヨリ安田福西ニ相談進行スルモ佳。

徳治又熱高ク醫者ニ回タノム ロクマクニナルカ肺門ガ進行スルカノ境ヒ目デ熱ガ出テ居ルノデマダ三四日ツ、クダロウガ心配ナイトノコトデアッタ

◆▼219ページ◆▼ 昭和12(1937)年7月29日(木)

天気 晴 小雨アリ

石井源吉ヨリ手紙昨日來テ居タ 今日午前十一時來テ呉レトノコトデアッタガ氣乗セズ齋藤氏トノ連絡モ取レナイノデ、大口原ノ行クノデ高根電機へ立寄り條件ニヨリ明日デモ會フコトス。奈良原氏來場 久保田氏ノ方ハコチラガイケナケレバイツデモヤルトノコト 東京瓦斯電モ其人ガ救ツタコトガアル由。日野氏カラモ手紙來 グライダー製作見積リヲ作レトノコトデアッタ。三時半頃安田氏ヨリ電話アリ スグ來テ呉レトノコトニ行ク 例ノ人々皆集マリ福西氏ヨリ報告ヲ聞ク 百万円全額拂込ミノ株式会社伊藤飛行機製作所ヲ作り財産ヲ十五万円ト見權利ヲ二十万円内十万円ヲ現金アト株券 十万円ハ來月十日ニ株ヲ募集スルカラ十五日ニ五万円 同ジク月末ニ五万円トシテ呉レトノコト 月末支拂ヒハ七千円以上 一万円位福西氏明日中ニ心配スルトノコトデアツテ成立迄ノ委任状ヲ呉レトノコトニ清平ヲ呼び書イテ渡ス。石田組山田氏ヨリ念書ヲ呉レトノコトニ之レハ株式会社トアリシヲ合資会社トシテノ名義デアツテ出ス 之ノ契約書ニヨリ一同又坂本ノ方ヘ行キ帰ツテ浅草、草津デ福西氏ヨリ夕食ノ爲メ宴会ヲ開カレル。明日小野氏代表ノ加藤氏ト契約スル由 御目出度御目出度デア田氏大分ハシヤグ 十二時帰宅

▲▼220ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月30日(金)

天気 晴小雨

時事 坂本飯沼トノ間ニ契約書作製

朝齋藤ニ行キ成行キヲ報告シスグ上京 安田ニ行ク 同道シテ福西ニ行キ三十五万円ノ内一割ヲ一日ニキメテアルガ三十万円ヲ五万円上ゲタコトニ福西氏ノハカライニツキ、ソレガ所分ハ福西氏ニ一任スルコトヲ申出ル カクテ株ノ割當テハ安田氏ト福西氏ニ一任異議ナキコトニ決ス。福西坂本ト會見ノ時刻ガ十二時ニナツテ居ルノデア田氏宅ニ歸ル。坂本差支アリ會見三時半頃ヨリ福西、塚本、山田、安田、岩間デ行ク 七時頃歸リ契約書ヲ受取ル 二通ノ内一通福西ニ渡ス 後チ金受取ル爲メ福西氏同道出ル 池ノ端ニテ塚本氏ト會フ 何ニカ福西氏ト打合セアツタモノラシイ。ソコニテ金ハ安田氏ノ前デ六千円福西氏立替ルトノ話ヲシタガ事案ハ一万円出來ルノデア福西四千元坂本飯沼デ六千円ツクツタトノコト スオ後チ千松クラブニ行キ坂本飯沼ニ會フ 福西ト自分ト四人デアルノデア外ニ奈良原氏ヲ入レ向フニ資本家代表トシテ加奈太木材ノ加藤氏ガ加ワルコト 八月中ニ会社成立ノコト、一万円ハ手金トスルコト 十五日ニ五万円這入ツタコト 土地登記書預リ渡スコトヲ決定 以上明朝契約ノ上金ハ土曜日ニツキ午前中ニ受取ルコトヲキメテ分ル 時二十二時半 安田ニ待ツタ大口ト同道シテ帰宅一時半 二時眠ル

▲▼221ページ▲▼ 昭和12(1937)年7月31日(土)

天気晴

十時迄工場ニ居リ中台デ十五円借り上京 上野ノ清流亭ニ行ク 間モナク塚本來 十二時頃福西氏來 先方ヨリ電話ガカ、ニ(ママ)行クコトニナツテ居ルトノコト 塚本ガ居ルノデ坂本ノ話シ出來ズ無慮(ママ)ノ内三時過ギル 漸ク電話アリ 四時坂本ニハ小川サンヘ行ツタコトニシテ八州ホテルニ行ク 飯沼、坂本二人ニ会フ。イキナリ重大事件ガ出來テ今日金間ニ合ワナイトノコト スデニ四時過ギテ居タノデ、スグ工場ヘ電話シテ大口ニ今日間ニ合ワヌガニ日ニハヤルカラト皆ニツタヘル様電話スル 結局親会社ノ株式賣リ出シヲ明日ニ控エ内部デ賣出シヲ中止スル説トニ派ニナリ大昆(ママ)乱ヲ來シテ居ルトノコトデアツタガ昨夜十二時迄待タサレタノモ現金デ持ツテ來ル筈ノ爲メデアツタノガ、ソウデナクナツタノデ、コレハドウモダメト思フ 財部ノ話シノ石上ガ金ヲ出サナクナツタモノト思ワレル 坂本ニ一万円ノ偽小切手ヲ書カセ福西ヘ引上ゲ更ニ福西氏ヨリ一万円ノ小切手ヲ受取り今日ノ支拂ヒ延期ノ理由トスル。安田、岩間、塚本、清平福西宅ニ來 以上ノ経過ヲ秘シ小川サンカラ福西ヘ入金シテ貰フコトガキマリ福西ヨリ一万円ノ小切手貰タコトト話ス 福西氏ノ話シハ実ニウソガウマイ。別二百円現金ニテ借リル 工場カラ皆自分ノ帰リヲ待ツテ居ルトノコト 電話シテ大口ハ帰サセル。帰途中台ニヨリ太田ヲ呼ビヨセ女工明日出サセルコトトス

▲▼222ページ▲▼ 8月

一 今月ハ新方針確立ノコト

右ニツキ自分ノ信念ヲ固クスルコト

一 グライダー新受注ヲ進メルコト

▲▼223ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月1日(日)

天気晴

朝国吉ト菅谷ヘ報告トコトワリニ行キ大口ヘ立寄り工場ニ行ク 昨日局金ガ間ニ合ッテ皆二分ケタ事実初メテ分ル。奈良福西ヘ電話スル 不在 妻君ニ明日ノコトガ氣ニナツタノデ電話シタ旨傳言ヲタノム 三時頃奈良原氏ヘ行キ久保田氏ノ方予備策トシテ進行ヲタノミ尚明朝一ノ瀬中将訪問 坂本ノ会社内容聞合セ方ヲ依頼シテ帰ル 徳治今日ハヤ、良好

▲▼224ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月2日(月)

天気晴

奈良原氏來 一ノ瀬中将ハ當方ノコト何ニモ知ラズ 株賣出シハ全然未定ナリトノコト
久保田氏電話スル 夕方五時東京會館ニテ會フ約束出來ル。皆ノ方ハ小切手ハ全物金
ニスルガ帰りハ遅クナルカラ明日支拂ハスルコトニシテ正午上京 一時福西二行ク 坂本ヨ
リ返事ナク三時半ニナル 同道シテ八州ホテルニ行ク 居ラズ 事務所ニ行ク 坂本飯
沼居リ坂本出テ來テ一時間後ニ金ヲ持ツテ來ルカラ、スグ知ラセルトノコト 福西帰宅
自分飛行館ニ行ク 間モ無ク奈良原氏來 五時五分前東京會館ニ行ク 久保田氏ト
會フ 久保田氏ノ方ハ十万二十万スグ出ス人ガアルガ、実ハ久保田氏自身五日ヨリ十
五日迄郷里へ妻ノ法要ニ帰ルノデ十七日迄先方へ延期シテ居イタトノコトデアッタ 一
時間余リ話シ奈良原氏ノミアトニ残り福西ニ行ク 坂本ヨリマダ何ソノ返事ナキノミカ
ドニ電話シテモ居ラヌトノコト。アキラメテ二人デ安田ニ行キ或程度事実トウソフマゼ
福西ヨリ報告 結局出來ナイモノトアキラメ帰リカケタ處へ坂本ヨリ電話アリ。今日
一ノ瀬中将へ知レタ爲メ話ガ表面化シ返ツテヨクナツタノデ明日ハ相違ナク渡ストノコ
トニ一同ヤ、秋(ママ)眉ヲ開ク スグ帰宅 ソレデモ十二時ニナル 然シ明日モドウカ知
ラ

▲▼2255ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月3日(火)

天気 晴

朝工場ニヨラズ作業会社ニ行キ二十円受取り内十円ヲ持チ十円ヲ工場へ奥山君ニ依
頼ス 奈良原氏宅ニヨリ今日ダメデアツタ場合ヲ予想シ久保田氏ノ方ヲ進メル爲メ東
京ノ連中ヲ説ク必要上福西ト奈良原氏ト會ツテ貰フコトトス。一ノ瀬サン聞イテ貰フ
コトトシテ上京 佐野ニ行ツタガ不在 後チ福西へ電話カ、リ金明日ニ枚ダケ落スコト
ノ諒解ヲ得(但シマダ未定ニツキ心配ナリ) 塗料ハ一日ニ送ツタトノコトニ安心ス
坂本返ナク夕方福西氏八州ホテルニ行ク 自分安田ニ行キ待ツ 例ニヨリ岩間、塚本
等集マル 六時半頃電話アリ八州ホテルニ行ク 坂本ト福西二人ダケデー昨日來坂本
ノ親会社ノ方ガ分利(ママ)大昆(ママ)乱ヲ來タシタガ今日正式ニ株即時賣出シガ決定。
コチラノコトモ發起人会ノ問題トナツタガ諒解ツイタトノコト 明日ハ必ズ金渡スカラ待
ツテ貰ヒタイトノコトデアツタ 福西氏ヨリモ口添エアリ福西氏ガ來タ時ハマダ混乱後ノ
祝賀気分デ大サワギデアツタ由 色々話シアツタガ福西氏ノ話シハテンデ信用ハオケナ
イ 結局明日ノ結果ヲ見タ上ノコトトス。大口財部ノ照(ママ)介デ工場ノモノノ金ダケ
デモト云フコトデ石上へ二千円借りニ行ク 其内ニモ坂本カラ三度石上へ電話ガアツタ
由 然シ石上氏不在ノ爲メ明朝十時トノコト 清平ト福西ヨリ五百円借りテ帰ル 安
田其他ニモ福西カラ以上ヲ話ス

▲▼2266ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月4日(水)

天気晴

役場ヨリ税金ノ件ニテ來 事情ヲ話シタ結果明日町長ニ會ツテ呉レトノ事デアッタ
青年航空團ヨリ篠田、小田両氏來 工場ヲ見テ鈴木館デ夕食後同車シテ上京 蒲田
迄送ラセル。清平同道福西ニ行ク 二階ニ山田氏外一名來テ居ルトテ下デ待ツ 坂本
ヨリ何等通知ナシトノコト 六時頃シビレヲキラシ、千葉へ行クコトニシテ出 安田ニ行キ
岩間三人デ対策トシテ今朝齋藤氏ト打合せタ五万円借ニ入レ進行サセルコト。久保田
氏ノコトヲ話ス 皆大賛成デアッタノハヨカッタ。齋藤へ行クツモリデ、市川迄來テ下車
齋藤へ電報デコチラダメト通知シ明日ヒル安田ニ居ル旨シラス
市川ヨリ福西へ今一度電話シタガ坂本更ニ通知ナシトノコト 安田氏ヨリ電話アリ 會
見ノ爲メ今カラ出懸ケル處ダトノ事
新聞ノ字ガ小サクナツテ讀ミニククナツタノデ市川デ四十度ノ眼鏡ヲ買フ 初メテ 金
五円也

▲▼227ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月5日(木)

天気晴

上京 航空局行き 南波サンニ試作奨励金願書ニツキ打合セル 茨木ニ等堪航証ハ送
ツタトノコトデアッタ
ナカヤス商店ニテ齋藤ニ會ヒ附近デ晝食ヲ取り佐藤へ同道ス 石井氏ト会見ノ模様ハ條
件ハ利子六分五ノ更ニ六分ニ出來ルカモ知レヌ。手数料三分ヲ二分トスルコト 但シ石
井氏ヲ合資会社ノメンバーニ加ヘ三千円程度ノ出資型式ヲ自分持參ノ中カラ出スコト
其内ヨリ齋藤氏ニモ分ケルコト 但シ齋藤ハ返ストノコト 松島電鉄デ保証人ヲ送り十
一万円ヲ借り内五万円ヲ齋藤へ 但シ契約ハ松島電鉄デナク菅原氏ヨリ借リルコトニナ
ルトノコト 佐藤氏モ諒解ス 三時半安田ニ行ク。岩間氏等ト六時頃米久ニ行キ夕食
後八時迄待ツ 大口モ來タガ何等通知ナク坂本ノ方ハ勿論福西モタ方出カケタマ(ママ)
帰ラズ不安ノマ、帰途ニツク
京成電車小岩ニテ事故アリ 十時半帰宅ス

▲▼228ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月6日(金)

天気晴

上原バンドノテープヲ買ヒ十一時京橋ニテ齋藤ニ會ヒ同道シテ石井ノ事務ニ行キ更ニ
飛行館中央亭ニテ晝食ヲ取リツ、打合せ 條件モ決定シタノデ進行ヲハカルベク松島ノ
方ノ手續キニ行ツテ貰フコトト明朝六時ノ汽車デ行クトノコト 旅費齋藤氏三十円立
替テ呉レル 飛行館内ヲ案内シ、分レル 奨励金ノ送金手續キ六台分ヲナシ、福西へ行
ク 三時頃デアッタ 丁度今帰ツテ來タ處トノ事デアッタ 坂本ハ小生予想ノ通り昨夜

ハ何モ云フテ來ズ今日モ電話デモ話出來ズ行ツタラ友人ノ瓜生ト会ツタバカリデ今会社内ガ紛糾シテ居ル爲メ金策出來ズ月曜日ナラ大丈夫ト思フトノコトデアッタ由。勿論ダメダガ其マヽトスルコトトシ差當リノモノニ対シ千五百円更ニ借リルコトトス 過日ノ五百円ト合セ二千円トシ約手ヲ書キ日歩二十五錢一ヶ月借リル 百五十円ヲ支拂ヒ千三百五十円ヲ受取ル 日歩ノ件ハ安田ニ内ニシテ呉レトノコトデアッタガ話シテシマウ 安田三百円呉レトノコトデアッタガ五十円ダケノ予定ノ處ツヒニ二百五十円ヤル但シ粕谷ノ内金トシテ

八時頃福西ヨリ電話アリ皆デ行ク 坂本ヨリ速達ニテ今日瓜生ノ話シト同ジ様ナコトガ書イテアツタバカリ タゞ聞キ居クコトトシテ散会 姫路製紐ニヨリ二百円支拂ヒ帰ル

▲▼229ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月7日(土)

天気晴

久シ振リデ工場ニ終日居ル 九時頃大坂ノ兄ト重來 夕方午後迄工場居ル 二時半帰宅ス 奈良原大口氏モ招キ夕食ヲ共ニス 青年團ノ五台ト其他二台組立完成ス 写真ヲ取ル 今日八家内迄三十八度以上ノ熱ガ出ル ヘントウ線ダトノコト 今日支拂ヒヲナス 随分切リツメタノダガ中々足りナカッタ

▲▼230ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月8日(日)

天気晴

今日重ヲ東京見物ニ連レテ行ク予定ノ處日野氏來ルトノコトニ清平ヲツケテヤル 同時ニ青年航空團金ノ件タノミニヤル 自分朝齋藤へ行ク 不在 妻君ニ三十円返済シテ帰ル 晝日野氏、萱場氏外一名來 萱場氏ヨリ日野氏ノ無尾グライダー注文スルカラトノコトデアッタ 何分ナニモナイノデ至急設計圖ヲヨコシテ貰フコトトス。グライダーノ製作ト練習ヲ見テ二時頃帰ル 兄終日工場ニ居ル 昨夜コチラノ狀況ヲスツカリ話シス。今夜十時半ニテ鳥羽行キニテ帰坂ス

▲▼231ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月9日(月)

天気晴

肩へ七時ノ一番デ出場 中台ニ行キ百円借入方申入レ後チ工場へ届ケテ貰フコトトス 六十円持ツテ來タ由 吉田ニヤル

上京 青年航空團ノ完成報告書ト試作機ノ分ヲ提出 明日証明書出來ル 十二日南波氏霧ヶ峯ニ行ク由

協会ニ行キ小野少将ニ奨励金ノコトヲ聞ク 南波氏カラ通知ガ來次第出ストノコトデアッタ 南波サンニ電話シタガA.T.ノ会議デツヒニダメ。東日ニヨリ、飯沼金太郎ニ會フ飛行場ト格納庫貸シテ貰ヒタイトノコトデアッタ

三時帰場 羽太氏ヨリ手紙來 返事出ス 石井氏ヨリ八日帰京手續キ中トノハガキアリ

晝バス内デ日野氏ニ會ヒ西沢氏ニ紹介サレ晝食ヲ丸ビル精養軒ニテ馳走ニナル 坂本ノコト相當クワシク知ツテ居タ

非常ニツカレヲオボエタノデ早く床ニ入ル

明日ハ休養ヲ取ル方ガヨサソウダ

▲▼232ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月10日(火)

天気晴

昨日アマリニツカレタラシカッタノデ今日ハ静養ス 熱六七度五分近ク終日アッタ 午前中アンマヲ取り眠ツタリ醒メタリス

夕方七時頃中村氏來 浮谷市長ガ船橋デ待ツテ居ルカラ一寸來テ貰ヒタイトノコトデアッタガ幸ヒノ病氣ヲタテニコトワル

▲▼233ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月11日(水)

天気晴

朝夕ハサスガニ冷ヤ、カデアッタガ日中ハ暑イ 今日ハ熱モ六度五分位デタ、コシガイタムダケデアッタガ直一日休養ス

曾(ママ)縦線ノ購入ニ苦心シタダケデ今日ハ比較的ノンキシタ

重ニ今日帰ルトノコト少シノバス様ニ云ツタガツヒニ鎌倉ヲ見テ帰ツタ。一日自分デ案内シテヤロウト思ツタノニツヒニ出來ナカッタ 土産物モ何ニ準備出來ナカッタ

夕方福西、岩間富尾氏來 坂本今日会ツタ由 百万円ノ会社ヲ先キニ創立登記シタイトノコト 絶対ニコトワルコトトス 富尾氏ノ先輩デ元三菱ニ重役シタコトノアル人デ

今遊ンデ居ル人デ金ヲ持ツテ居ルノニ出サセルトノコトデドノ位入用カトノコトニ二十万円ヲ稱へ營業上注文ガアルカ生産能力ハ如何ト云フ様ナ問ヒニ対シ具體的ニ話ス

▲▼234ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月12日(木)

天気晴

九時過ぎ工場ニ出ル 盆前ノ支拂全部コトワリヲ出ス
正午山ノ内君來 B六二台、A二一台受注 話シヲキメル 大分手間取ル
清平ト相談ノ上補万一ノ場合又福西カラ千円バカリ借りルコトヲキメ清平ヲヤル 尚
藤田ノ自宅訪問ヲヤラセル
クラブノ宮内練習生中台へ米ヲトラックデ運搬シタ帰り鷺沼踏切デ京成電車ト障突
重傷 渡辺病院ニ入院シタ由 安岡見舞ニヤル
今日ハ金ガナクテ閉口

▲▼235ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月13日(金)

天気 晴

八時半工場ニ出ル 安田ヨリ電話アリ 今日福西カラ五万円渡スカラスグ來テ呉レト
ノコト 変ダ スグ福西ニ聞ク 全然ソシナコトナク東邦ノ富尾氏ハ今朝先方ト会見中
トノコトデアッタ。スグ又安田へ電話スル 粕谷出テ塚本カラ聞イタトテ一昨日岩間ト
福西ガ津田沼へ行ツタコトガケシカラシナド粕谷一流ノヒガミ方デアッタ。安田不在ト
ノコト 相談ノ上行ク用ガアレバイツデモ行ク。兎三角大口今日行ツタカラ宜シクタノム
ト云ツテ居ク。奈良原氏來場
豊田來 休暇デ一寸下志津へ行ク由
萱場ヨリ圖面ト仕様書キ來 設計ニツキ木村氏ニ依頼スルコトニキメ奈良原清平ト相
談 賛成ス

▲▼236ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月14日(土)

天気 晴

時事 南京空暴(ママ)

青年團貫ツタ時ノ支拂方法其他ヲ指令シ上京 安田ニ行ク 山田、岩間、塚本來 待
ツコト久シク三時頃福西氏來 報告ヲ聞ク 坂本ノ方小生ノ意志ニヨリ無形ノ会社ヲ
先キニツクルコトヲコトワツタコトカラ一時中止ノ形 タゞ断然手ヲ切ツテナイトノコト。
富尾氏ノ方小沢寅吉中将ヲ出資者ト訪問 自分ノコトヲ聞キ合セヨカッタノデヤルガ
式三日直(ママ)考慮並ニ調査期間ヲクレトノコトデアッタ由 之レガ爲メソレノキマル迄
支拂一切待ツテ貰フコトノ諒解ナル タ方富尾氏ト会見ス。予算書ヲ見タイトテ作ッ
テ明日提出スルコトトス 富尾氏ハ非常ニ乗氣デアッタカラ、大丈夫ラシク人柄モヨカッ
タノデ安心 非常ヨク云フ人トヤリタイ 安田ガ來テ呉レト云フノデ帰りニヨル。原ノ
方ノ人ヲ連レテ來テ会ワス 変ナイヤナ奴デアッタ。粕谷ガ一人デ効(ママ)名ニシタイ
處カラ進メテ居タガ金ダケ出來テモ、人物ガ悪クテハダメダ 九時帰宅 清平ニ予算
書作製ヲ命ズ

▲▼237ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月15日(日)

天気晴

六時起床 七時十分前出 七時四十分千葉発ニテ奈良原氏ト同道サセス 十五日デ日曜デ田舎ノ盆ト云フノデ人多ク二等ニ乗リカエル 笹川ヨリ萩原ニ出タガ自動車ナクコデ豊田荒木ニ会ヒ同道シテ鹿島ニ行キ晝食後タクシーヲヤトヒ二時半鹿砂丘ニツク 榊原先生講演中デアッタ 終ルヤ奈良原氏ノ挨拶ガアリスグ三時和田氏ト共ニ出発 帰途ニツク 七時二十五分両国着 タゞチニ大森つるやニ車ヲ飛バシ井上、篠田、川北氏ノ送別会ニ参列ス 十時過ギ終ッテ自動車デ帰ル クタブレタ 今日ハマルデ飛脚屋サンノ様デアッタ
清平書類ヲ福西へ持参シタガ不在ノ爲メ塚本ニ渡シテ來タ由

▲▼238ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月16日(月)

天気晴

盆ト帰省者デ工場淋シクナル
朝福西へ電話カケ安田ノ方ノ話シヨナス 清平ニ富尾氏へノ書類書キ直シ持参サセル 福西氏ト同道富尾氏ニ会ツタ由 今日先方へ行クトノコト。協会金受領
夕方粕谷來 五時半頃藤井某外二名來 粕谷ノ説明ニヨルト松方幸次郎ノ秘書ダトノコト 一通り工場ヲ見テ別段経営上ノ事ヲ聞クデモナク二三土地ナドノ質問アッタ ノミデ帰ル 粕谷ノ云フ様ニ進デン(ママ)ハ居ラナイノデー安心ス

▲▼239ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月17日(火)

天気晴

晝前南波氏カラ電話ニテ青年團ノプライマリー悪イカラ堪航証持ッテ帰ッタトノコト 二時清平ヲ連テ青年團ニ行キ吉原ニ三時頃會フ ワイヤーノ切レタノハコブノ出來タ處ガアッタヤツ 三本ノ内二本ハ綱ミロノ根本デアッタ由。スデニピアノ線ト交換中トノコトデアッタ。パイロンガ一機ワイヤーガ切レタ爲メニモ取レタトノコトデアッタ。其他操縦線ガタンバツクルガーパイニナツテ、シヤツクルデ皆取ツタトノコトデアッタ 明朝九時南波氏ニ會フ予定
山崎栄ノ助氏正午來 昭和ルノノ話シアリタリ
五時工場ニ帰り金具ノ見テヲ作ラセル 夜業者少ナク廿三日發送間ニ合ヒソウニナク明朝総動員ノ予定

▲▼240ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月18日(水)

天気 晴 三四度

今年中一番ノ暑サノ由 風モナカッタ

二番デ工場ニ行ク 三河屋來 百円ダケ渡ス 太田、佐藤、大口、角ヲ集合シ無益ナ相談事ナド止メルコト 廿三日午前迄ニツイエル式機完成ノコトヲ申渡シ八時出九時十五分航空局着 南波氏ヨリ話シヲ聞キ駒林氏ヨリ東亜商事未拂ニツキ話シアリ 恐縮シテ引下ル 工場ヘ電話シタガカ、ラズ帰場ス スグ金物ノ製作ヲサセ清平ヲ先ヅ出張サセ今夜安岡ト坂本ヲ出張サセル手配ヲナシ三時再ビ上京 飛行館ニテ岡田氏ニ會ヒ五十円渡ス。木村氏來 曙ニ行キ無尾試作機ノ交渉ヲナス 風筒(ママ)実験ノ完成迄引受ケルガ機構ト計算ハ出來兼ネルトノコトニソレ迄ヲ五百円デ依頼ス 報酬ハドウデモヨイトノコトデアッタガ最低ソレデキメ模型製作費、風筒(ママ)実験費用ヲ至急知ラセテ貰フコトヲ約シ銀坐ヨリ自動車デ送ル 帰宅十時半

▲▼241ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月19日(木)

天気 晴

時事 南京火藥廠ヲ空爆ス

朝千葉ノ齋藤ニ行キ同道シテ菅谷ヘ中間報告ヲナス 齋藤氏ニ石井ノ手紙見セル本日菅原上京ノ由 帰途国吉ニ立寄り明後日幾分作ルコトニス 九時半工場ニ出 奈良原氏來 午後二時安井文部大臣ノ招キニヨリ中學校トグライダーニツイテ進言ノ爲メ上京ス 久保田氏明日多分会見ノ予定 終日在所 有馬少佐ヨリグライダーノ件ニツキ來テ呉レトノハガキ來 明日行ク旨打電シテ居ク

▲▼242ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月20日(金)

天気 晴

山ノ内來ラズ 久保田氏奈良原氏電話シタガモウ少シ待ツテ呉レトノコト。奈良原氏昨日午後二時ヨリ文部大臣ト会见 局課長七八人ニグライダー話シヲシタ由 三時間余ニ渡ツタトノコト 鹿島ヘ見學ニ行ク由 十時半出テ上京 航本有馬少佐カラハ職工派遣方ニツキ吉原二名伊藤二名トシテ呉レタ由 大変ナ好意デアッタ 中野君ガ來テ居タ 高橋大佐ト話シテ居タ 航空局ヘA二B六改造圖B二改造圖ヲ持参ス 井上三大森ビルデ會フ 株屋ニヤラセテ一時十方位出サセテハトノ話シアッタ。コチヲ四

五日中ニ決定ヲ見ルカモ知レヌカラ 其上ノコトニシテ貰フコトトス。浮谷市長ヨリ大口ニ電報アリ大口午前市川ニ行ク

東日ニ立寄り安田ニ行ク 原ガ來ルトノコトニ待ツタガ遅クナルト云フノデ安田氏ニタノミ、石川ト同道工場ニ帰り石川へ千五百円ノ約手渡ス(之レハ二三日前ヤツテアッタノガ判ガ違ツテ居タノデ書キ直ス)

不在中山ノ内來 三百円居イテ帰り廿五日發送ヲ頼ンデ帰ツタ由

▲▼243ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月21日(土)

天気晴

清平晝前帰場 圖ノ方ハ悪クナイトノコト 其後内ノヲ胴体支柱ヲ折ツタ由 斜ニ着陸シタノダソウダ

大口今朝浮谷氏八時ニ來ルトノコトデアッタガ電報ニテ今日行ケヌト云ツテ來タ 尚手紙ガ來タガ大口午後気分悪ク帰ツタアトデアッタ

今日ハ工場へ何辺モ行ツタリ來タリシタノデ足ガダルクナツタ

▲▼244ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月22日(日)

天気晴

今日ハ久シ振リニ雨ガアルトノコトデアッタガツヒニ來ラズ ヨイ天気デアッタ

青年航空團ノB二型二台明日完成ノ目算ツク クラブハ昨日一名入學者アリ。菅井名古屋へ行ケルコトニナツタ由(協会ノ航空士養生) 竹井夕方來場 四時頃安田原一行五名來 原ヨリ原自身トシテ航空事業ヲヤリタク最(ママ)非協力シタイガ自分ニハ金モナイノデ義兄ノ關係デ横浜ノ近藤賢ニニ後援シテ貰フコトニナツタノデ明後日午後四時會ツテ呉レトノコトデアッタ。承認ス

中台賄止メタイトノ話シ安岡ヨリ通ジル 九時頃行キテ妻君ニ會フ ヨク當方ノ成行キヲ話シ今月中ニハドレカマトマルコトヲ手紙ナドニヨリ話シ了解サセル

福西へ朝電話スル 明朝午前中ニ來テ呉レトノコトデアッタ

宮崎氏來 大口へ行ク(大口病氣欠勤)

▲▼245ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月23日(月)

天気晴

時事 陸兵上海ニ上陸 ○○ヲ攻撃中

風ナク暑い日デアッタガ夕方雨アリ涼シクナル 暑モイヨ、峠ヲ越シタトノコト 明日ヨリハ涼シクナル由

B二青年團行き 今夜ハ徹夜ニナリソウデアッタ

清平木村氏ト協会ヘヤル 木村氏出張不在ノ爲メ研究所ヘヤル。正午福西ヘ行き岩間氏モ同道 富尾氏ヲ訪問ス 富尾氏ハ非常ニ熱心デアルガ先方ハ時局柄臨時議會ノスム迄待ツテ呉レトノコトデアッタガ尚ソレ以上早く進メル方法ハ取ツテ居ルトノコトデアッタ

皆デ高島屋ノ航空展ヲ見ニ行ク爲メト自分ノコトヲ民間航空界ノ父トシテ出テ居タ東日ニ立寄り奈良原氏ニ会フ 報知、新荒蒔氏ニモ會フ 明日鹿島ヘ行コウトノコトニ意動キ安田ヘ行き明日原トノ會見ヲ延期シテ貰フ。工場ニヨリ帰宅 清平夜中ノ一時半ニ帰ル。其爲メ眠レズ

▲▼246ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月24日(火)

天気 晴

朝少シ冷シカッタガ後チ熱クナル

清平鹿島ヘ行ク 五時過ギ帰ツテ來タ

七時半工場出 八時過ギ浮谷氏外一名來 九時過ギ浮谷氏出資者ト云フ人が二人來。神戸ノ藤原延來 エタパイノ篠塚保カラタノマレテ僕ノ意見ヲ聞キタイトノコトニ実情ヲ話シ希望モ述ベル 但シ此際篠塚氏表面ヘ出タノデハ出來ナクナルト云ツテ居ク。

宮崎、三宅、小野サンノ代理トシテ親戚ノ辨ゴ士ト云フ人が來 工場ヲ見自分ノ意見モ一寸述ベテ居ク 小野サンハ大ゲサナ事が大キライナ人ダトノコト 其點ハ一脈相通ズルモノアリ ソレガ一番ヨサソウナ話シタガ出來テ呉レレバヨイガ何分旅行中デ二三日中ニ帰ルカラ其上相談スルトノコト

晝頃ヨリB二積込ミヲ初メ三時出發ス 梅川同乗 太田今夜行ニテ行カセル 日野氏明日會フ約束ス 無尾見積リヲ終ル

▲▼247ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月25日(水)

天気 晴

清平ヲ先キニ上京 振替ヲ出サセテ居キ後チ上京 青年團ノ写真間ニ合ワズ明日ノコトニス 丸ビルニ日野氏ヲ訪問 見積書ヲ見セル 一万六千〇五円 日野式デヨカロウハハハトノコトデアッタ 西沢氏ニ會 事ム所ニ新ラシク呉重工業株式会社ノ名ガ書レテ居タ 二千万円ノ新会社創立スル由 志村利根川両重役ニ照(マ)介サレル 晝食ヲ共ニス 清平來 皆デ又高島屋ヲ見タイトノコト 同道ス。永井通相ヲ河内君ガ案内シテ居タ。宮崎君高橋君ニ會フ 二時過ギ萱場ニ行ク 一万円以内デ上ゲテ貰ヒタイトノコト ソレニハ模型試験ヲ少クスルコト 重量ヲ緩和シテデュラルミンヲ使用セザルコトトシテ見積リヲ直スコトトス 大變急イデ居ラレタノデ明日スグ出スコトトス

京橋ノ日進閣ニ原ニ會ヒニ行ク 清平先キニ帰ヘス。原安田、自分トデ四時有樂館ニ原ノ後援者日本カーボン社長ニ會フ 二十分位ノ會見 タゞ原ノチヨウチン持チヲシタダケデ帰ル。原ニ対スル氏ノ信用モウタガワシイモノダ。佐藤ニヨリ工場ニヨリ帰宅
久次郎帰ル 九時頃夕方方ヲ共ニス

▲▼248ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月26日(木)

天気晴

終日在所 奈良原氏來場 久保田氏電話ニテ交渉 話シハ着々進行中 コチラへ來ル時
ニスグ金ヲ渡セル様ニシテ會見スルトノコト ドウモアヤシイ
石井ヨリ速達來 菅原氏上京 廿七日夜相談ノ上決定通知スル由
西沢氏ヨリ電話アリ 會ヒタシトノコト 明朝行クコトニス
清平上京サセタガドコモ皆ルスデダメトノコト 日野氏ニモ會エズ 西沢ノ事務所へ預ケ
テ來タ由
作業状態進行遅ク氣ヲモム 佐野塗料送ラズ送ラズ

▲▼249ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月27日(金)

天気晴

西沢氏が會ヒタイトノコトニ上京 丸ビルニ行ク 十時十五分会見 同氏等ノ吳重工
業へ合同或ハ提携シテ呉レヌカトノコトデアッタガ今日ノ状況ヲ一寸話シ決定ハイタシカ
ネルガ將來会社ガ才出來ニナッタラ提携スルト云フコトハ差支ナイト思フト考ヘル間モナ
ク日野氏來 昨日ノ見積書ヲ見セル。ヨカロウトノコトニ萱場氏訪問 正式注文書出シ
テ貰フコトトシテ雑談 原ノコトヲ聞イタガニヶ月程以前カラ知タトノコトニ多クヲ語
ラズ 寺村氏ノ方ハ三百万円デ満州ニ修理ト部品ノ製作 三四年後ニハ新機ノ製造ヲ
ナシニ千万円ニスルトノコト 森坂ト云フ研究部長ニ照(ママ)介サレインボーグリンヘ
晝食ニ行ク。協会ニヨッタガマダ誰レモ帰ツテ居ラズ。佐藤ニヨリ、タンバツクルヲ交換シ
ワイヤーヲタノミニ三時帰宅

▲▼250ページ▲▼ 昭和12(1937)年8月28日(土)

天気晴

局青年團ノBニ堪航証ト協会金請求ニヤル
安田照(ママ)介正金洋行ヨリ大坂ノ中村某ヲ同道 話シヨレバ飛行場事業ノ爲メニ
百万円ノ会社ヲニ三人ニテ設立準備終ツタガ人ガナクテ困ツテ居タトノコト 丁度ヨ
イカラ最(ママ)非ヤラセテ貰ヒタイ スグニモ決定シタイ様ナ話シデアッタ 午後大ロク

ヤル 安田ヨリ委任状ト坂本ノ契約書ヲ持ッテ來テ呉レトノコト 契約書ヲ持タセテヤツタガ委任状ハ清平ガ判ヲ持ッテ居ルカラ、ソチラデサガス様電話ス
福西ノ方電話ス 今岩間氏ガ來テ居ルノデ共ニコレカラ富尾サンヘ行ク處ダトノコトデアッタ

◆▼251ページ◆▼ 昭和12(1937)年8月29日(日)

天気晴

富尾カラ來テ呉レトノコトデアッタガ行ケズ電話ヲカケル 石井カラ手紙ガ來テ居ルノデ相談シタイトノコト イヨ、ハダメト思ワル
菅谷氏カラ電話アリ 正午大須賀氏來 東京カラ來ル人ヲ待ツタガ來ラズ 一時半帰ル バス一ツ違ヒデ二人來 結局大坂ノ中村ノ話シデアッタ 又モ遇(ママ)然一所ノコトニナツタノデ二人共事実ヲ話シ安田ハ以前カラノ關係ガアルノデ手ヲ引イテ貰フ
朝国吉來 千五百円ニテ買戻シ登記終ル 即チ千五百円ノ借金付土地ヲ買ツタコトニナル訳デアッタ コレモヨシ。大口休マセル 安田今日二時ヨリ中村ト会见 大須氏丸龜市長八年ヤツタコトアリ 中村ハ丸龜出身ノ由 ヨクワカッタノデア安田ヘ知ラセテ居ク
山ノ内へ清平ヤル 二百円受取ル 木造リ中學三日ニ延期サセル
今夜十時発車ニ積込ムノニ大骨折ツテ漸ク間ニ合ス。終ッテ帰宅

◆▼252ページ◆▼ 昭和12(1937)年8月30日(月)

天気晴

一番ノ自動車デ齋藤ニ行ク 石井カラ手紙デ松島ト一所ノ件ダメ 他ニ奔走中 尚保証人ガアレバ十万デモ十五万デモ出ストノコト
菅谷氏ニヨリ昨日ノ大須賀氏ノ件報告。大口ニヨリ入院手術ヲ進メ金二十円置イテ帰ル。佐野利一來 手形書キ替タガ判ナク明日送ルコトス 国吉氏役場ノ証明書出來ズ大坂迄ヤルコトトス 粕谷來 五日迄ニ必ず大坂ノ方來ルコトニ決定シテ居ルトノコト 大口ノ書イタ委任状ヲ書キ直シテ呉レトノコトニ書キ直シ訂証(ママ)シテ渡ス 外ニ自分ト連名デ手紙ヲヤツテ呉レトノコトデアッタガコレハ安田ノ名儀(ママ)トシテ書イテヤル。一段落仕事ガツイタノデ、太田、佐藤、角ヲ呼ンデ仕事ノ打合せヲナス 二時頃ヨリ鷺沼ノ家ヲ見ニ行ク 少しセマイガ氣ニ入ツタ。四時帰宅ス

◆▼253ページ◆▼ 昭和12(1937)年8月31日(火)

天気晴

昨日清平青年團貰ッテ來タノデ工場員ト中台ニ分ケテ支拂フ 大変苦心ス 奈良原

氏二十円 鳥飼氏五円

朝大口ニ行ク 入院後万一ノ場合安田ノ方如何ナルロ約ニナツテ居ルカラ聞キニ行クヤハリコチラ手取り廿五万円ト云ツテアル由 馬鹿ナコトヲ云ツタモノタガ奈良原氏ニ一割ヲ天引スルコトニシテアル由 尚其他ノ方面ニ一部解決シナケレバナナイカラソレ等モセリ上ゲタ五万円ヨリスル事ヲ大口上京スルカラ今日話シスル様云ツテ居ク。大口入院手術ヲコワガリお灸ノヨイノガアルカラト上京シタ。後布施サンニ電話デ話シタガ、絶対ニ大至急ヤラネバ半年位シカモタナイトノコトデアッタ

▲▼255ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月1日(水)

天気晴

朝大口ニ入院ヲ進メルベク行ツタガ昨日ノ御灸大変ヨサソウデ現ニ胃ガンノ人が直リツアルトノコトニ一週間ヤツテ見ルトノコトデアッタ 安田ニ六分配上ノコトハ話シナカッタ由

工場ヲ出岩間氏ニ電話スル 昨日安田ヘ行ツタガツヒニ話シ出ナカッタトノコト 福西ト対策ヲ講ジテ貰フコト 四日ノ二千円間ニ合ヒ兼ネルノデ延期方頼ム。六万円ハ柳父氏が都合スルトノコトデアッタ。上京 協会ニ行ク 小野サン帰ラズ 明日帰ル予定トノコト スグ送金スル由。萱場氏ニ電話スル 明日十時ニ來テ呉レ、契約スルトノコト 但シ予算ガ少ナイノデモット引イテ貰ヒタイトノコトデアッタ。航空本部ヘ納入済ノ挨拶ニ行キツヒデニ練習ノコトヲ聞イタガヤハリ陸軍大臣認定ノ處デナケレバトノコトデアッタ。朝日新聞ニ中野君ト會フ 練習機ノ製作ヲ考ヘテ居ル由 ヨクタンデ帰ル 東日ニ行キ五時過ギ迄居ル 三島ノ修理金其他受取り帰ル

▲▼256ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月2日(木)

天気晴

八時半ヨリ上京 協会ニ立寄り昨日忘レタ名刺入レヲ受取り送金方ヲ依頼シ萱場ニ行ク 結局七千五百円ニテ決定 契約書ヲ作テ貰フコトトシ、其間研究所ニ山崎氏訪問 試験機ノ計算書今月中ニ出ス様依頼 八月分三十円渡シ再ビ萱場ニ帰ツタガ手續キオクレ五時半終了 式千五百円第一回分受取ル(小切手)。中谷ニ斎藤ヲ訪問 同道シテ帰ル 個人デ十万円借りタラヨカロウトノコトニ借入申込書ヲ兎ニ角出スコトトス 船橋ニテ分レル 今日ハ昨夜カラ下痢シテ居タノデ一食モセズ帰ル パントスープロ喰ツタガウマカッタ

▲▼257ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月3日(金)

天気 晴

茨城工業命名式ニ奈良原、大坂、清平、出張ス
工場給料八月分支拂ヒヲナス 中台式百円渡 三河屋五百円支拂ヒヲナス
夕方富尾氏及兄、同社専務來場 岩間福西同道一二時間話シテ帰ル
久々田ノ山崎氏ノ家ヲ見ニ行ツタ 思ツタ様ナ家デハナカッタガ広イコトハ広カッタ 家
賃ノ三十五円モ一寸高イ様ダ

晝前久シ振リデ第一へ見ニ行ク 妻君ヨリ色々話ヲ聞キ作業中ノ人々ニ心ツイタコトヲ
一寸注意ス 話シ中フト思ヒツイタコトダガ學校ノ合同問題帰ツテ安岡ニ話ス 即チク
ラブ、帝國、第一ヲマトメテ一ツノ名稱ノモトニ統一シ事ムヲ一ヶ所デ取アツカヒ練習
生ヲ平均ニ分配シ、練習員各別會計デナスコト 之レナラ鈴木デモ應ジ得ルコトト思フ
川辺兎玉氏

▲▼258ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月4日(土)

天気 晴

石井グライダ―修理少シ時間延バシテ完成ス
明日ヨリ七八月精勤者ニ慰勞休暇ヲ與ヘル
絵料支給 近藤霧ヶ峯へ城本ト交代ニヤル

夕方ヨリ奈良原氏ト上京 曙デ木村氏ヲ待ツ 清平ト連絡サセテ居イタノダガ七時ニ
來ル予定ガ八時頃電話デコトワツテ來タ。之レハイケナイ 月曜日更ニ連絡シテ呉レト
ノコトデアッタ

川辺兎玉氏ノ妻君連レテ來 徴兵保險ヲ進メラレル コトワル訳ニ行カズ困ル 川辺ノ
獨善主義ニモ困ル

▲▼259ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月5日(日)

天気 晴

▲▼260ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月6日(月)

天気 晴

竹崎來ラズ電話ス 明後日行クトノコト

千葉縣廳ハ主任不在ニテ金受取レズ

今日霧ヶ峯出張中止ノ止ムナキニ到ル

夕方曙ニテ奈良原、木村、清平自分会合 KH式無尾機ノ設計ニツキ打合セ会ヲ開ク

最一週間羽田ニ居ルカラ其間ニヤルトノコトデアッタ
児玉妻君來 和子二千円入レサセラレタガ金ナク明日持タセテヤルトトス 猪又中台
頼ミニヤッタガダメ。ドウモ自分サエ遺憾ニ思フコトヲ人ニ余リ進メラレナイ

◆▼261ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月7日(火)

天気 晴

協会ノ金這入ツタノデソレ、支拂フキメ
百円受取り旅費トシテ夜十時四十分新宿發ニテ出發ス
岩間氏外二名來 工場ヨツテ帰ル 柳父氏關係ノ人トノコト 岩間氏ニ保俵(ママ)ノ金
事傳ケ児玉サンへ届ケテ貰フ

◆▼262ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月8日(水)

天気 曇リ晴

五時前上スワ着 サギノ湯ニ行キ湯ニ行ク 熱クシテ這入レズ 少シ横ニナツテ七時半布
手へ電話ス 河内氏ヲ呼出シ聞ク 八時半ヨリ式ヲヤルトノコトニ大急ギテ朝食ヲ命ジ
自動車ヲヤトヒ山ニ登ル 途中自動車ニ何台モ會フ 山ハ霧深カッタ 寒サモ寒カッタ。
スグ中隊教練ノ様ナコトガアリ終ツテ學科シ間、次ギニ飛行スル筈ノ處天候悪シク本部
前ニテ終了式ヲ行フ 終ツテ隊員ノ飛行アリ 午後二時半ヨリ教官練ノ八機一整(ママ)
飛行アリ 見事デアッタ 後チ沢田君ノウインチ飛行 タカニテ八分間飛ブ 終ツテ自
分ハ一足先ギニ失礼シテ帰ル 山ニテ井上大将ト会谈後講堂用ノ額ヲ書イテ貰フコト
ヲ約束ス 摺沢大佐カラハオシカリガアルカト思ツテ居タラアベコベ二期日ヲ正確ニシタ
トホメラレタ

サギノ湯ニ帰ル前上諏訪神社ニ参拝ス タ方モ又湯アツク這入レズ、禪ノ本ヲ讀ム 夜
活動ヲ見タガツマラナカッタ

◆▼263ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月9日(木)

天気 曇夕立

七時起床入浴 今日ハユックリ湯ニシタルコトガ出來タ 出テ禪ノ本ヲ讀ム 九時半宿ヲ
出テ十時二分發上リ列車ニ乗ル 井上大将ト同列車ニナリ二等車ニノリカエ甲府迄二
時間語リツゞケ色々航空界ノコト局ノコト禪ノコト、航空界ノ古イ人ノ話シナド出ル
甲府ハ出征見送りデ大變ナサワギデアッタ。自動車デ玉幡飛行場ニ行ク 途中ヨリ大
雨トナリ飛行場ニツイタ頃大雷雨トナル 上ルノヲ待ツテ飛行場内ヲ見セテ貰フ アン
リオ三台サルニ台サン式一台キレ(ママ)ニ手入レシデアッタ

梅沢氏ト同道氏ヲ宅ニオクリ三楽荘ニ行ク 三時丁度返サレタ 坐敷ノ前ノ地藏堂へ
今雷ガ落タ處ダトノコトデアッタ 夕井湯ハ自分ニ丁度持ツテコイノヌルイ湯デシカモ
山近ク緑ノ香清々シク氣持チヨカッタ 讀書。五時梅沢君來 夕食ヲ共ニス
讀書ト坐禪ヲクミ九時就寢

◆▼264ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月10日(金)

天気 雨

終日ビシヤ、、降りお蔭デ附近ノ散歩ヲ中止ス 入浴後禪書ヲ讀ミツヒニ讀ミ終ル
大分役スル處アリ 尚研究シタシ

帰場後ノ方針ニツキ考慮 月千円利益ヲ目的トシテ予算計畫ヲ立ツルコト

○時六分發ニテ出發 出征見送りデ大変十人 ツヒニ三等ニ乗レズ二等ニ乗ル 車掌來
ラズ乗替モ出來ナカッタ 浅川下車。多摩御陵ニ參拜 浅川發電車ニテ五時半帰宅ス
大口昨日入院 少シ手オクレトノコトデアッタガ手術ニツキ研究中ノ由。清平帰ツテ來
テ明日手術スルトノコトデアッタ 手術出來ナイトスレバ死ヲ待ツ外ナカッタデアッタ

◆▼265ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月11日(土)

天気 風雨

颱風ハ四国ヨリ岡山ヲ経テ日本海ニ出ル

朝一番ニテ千葉醫大ニ行ク 九時二十分手術室ニ運ブ 其前口カラ胃ヲ洗滌ス 九時
四十分頃ヨリ手術初メ一時間半ニテ終ル 昨夜眠ラナカッタトノコトデアッタ 看護婦
モ中々シツカリシタノガ來テ呉レテ安心デアッタ 醫師ニ様子ヲ聞クベク待ツタガオソク
ナルノデ正午後(ママ)キ工場ニ出ル 先ヅ手紙ヲ見ル 奈良原氏ヨリ清水氏ヨリノ申出
ヲ聞ク 明日カ明後日來場スル由 帝商今朝持ツテ行ツタ由 高田信行カラ横山氏來
ルノト手紙デアッタガ午後三時頃横山外二名來 内一名ハ鹿島ニ土地ヲ持ツテ居ルノ
デグライダーヲヤリタイトノコト 奈良原氏ヨリ説明シテ貰フ スツカリ嬉(ママ)ンデ新
タニ株式会社ヲ作ルヨリコノ工場ヲ土台ニシテ会社ヲ作ル方ガ早イト云フコトニナリ最
(ママ)非鹿島ヲ明日カ明後日見テ呉レトノコトデアッタ
大口ハカンモ余程進行シテ居テ皆ハ取り切レナカッタトノコト イヅレ然シ五年十年生
キル人ハアル由

◆▼266ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月12日(日)

天気 晴

七時半ヨリ工場出 岩間君ヨリ電話アリ 福西氏會ヒタイトノコト 十時半上野駅ニ

テ約束シ上京 岩間福西氏ニ會ヒ正午ヨリ共ニ富尾氏訪問 第一案丸大ヨリ六万円
融通ノコト 第二案東部写真ヲ目下ニ菱へ譲渡交渉中ニテソレガ出來次第飛行機ニ代
ルトノコト 第三案トアッタガソレニツキ富尾氏ノ令兄京都へ行クノニ必要ナ書類ヲホシ
イトノコト 財産目録ダケ明日届ケルコトニシ経歴書ハ持参タノヲ渡ス 話シ永クナリ
四時辭シテ帰ル 帰途岩間氏ニ地所ニテ五十円融通方依頼ス 考慮スルトノコトデアッ
タガアテニナラズ。帰宅五時十五分 山崎氏帰ル處デアッタ 一寸會フ 清水氏紳氏
外出資者一名奈良原氏ト話シテ居タ 出資者ト云ノハ中山ヤ兄ヲ知ツテ居ルトノコト
大坂ノガリ、商人ラシイ人相 失望ス

◆▼267ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月13日(月)

天気 晴

清平岩間氏へ財産目録持参 局、木村氏青年團、安田へ行ク
朝スグ奈良原氏訪問 三千五百円乃至五千円借入金ノ件清水氏ヲ通ジ依頼ス 十時
帰場 山東午後休

午後太田、佐藤、角來 工場員動ヨウノ逃(ママ)アリトノコト 最モ上野一派一番ウル
サイトノコト ヨク事情ヲ話シ且ツ自力更生ヲ説ク
横山氏ヨリ明日財産目録ヲ持ッテ來テ呉レトノコト 三時半協会ヨリスグ來テ呉レト
ノコト 上京 プライマリートセコンダリー各一機ツ、注文スルトノコト 見積スグ提出
明日決定スル由 伊藤少佐ノ話シハドウモオカシイ
三河屋ニ立寄ツタガ不在 帰ル

◆▼268ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月14日(火)

天気 晴

横山強二郎へ十一時過ぎ着 工場ヲ五十万円ニ鹿島ヲ五十万円ニ 計百万円ノ現物
出資ノ会社ヲ作リンレデ興銀ヨリ十五万円程融資ヲ受ケテ仕事ヲシテ更ニ増資ヲスル
方針 ソレニ六丁度結城日銀総裁ノ友人デ尾崎敬義ト云フ人ガ引受テ呉レタカラ必ず
出來ルトノコトデアッタ。清平カラ電話アリ 協会ノ伊藤氏工場へ行ツタトノコトデ晝
食ノ馳走ニナツテスグ帰ル 渡辺某丁度奈良原氏ト話シテ居ル處デ千住某ノ手紙ヲ持
ツテ居タ 千住渡辺共ニ全然知ラヌ人デアッタ。學校合同第一案ヲ作製 安岡ニ渡ス

◆▼269ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月15日(水)

天気 曇リ

防空演習第一日 奈良原氏早クヨリ來場 鈴木、午前第一午後飛行ス

清平協会ト青年團ヘヤル 竹崎ニ會ワセル 夕方竹崎氏來 七百円受取ル 千円ノ領収書ヲ出ス

明日ノ鹿島行キ雨フレバ延期トス

千住某明日來テ呉レト云ツテ來タガ明後日ニス

◆▼270ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月16日(木)

天気 雨

鹿島行キ明後日ニ延期

南波氏來 十時頃ヨリ式時頃迄C五検査ヲ受ケル 其他種懇談 大変ヨカッタ

協会プライマリートセコンダリー注文アリ清平上京ス。安田ヘ式百円持参 手形一枚ト持タセテヤル 夜帰ラス

◆▼271ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月17日(金)

天気 雨後晴

時事 本日ヨリ本格防空演習 東京及近縣一帶

千住某ヘ十時五分钟前行ク 三十分程シテ広瀬某外三名來 過日千葉(行クト云ツテ居タノハ合同銀行ノ古荘(行ツタノデアッタ 同行(出サセルカヲトノコトデアッタガ即答セズ考慮ノ上返事スルコトシテ十一時半辭ス 東日(行キ帝国興信録ナク人事興信録ヲ写ス 岩間氏來 丁度會ヒタカッタ處デアッタノデ若松ノ二階(行ク 福西ノ方順潮ラシク例ニヨリ委任状ヲ呉レトノコトニ富尾トカギツテ渡ス。千住ノ件(横山ノ件話ス分レテ滝ノ川ニ出田氏訪問 Cニ延期ノコト十月二十日迄トシC五同時ニ納メルコトニ諒解ヲ得。時間十五分前帰宅シタラ清平青年團ヘヨバレテ行ツタトノコトデアッタ 夜會ヒ明日鹿島(行クノデ、用件ヲ命ジテ居ク

◆▼272ページ◆▼ 昭和12(1937)年9月18日(土)

天気 晴後曇

六時十分前出 千葉七時四十分ニテ奈良原、大貫、遠藤氏ト鹿島砂丘調査ニ行ク 九時過ギ佐原着 自動車ニテ砂丘ニ行キ北側ヨリ見テ更ニ海軍用地ノ南側ヨリ登リ三ツノ峯ヲ見テ十二時終ル 南ノ端ハ着陸場ナクダメデアッタ 其他ハ中級迄ノ練習ニハヨシ 西側ノ平地ニ飛行機ノ離着トウインチニヨカッタガ他ノ地所デアルトノコト。大貫氏ノ事務所デ晝食ノ馳走ニナリ三時九分佐原発ニテ帰ル 途中千葉(大口ヲ見舞ヒ帰ル 清平九時頃帰ル 協会千百円内金受取ル

▲▼273ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月19日(日)

天気 雨曇

八時工場出 木工ダケ作業休ミ多ク出勤命令ヲ出ス

十一時頃田中敬三山本氏外二名木更津ノ帰りニ一寸立寄ラル

奈良原氏來 今朝四時半カラ鴻ノ台練兵場へ行カレタ由 クラブハ無事飛行ヲ終ル

午後試験ノ爲メ羽田へ一三アソリオ空輸

安岡弟本日挨拶ニ來 暇ヲ出スコトス

午後上京 横山ニ行ク 話シ変ツテ会社作ル前ニ金融サセルコトニシタトノコト 土地ハ

出來レバ別箇ニシ必要上一所ニスルモ可ト云フコトデ、アツタ 金融トナレバ又考慮ノ余

地モアルノデ明日財産目録ト経歴書持参ノコトス。東日ニ寄り古泉氏ノ出征ヲ送ル

羽太氏モ丁度來テ居ラレタ。修理ガ間ニ合ワナクテ困ツテ居ルトノコトデアツタ

▲▼274ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月20日(月)

天気 曇

朝工場ニ出ルト浮谷氏來テ居タ 会社作ルコト金融スルコト運動スルコトノ諒解ヲシテ

呉レトノコトデアツタ 他ニ大分進行中ノコトヲ話シテ居ク。大立目ト鉄屋デ金ヲ出ス

トノコト 之レハコトワル。久々田醫院ノ照(マ)介デ大森氏來 某自動車部分品製作

所デ金ヲ出シタイトノコト 人物如何ニヨツテ御相談スルト返事ス。帝國興信所ヨリ來

石井カラヨコシタモノデアツタ 晝過ギ帰ル爲メニ岩間君ニ會エズ清平ヲヤル。局ニ行ク

南波氏大連ニ出張不在 十日間程カ、ルトノコト プライマリーノ方ハ堪航証出ルコトニ

ナツテ居ルノデ貰ツテ帰ル。横山ニ行 財産目録ヲ持参 経歴書ハ岩間氏ノ手許ニアツ

タノデ明日東日へ届ケテ居イテ貰フコトス 安田氏ト電話デ話ス

▲▼275ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月21日(火)

天気 晴

終日在所 青年團ノトイフェル間ニ合セル爲メ工夫ヲコラス

清平上京サセル 鷺尾上京 巢鴨中學受注。王子モ有望トノコト 行きサエスレバ注文

取レテ面白イ程ダ

協会ヨリトイフェル追加注文アリ

佐藤材料間ニ合ワズ閉口。操縦索羽田ニ居ル安田ニ電話シテ木下デ分ケ貰フコトス

▲▼276ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月22日(水)

天気 曇り

終日曇り 夕方ヨリ雨

佐藤へ買物ト支拂ヒ 柳下、沢田ニ立寄り晝頃安田ニ行ク。原ノ前ノ私案ナルモノヲ見セ、コンナ條件ダカラダメトコトワツテ貰フコトトス 石川來 廿四五日ニ金ガ入用トノコト 大分困ツテ居ルラシイノデ一通リノ挨拶シテ急イデ帰ル 二時
工場作業進行ヲハカル 夜業木工休ムモノ多シ 女工徹夜

▲▼277ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月23日(木)

天気 晴

青年團行B二型作業進ム 明日晝積出シ確実トナル 但シ吉原ノ方四時頃取りニ來ル 其上ニテ吉原へ立寄ツテ呉レトノコトデアッタ
奈良原氏來場 清水君來 C二組立テ大坂安岡一三ニテ羽田へ空輸ス
夜朝日ノ中野君カラ電話アリ 霧ヶ峯へ指導者トノコトデアッタが大坂輸送会社へ這入ルコトニナツタノデ島君ヲヤルコトニス 協会ノ方ハコトワルコトトス

▲▼278ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月24日(金)

天気 晴

七時五分前ノ一番自動車デ奈良原氏へ行き同道シテ横山ニ行ク 遠藤氏居リ四人ニテ尾崎敬義氏訪問 大分親シイ間ラシカッタ 結局会社ヲ先キニスルコト、土地ヲ伊藤名儀(ママ)ニスルコト、伊藤大貫共同ニスルコトニツノ案ノドレヲ取ルカ先決ノ必要アリトノコトデアッタ 十一時辭シテ東日ニヨリ、航空局西川氏米國へ○時半ニ出發スルトノコトニ東京駅迄見送りニ行ク。清平待ツタガ來ラズ帰ル。飯沼來 明日カラ來ルカラタノムトノコト 報酬キメナカッタガスルトノコト 安岡教官筆頭トスルコトヲ條件トス。青年團トイフェル五時出發ス 漸ク間ニ合ツタ

▲▼279ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月25日(土)

天気 晴

七時半工場出 幹部ヲ集メ協会用グライダー廿九日完成ニツキ打合セ、總動員ト共ニ深夜業ヲナスコト 完成ノ上ハ二日分賞與ヲ出スコト 休ミソウナモノダケ集メ自分ヨリ特ニ話ヲナス 皆大ニハゲンデヤリ初メタ
奈良原氏來場 昨夜浮谷氏ヨリ東京ノ某鉄工所主デ佛國カラ發動機ノ權利ヲ買ツテ來タ人ガアリソレヲ生カシテヤレバ十萬円位出ストノコト 廿八日午後五時ヨリ會ヒタイトノコトデアッタ

鷺尾助川ヨリ電話アリ 明日帰ル由
肥田木帝国商業へ齋藤前野、松戸へ出張サセル

▲▼280ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月26日(日)

天気 晴

快晴 秋空高くヨイ天気デアッタ

七時半出 工場作業ヤ、順潮 木工ヤ、オクレル

昨夜一部徹夜ス

肥田木昨日帰ラズ夕方帰ル シカリオク

鷺尾午後帰ル Cニ注文受ケテ來タトノコト 明日手金取ル由

大口明日退院スルニツキ約三十円入用 安岡心配シテ漸ク作ル

▲▼281ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月27日(月)

天気 曇雨

作業進ム

小野高草木両氏來 契約書ヲ作り見學後鈴木館ニテ晝食 三時頃帰ル 帰途江戸川
ヲ見ルトテ奈良原氏案内ス

▲▼282ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月28日(火)

天気 晴

作業進行 明後日完成目安ツク

小栗來 本人ヨリ金取ツテ呉レテモヨイトノコト タヨリナイ男ダ

飯沼ヨリ二名來場 明後朝汐デ來ルコトニナル

清平上京サセル

久々田醫院朝來 五十嵐昨夜(今朝)児供ノクビヲシメタ由 一命ハ取リトメタトノコ
ト スグ金二十円ヲ持タセテ清平ヲヤリ醫者へヤルコトニス 午後鷺津ヲツケテ大學ニヤ
ル 左肺及左フクマク、クサリ右フクマク少シ悪イトノコト 明後日判定入院ニナルカモ
シレヌ由

粕屋君來 石川ノ手形割引クト云フ高利貸シヲ連レテ來ル ダメデアッタトテ粕屋プ
リ、シテシタ 十円車賃ヲ渡ス 大口へ行ツタ

▲▼283ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月29日(水)

天気 晴

今日ハ予定ヤ、オクレル 但シ明日發送夕方ニスル協会トノ打合せナル
清平夕方帰ル 青年團今日トイフェル殘金ダケ貰フ

夜八時帰宅

鳥飼氏來 奈良原氏來

宮崎銀太郎氏來 四五日中ニ小野裕一氏代理トシテ義弟ガ工場見ニ來テ決定スルト
ノコトデアッタ 岩間氏ヨリ電話アリ 富尾氏ノ方話シ進シテ條件ニツキ打合せシタイ
トノコト 明日夕方ヲ約ス

▲▼284ページ▲▼ 昭和12(1937)年9月30日(木)

天気 雨

雨ノ爲メ検査官來ラズ 又胴体作業オクレ協会ノ分ダケ夜中一時半ニ台發送ス 東
日ノ分ハ明日ニナル

夜福西、岩間氏ト清凌亭ニテ会合。富尾氏ノ令兄京都ヨリ帰り六万円出ス内三万円
ヲ支拂ヒニ當テ三万円ヲ融通資金ニシテハトノコトデアッタガ、ソレハ即時コトワッタトノ
コトソレニツキ目下京都へ問合せ中ノ由 尚右出資ハ當方合資会社解散ノ上新タニ合
資会社ヲ組織スルコト。其場合成ベク小カイ出資者ヲ整理スルコト。尚安田氏其他ノ関
係ヲキレイニスルコト。福西岩間ハ何等カノ形デ関與スルコト等ガ條件デアッタ 將來ノ
権利ニツイテハ合資会社十万円ニ対シ先方十万円出資シタ場合五分五分トノコトデア
ッタ 大体異議ナカッタノデ進メテ貰フコトトス

▲▼286ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月1日(金)

天気 雨

今日モ雨 山崎氏來 正午C五ゴムニテテスト 成績良好ナリシモ、清平局ニ出張 南
波サンへ会ッタ結果 日乙種ニシカ出來ナイトノコトデアッタ由 供ニ來テ呉レトノコト
明朝行クコトトス

東日團両方共今日ハ金ニナラズ

▲▼287ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月2日(土)

天気 晴

七時半工場出 今日ノ支拂ニツキ打合せヲナシ上京 局ニ行ク 南波氏學校ニ居ルノデ
其方ニ行キC五ノ件相談後術補シテ使用サシツカエナシト云フコトニナル。東日ノトイフ
エル諒解ヲ得 東日ニ行キ三時半同金三百八十円受取ル 清平團ノ修理費受取ル ス

グ帰場 スデニ四時半過ギテ居タガ古イモノト見習エヲノコシアト全額支拂ヲナス。自分帰宅後粕谷ト石川家具屋來タ由

横山氏ヨリ電話アリ 明後日興銀へ奈良原氏ト行ツテ呉レトノコト 一時行クコトヲ約ス

▲▼2888ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月3日(日)

天気 晴

田中不二雄ノ結婚式ニ清平ヲヤル ツイデニ木村氏へ寄ラセル

朝梅川來 東日ノソリーズガ折レタトノコト ゴムガマタダメデアッタトノコト 電話デスムコトヲ帰ツテ來テ返シオソクナル 正午ノ汽車デスグ帰ヘス。東日ノ坐席マダ前ニ出シテナイソウデ心配デアッタガ實際飛ンデ少シ重シ積ンダデアッタ由 ヤ、安心シタガ直ス様云ヒツケル

午後工場へ一寸ヨル 奈良原氏來場。家内ヤ和子ト船橋市ノ曲馬ヲ見ニ行ク 大入満員デ入レ變リガ早カッタ 三時出テ、新借家ニ立寄り帰ル

▲▼2899ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月4日(月)

天気 曇後晴

明日萱場氏來場ノ準備不十分ニツキ木村氏トノ連絡ヲ取ラセル

蓮見氏十年式検査ノ爲メ來場

晝食後奈良原氏ト横山へ行ク 大貫ノ土地ハマトマラナカッタラシク單獨デ借リルコトニナリ尾崎氏ハ上ノ方へ話シテアルカラ正面ハ下カラ話シテ呉レトノコトデ名刺ノ照介(マ)マコト出テ居タ 借入金ハ十五万円其儘デヨイトノコトデアッタガソレデハトモダメラシイト思ツタノデ十万円ニ減額スルコトニス。帰途朝日ニ立寄り島無断ニ帰ツタ詫ヲ述べ東日ニヨリ六時出テ帰りニ市川デ奈良原氏ト夕食ヲ共ニス

▲▼2900ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月5日(火)

天気 曇リ

萱場氏ヨリ電話アリ今日差支アリ金曜日ニ行クトノコトデアッタ

銀行ニ行ク予定午後工場員ニ支拂出來ナイコトアリオクレテ中止 四時上野駅へ行き清凌亭ニテ福西氏ト會フ 十時過ぎ辻清平岩間一所デアッタ。用件ハ今日富尾氏兄弟岡田氏ト會見 督促ノ結果金ハスデニ出來テヤルバカリニナツテ居ルガ明年スグ一千万円位ニ拡張スル爲メ某財バツト交渉中ガ少シ遅レテ居ルトノコトデアッタ 何ンダカ少シアイマイナ感ジガスル

今日カラ青年學校ノ方ノ教練ヲ初メル

▲▼291ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月6日(水)

天気晴

奈良原氏ト上京 十一時過ギ興銀着 小竹理事ニ會ヒ大体話シ後シ(ママ)貸付役ノ課長ニ會ヒ話ス 研究スルト云フコトデ十二時會見ヲ終リ航空局ニ行キ課長ニ會ヒ十年式名儀(ママ)変更ノ件諒解ヲ得 書類ヲ提出シテ上野へ行ク 例ニヨリ少シマタサレル 清平協會へ行ツタラ高草木居ラズ小野サンニ諒解シテ來タトノコト 清凌亭ヨリ富尾氏兄弟岡田氏ト會フ 奈良原氏ヨリグライダーノ話シアリ 余ハ雑談 今日ノ會見デ見ルト此間カラノ話シ程進行セズ 何分宜シクノ程度デアッタ 後チ銀坐ニ廻リ尚待合へ行カウト云ツテコトワツテ十時帰宅 移轉新宅へ

▲▼292ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月7日(木)

天気晴

就(ママ)日在所 奈良原氏來 久保田氏ヨリ電話アリ 五万円ダケ出ス人ガアルトノコト 今夕東京會館ニテ會フ由 先生一人行ク 鳥飼氏來 就(ママ)日居ル 午後三時頃粕谷來 市川分小サク書キ替エ渡ス 大口病氣以來初メテ來場 マダソロ、歩ク程度デアッタ 午後自宅ニ歸リ少シ整理ス 工場明日萱場來場ニソナエ準備ス 尚ソアラインソガセルガ中々ハカドラズ

▲▼293ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月8日(金)

天気雨

奈良原氏來 昨夜久保田氏ノ話 五万円ヲ十一万円ニシテ貰フコト 計二十万円迄出スコト 利益半々ニ向ノ要求之レハヨロシト思フ コチラ三十万円ニ見ル由 二三日中ニ返アル由 出來レハ一番ヨイ條件デコトニ仲介者ノナイコトガ一番ヨイト思ツタ 出來テ呉レルコトヲ祈ル 女工夜業ヲ嬉(ママ)バス 自分ト金太郎デ初メタラヤツテ來タ。金ガ遅レルト実ニ能率ガ悪イ 児供達ハグライダーヲヤラセル告示ヲナス 萱場今日モ來ナイトノコトニ清平上京ス KH式ハ予想外ニヨサソウデアッタ

▲▼294ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月9日(土)

天気晴

上天氣ニナツテヨカッタ

C五午前中完成 A二ツヒニ徹夜トナル 太田大工勤メル

千葉ノ菅谷氏來 百円借金ヲ申込マレタガ、コチラガ、ソコ處デハナカッタ 十五日頃ニナレバ何ントカスル旨答ヘル

久次郎ハ大變ヨクナツテ居ルソウデ間モナク直ルダロウトノコト

夜業ノ初マルノヲ見テ帰宅

清平昨夜東京泊リ 協会局ヘ行キ晝頃帰場

◆▼295ページ◆▼ 昭和12(1937)年10月10日(日)

天気晴

六時頃完成シマシタト知ラセアリ工場ニ行ク 大變予想ヨリ早く出來タ 写真モ取ツタ由 九時半自動車出發ス

明日清平ヤルコトニシ金策ニ鈴木ト作業ヘ行ツタガダメ 午後申沢氏ノ同乗会九名同乗アリ 安岡不在 鈴木ニタノシデヤラセ其金ヲ三十一円五十錢ヲ借りテ三十円清平ニ渡ス

ゲッピンゲンノ櫓ヲ東日ヨリ取りニ來タノデ作ツテ渡ス

午後船橋ヨリ帰ツタカラ富尾希望ノ書類作製ニカ、リ今日ハスラ、トヨク書ケタ

◆▼296ページ◆▼ 昭和12(1937)年10月11日(月)

天気晴

奈良原氏來場 午後久保田氏ヘ行ク。浮谷氏來 當方卅万円ノ内五万円ヤルコトノ代リニ募集ノ二十五万円ノ内五万円呉レトノコト 之レハ全發起人ノ承認ヲ要スルコトト思フノデ其旨答ヘル。齋藤朝來 会社止メタラシイ 就職運動中ラシイ 峯島自動車デ東京ヘ行ク途中ダトヨル 齋藤氏大分話シガ永イノデ峯島ノ自動車ニ同乗サセテヤル

清平甲府ヘ出張サセル 明日検査ノ爲メ

坂本ヲ歸ス爲メ齋藤出張サセル

午後粕谷君來 三十円入用トノコト 安岡ヨリ借り十円渡ス 東金本納デ田地八町歩ヲ六千円デ賣ル人ガアルトノコト 之レヲ買ツテ手一杯金ヲ融通シタラトノ話シ興銀ノ話シヲナス 歸ル

午後八午後ダケデモユックリシヨウト思ツタガツヒニ出來ナカッタ

◆▼297ページ◆▼ 昭和12(1937)年10月12日(火)

天気 曇後雨

奈良原氏來場 昨日久保田氏會エナカッタ由

青森商業内金近ク送ルトノ返電アリ 弘前工業返ナシ 止ムナク出田へ行クコトニス
金ナク中台デ十円カリテ三円ヲ工場へ二円ハ内へ 出田不在 Cニ延期ノコトダケ頼ミ
局ニ行ク 昨日清平寄ラナカッタトノコトニ佐々木氏ニ飛行場問題ソレトナク聞クド
ウモ六ツ間敷ラシイ口振りデアッタ 尚ヨクタノム
興銀ニ二宮氏ヲ訪フ 目下研究中 都合デ書類ノ提出ヲ乞フカモ知レヌガ其時ハ最(マ
マ)非出サレタイトノコトデアッタ 帰りニ青年館ニヨツテ見タ ソシテゲートルダケ受取
リ三時半帰場 粕谷ヨリ靴ノ話シ電話アッタ由

▲▼298ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月13日(水)

天気 曇雨

清平早ク上京サセ堪航証ハ五時過ギ貰ッタソウダガ高草木出勤セズ金取レズ 明日モ
心配トナル

粕谷來 靴ハスグ送ラセル 金ハ一日二日ハアトデモヨイトノコトデアッタ 地所ノ登記
写シヲ持ツテ來タ 圖面ハ明日送ルトノコト ツイテハ中(ママ)介者ガ二人アルノデ之レニ
五百円呉レトノコト。ソレヲ安心スル爲手形ヲ見セテヤリタイ 外ニ代金六千円ノ半額
三千円モ約手ヲ見セタイ 見セルダケデア心サセル爲メニ書イテ呉レトノコトニ書イタ
ガ判ガナイカラト明日ニ延バシテ居ク
奈良原氏來場

▲▼299ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月14日(木)

天気 晴

清平協会ヘヤル 万一ノ場合ヲ思ツテ青年校ノ服装ダケヲ引取レル様岩間氏ニ電話シ
テ福西ニ一ツダケ百五十円立替ヲ依頼ス。幸ニ協会ノ金間ニ合フ 四時清平帰ル 工
場費ホトンド全部渡ス 出張者ダケ残ス

中台五百円ホシイ處式百五十円渡ス アト工場員分六十五円近日式百円ヤルコトニス
夕方明日ノ査閲予行ニ小學校ニ行ク 奈良原先生ニモ來テ貰フ 七時帰宅ス

▲▼300ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月15日(金)

天気 晴後雨

査閲ノ爲メ奈良原、山東君ト幕張校ニ行ク 正午終ル 査閲官ヨリ良好ノ賛辭ヲ受ケ
テ帰ル 後チ記念写真ヲ取ル

児玉サン來 來月五日迄デヨイトノコトニソウシテ貫フ 午後八二時ヨリ慰勞ノ宴ヲ張
リ夜ハ工場員ノ首脳部ヲ呼ブ

▲▼301ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月16日(土)

天気 雨

九時横山宅ニツク 同乗シテ尾崎氏ニ行ク 結城サンニ話ス程ノコトデナイノデ小竹氏
ニ話シテ居イタトノコト 尚依頼シテ帰ル。横山氏ニ六粕屋ノ持ッテ來タ土地ノコト 飛
行場ノ件ヲ話シテ居ク 飛行館ニテ日野サンニ會フ 晝食ヲトモニス アト実物製作ヲ
急グトノコトデアッタ 性能計算ダケ渡シテ居ク。佐藤ニ立寄り篠塚ノ件話シ合ッテ貫
フコトトス

粕屋ヨリ電話アリ 三時頃新出資者ヲ連レテ來ルトノコトニ待ツ ツヒニ來ラズ 帰宅
途中清平ガ寢テ居タノデ立寄ッタヲ迎ヘニ來タノデ行ク 海軍大佐ダソウダガ名刺ニ六
書イテナカッタ 正田ノ友達ラシイ仲介者二名同行 工場見テ話シヨスル 例ニヨッテ
予算書ヲ出シテ呉レトノコト 又カトイヤニナッタ

▲▼302ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月17日(日)

天気 曇リ雨

今日ハ七時二十分デラジオ体操後昨日ノ風デタオレタ盆栽ノ手入レ植替エヲナシ十一
時頃工場ニ行ク

荒木就孝來 局へ入ッテ初メテノ來社 種々話シヲ聞ク。山口君ノ父ト云フノガ來 小
栗ノサルニツイテ千五百円モ小供ニ渡シタトノコト ツヒニ金ナク中止ニナル由 自分ノ
方トシテハ小栗君ト交渉スルカラト安心サセラル 五時迄B七型ノ設計ヲナシ夜モ九時
迄ヤル

圖面ヲ書イタリシテ居ルノハ一番ヨイ

▲▼303ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月18日(月)

天気 曇雨

終日B七ノ設計 夕方ホゞ終ル

安岡今日モ帰ラズ

清平、角研究所へ行ク

▲▼304ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月19日(火)

天気 曇雨

奈良原氏來場 浮谷氏へ言傳ヲタノム 佐藤ノ五万円出資アリ取ルコトノ不賛成意見。
現物出資ニツイテハ自分以外ノモノデハ出來ナイコト 以上
今日モ金來ラズ 小サイ買物ニコマル
清平トHK式ノスパーノ取極メヲナス
飯沼金太郎來 佐倉へ行く途中ノ由
出田ヨリ電話アリ 來月十日トシテ貰フ
安田第一ヘヤル 山口羽田へ出タアトデ金ニナラズ一寸コマル

▲▼3005ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月20日(水)

天気 曇後晴

電話料ノ納金ニ困ツタガヤット太田角ナドカラ集メテタ方納メル 安岡ニ都合サセテ
羽布モ買フ
浮谷氏來 工場物件ヲ奈良原氏宛賣渡証ヲ書イテ持ツテ來タ 判ヲ押シテ呉レトノコトデアツタ
タ方山東、清平ト研究ス 税金問題ガアルノデ方法ヲ替エルカサモナケレバ税金ヲ新会社
社デ支拂ツテ貰フコト。尚出來得ベクバ富尾氏ノ方ヲ進メル方法ノコトトス 明日上京
ノコト

▲▼3006ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月21日(木)

天気 晴

時事 加藤二郎上海戦ニテ肉戦空撃ヲ演シ壮烈ナル最後ヲトゲル
奈良原氏來 昨日ノ書類ヲ見セル 今日先方カラ人ガ來ルトノコトデアツタガ自分上
京 局ニヨリグライダートサルノ標式ヲ貰ヒニヨリ清水君ト協会ニ行キ領収書ヲ預ケテ
帰ル C五ノ評判宜シカラズ。二時上野ニテ福西岩間ニ會フ 米久肉屋ニ上ル 一昨日
ノ富尾氏來場ノ様子ヲ聞キタカッタラシイノデクワシク話ス 尚福西ヲ將來共重要関
係者ニスルコトヲ岩間ヨリ岩間ヲ何ン等カニ使用スルコトヲ福西ヨリ話シアリ承知ス 相
手ヲ云ワズニ浮谷氏ノ書類ヲ見セ急速決定方ヲ頼ム 一兩日中ニ取キメサセル由 書
類ハ岩間ニ預ケル

▲▼3007ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月22日(金)

天気 曇り雨

奈良原氏來場 久保田氏ヨリ電報アリ 話シノ結果今日午後四時ヨリ東京會館デ會

フコトナル

宮崎氏照介(ママ)ノ小野航一氏義弟正午來場 二時半頃帰ル ユックリ見テ帰ッタガ
マダ、前途遼遠ダ

竹崎來ラズ 今夜奈良原氏へ金トゞケル由 安岡平木飛行場見ニ行ク

木下機十一時山形発 雨ノ爲メ太田原ニ不時着 夜明日ノ汐時シラセトノコトニ電話
デシラセル

九時半東京駅へ義姉ツクノデ清平向へニ行ク

▲▼308ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月23日(土)

天気晴

気持ノヨイ天気デアッタ

奈良原氏來 久保田氏ノ方二十万円一人デ出スガコチラ三十万円トシソレデ五十万
円ヲ以テ百万円ノ株式会社トシ五十万円ツゞノ出資トスルコト アトノ株ハダキ株トシ
時機ヲ見テ賣リ出スコトノ由 今日先方相談ノ上月曜日会见シタシトノコト

安田粕谷財津外一名來 大口モ來 ヨイカゲンニアツカフ 安田氏三時頃迄居テ帰ル
木下氏柴田氏同乗山形ヨリ十年式來場

清平協会へヤル 休ミ 東日和田氏帰坂 ドレモ金ニナラズ
事務所前ニ青桐植替サセル ヨクナツタ

▲▼309ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月24日(日)

天気曇リ

昨夜ツル姉カラ五十円ヨコシタノデ借り内十円清平ニ渡シ三十円工場へ 十円内へ渡ス
下村氏來 日銀へノ会社設立願書持参 明日迄預リ居ク ドウモ望マナイガ馬鹿ニ急
イデ來ル

B七全体圖ヲトレース 一時間半位デ出來ル キレイニハ出來ナイガ早イ
夕方小栗ヨリ義勇ノ甲三一台持チ來ル 何ニモ聞イテ居ナイガ預リ居ク
清平東京へ案内シテ行ク

▲▼310ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月25日(月)

天気晴

久保田氏今夜出資者ト会见ノ由 奈良原氏明日モ來

十時頃下村氏來 奈良原氏ヨリ出資者ト会见サセルコト 五万円ノ件ハドウナツタカ
確メラレタシト提案 自分ヨリ希望タノマレタ 新規購入機械ノ内訳 ソレカラ現在機

械ノ内訳ヲ件ル渡シテヤル

夕方帰宅後富尾氏ヨリ電話アリ又工場ニ行ツテ懸ケル 将来ノ爲メ朝日新聞ト連絡ヲ取りタイガ差支ナキヤトノコト 必ズ出来ルカ分ラナイ今ソナ必要アルマイ。出来テカラニスルコトト云ツタガ最(ママ)非取りタイトノコト ソレナラ必ズ作ルト云フテ前程トシテナラヨイガ然ラザレバ困ルト云ツテ居ク

木下君來 見積書ヲ渡シタ食ヲ安岡ト共ニス

秋田ノ伊藤氏來 サルムソシヤハリ來年四月頃迄ニ作ルコトヲ頼マレル

巢鴨學園ノAニ夕方クラクナツテ納入。写真ハヤハリウマク行カナカッタ

▲▼311ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月26日(火)

天気晴

今日久保田氏ノ返聞ク筈ノ處奈良原氏來ラズ

朝岩間氏ニ電話シテ昨日ノ富尾氏ノ電話ヲ話ス

藤田武明君來 九二式ガ出来ルカトノコトデアッタ 晝食ヲ共ニス 鮮満国境警備ノ苦心ヲ聞ク

大坂ヨリ電報ニテ兵隊ガ泊ツタカラ帰ツテコイトノコト 明晩立ツコトニナル

大口今日小野サンヘ行ツタガ明後日ニ会见延期トナリ財部ヘヨツテ五万円金融ノコトヲ話シテ來タノデ財産目録ヲ送ツテ呉レトノコト 又カト思ツタガ承知シテ居ク

▲▼312ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月27日(水)

天気晴

奈良原氏來場 間モナク福西氏來 新会社ノ役員ノ顔ブレヲキメタイ 但シ決定的ノモノデナク何人カニ見セル爲メニ必要ナリトノコト 其何人カハ分カラ福西ノ意見デ小林一ニラシイトノコトデアッタ。ソシナコトヨリモ早く取キメルコトヲ請求シ明後日ニハ確定的ノ返事アル筈 篠崎ノ方ハ明日午後四時篠崎浮谷奈良原伊藤四人デ会见シタイトノコトデアッタガ福西ノ方ノ返事ヲ待ツ爲メ甲府出張ヲ理由ニシテ延期シテ貰フコトトス。安田照介(ママ)ノ長谷川坂本二名來タガコトワル 其旨安田ヘモ電話スツル姉九時半発ニテ帰坂ノ爲メ七時半出ル 大口松江同行ス

▲▼313ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月28日(木)

天気晴

時事 上海戦大勝

早朝奈良原氏來 久保田氏ヨリ百万円四分の一拂込ミノ五万円ノ出資キマツタカラ

電話シテ呉レトノコト 連絡ノ後午後三時東京会館ニテ会フ 清平モ同行ス 話シノ都合デ百万円トシテ二十五万円出サセルコトニナリ 更ニ外ニ二十五万円久保田氏ガ作ルコトニ先方ニ云ツテアル由 ソレデダキ株ヲシナケレバナライガドウカトノコトデアッタ 奈良原氏スベテ交渉 久保田氏ヘ工場ヲ四十万円ニテ五万円出資 三十五万会社ノ株トスルコト 但シ手續キハ工場ヲ七十五万トシテ設立スル方針ノ由 自分トシテハ二十五万円工場 二十五万円五十万円デモヨイト希望ヲノベテ居ク
早朝岡山ノ倉敷実業學校々長來 木工卒業生五六名タノム。清平上京 岩間ニ会ッテ金融其他ノ件交渉サセル

▲▼314ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月29日(金)

天気 晴

早朝奈良原氏來 岩間氏ヨリ電話アリ 金融ノ件今月都合悪イガ福西デ來月五日頃ナラ出來ルトノコト。富尾氏ノ方今日返ナシ
清平上京サセル

協会ヨリ二日二本注文アリ 姫路聞クト一本シカナイトノコトニ金太郎出張 作業シテスグ客車便デ送ラセル
山東君ヲ上京サセ会社組織ニ関スル難點ヲ調査セシム

▲▼315ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月30日(土)

天気 晴後曇

出田金取リニヤツタガ呉レズ不安ガ適中シタ 清平團ノ方ハ予定通り 協会西山一日ニ又甲府ヘ行クノデ明日日曜ダガ手續キシテ貰フコトトシ手ツタヒニ行クコトニシタト
明日ノ支拂ハ臨時工ダケニトゞメル外ナクナツタ
計算スルト又來月デ二千円バカリ不足ニナル

大口來 明日森谷行クトノコト 利子ガヤレルカ疑問ニナツタ
奈良原氏久保田氏様子見ニ行ク

昨日山東調査ノ結果会社組織ニツイテハ明瞭(ママ)トナツタ 久保田氏ノ思テ居ル様ニハ行カナイ
安田氏ヨリ電話アリ 東京高工ノ有元外二名ト今日會フトノコト

▲▼316ページ▲▼ 昭和12(1937)年10月31日(日)

天気 曇リ

朝金ヲ調べ臨時工ダケ支拂ヒニキメラ申渡シ会社ノコトモ話ス

十一時出カケル處へ安田氏ヨリ電話アリ 今カラ行クカラ在宅シテ呉レトノコトデアツタガ大口ガ來テ居タノデタノシテ上京 羽田ニ直行 蒲田駅デ清平ト一所ニナル 青年團ノ第二次終了式ニ間ニ合ヒ木村氏ヲサガス 従弟ニ不幸ガアッタトカデ四時頃會フ 風筒(ママ)用圖面ニ枚受取ル 浮谷篠塚飛行場へ來 最(ママ)非會ツテ話シタイトノコトニ同行 丸ノ内會館ニテ手續キ上會社事ム所ヲ東京ノ神田稅務署管内ニ移轉シテ呉レトノコトデアツタガドウモ不安ナノデ解散説ヲ話ストソレハヨイト一應研究スルトノコトデアツタ 五万円新募集シテ權利ヲ出ス件ハ一時會社へハ篠塚ノ手形ヲ入レテ居クトノコト 先キハドウナルトモ分配方法ニツイテハマダ聞ク時期デナイト思テ聞カズ 福西ノ方ノ話一二日中ニ返事ガアルカラ決定的ノコトハ其上ト云フコトニシテ分レル 日銀ノ許可ハ取レルコト エタパイカラ十万円融資スルコトヲ聞ク 安田ニ立ヨル 不在 粕谷ニ會フ。今日先方(白木屋ノ山田)ノ都合悪ク行カナカッタトノコト 丁度幸デアツタ

◆◆317ページ◆◆ 11月

会社決定ノコト

◆◆318ページ◆◆ 昭和12(1937)年11月1日(月)

天気 曇リ

今日ハ決定ノ日 岩間ニ電話シヨウト思ツタガ向カラ挨拶アルノヲ待ツコトトス 久保田氏ハ奈良原氏電話ス 十一時先方ト會見ノ上今日會見時間ヲ返事スルトノコトデアツタガツヒニ返事ナカッタ 午後三時過ギ浮谷木村両氏來 ヤハリ税金問題ハ同ジコトデアルカラ借入金ニシタ方早イトノコト ソレニツキ貸シタ方ニ調査ガ延ビルヤ否ヲ調査シテ貰フコト 明日スグ調べル由 昨年末ノ稅務署報告書ヲ渡ス 自分ノ心境ハ昨夜來富尾ハダメト見タノニ久保田氏ノ方モ大シテ當ニナラズ篠塚ノ外ナイト云フ考へニ變リツゝアツタノデ先キニ延ビル可能性モアリホヽヤルコトニ腹ヲキメル

◆◆319ページ◆◆ 昭和12(1937)年11月2日(火)

天気 晴

午前中在所 大口待ツタガ午後來タ由 正午奥山君ト自宅ニテ晝食ヲ共ニシ上京 二時上野駅デ岩間氏ト會フ 福西ノ來ル迄ニエタパイノ話シナス 福西來 ウグヒス谷ノ壽樂ニ行ク 富尾ノ方東京方向ノ諒解ガ終ツテ明朝大坂へ又行ク由 富井章氏モ呼ビエタパイノ話シヲシ結局十日迄富井氏ノ方

待ツコト ソレスギタラエタ。パイニヤラセルコトトス。エタ。パイニツキ福西モ諒解シンドチラニシテモ十五日前ニ確定スルコトニナリ嬉(ママ)ンデ居タ。富井氏ハスデニヤルコトニ決定シテ居ルノダガ兄ガ多少アトノコトヲ心配シテ居ルノデ今夜岡田氏ト両方へ行クト云ツテ分レル。久シ振リデ浅草六区ニ出福西氏関係ノレビユー館ト大東京ヲ見テ帰ル

◆▼320ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月3日(水)

天気 曇雨

十一月三日ニハ珍ラシイ雨デアッタ

奈良原氏來 工場ニ行ク 久保田氏ト打合せ正午東京会館デ会フベク出京セラル 小栗ヨリ三十円預ツテ來テ行 旅費五円渡ス

船橋へ買物ニ行キ第一二一寸ヨツテ見ル 格納庫モ庭モヨクナツテ居タニハ氣持チガヨカッタ

帰宅後上野ガ会ヒタイト云フノデ又工場ニ行ク 上野ノ不平デアッタガ其ゴカイヲ解キ帰ツテカラ盆栽ノ植替エヲ行ヒ五時頃ニナル。雨ノツレバニ招イタ安岡山口鈴木ト会食ス

◆▼321ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月4日(木)

天気 曇リ

六時半丁度起床 ラジオ体操 数日來自分デ声ヲ出シテヤルコトニシタ 大変工合ガヨサソウダ

朝奈良原氏來 昨日ノ話シヲ聞ク 六日ニ廿五万円金受取ルカラ七日ニ會ヒタイトノコト 岩間君ニ電話シテ正午東京駅デ會フコトニシ奈良原氏ト同行ス 福西氏ノ方ヘ傳エテ貰フコトニシテ局ニ寄り立命館中學ノ式百円ヲ第一銀行ニテ現金ニシ児玉サンニ恵美子ノ懸金第一回分四十六円ヲ支拂ヒ佐藤ニ行キ一通リ話ス 久保田氏ニ賛成スニユーム棒ヲ洋日会社デ買ツテ居ル内ニ粕屋ト石川ニ會フ 明日長田氏(大和航空)ヲ連レテ行クカラトノコト 久保田氏ノ話シヲシテ居ク

エタ。パイデ又新聞ニ出シタトノコトニ一應ハツキリシテ居ク必要アリ市川ニヨツタガ浮谷氏不在 明朝奈良原氏會ツテ貰フコトニシテ夕食ヲ共ニシテ帰ル 福井部隊ノ死者発表アリ 千葉縣下デ式百名ノ由

◆▼322ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月5日(金)

天気 曇リ雨

福西ヨリ借入金 ヤハリ二十銭日歩取ツタ 従ツテ全部利子ヲ書キ入レテ式千円式枚

トナリ手取り千四百四十円足ラズトナル ソレデモ今日工場員ニ半分支拂ヒ出來タ
午後萱場氏大口、日野、臼州氏來場 圖面ト模型ヲ見セテ帰ル
粕谷來 三十円渡ス

◆▼323ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月6日(土)

天気 曇リ

清平協会金ノ請求 山崎氏給料九十月分支拂ヒト試作機急ガセルコト、無尾実験用
型ヲ作ラセルコト等ニ上京サセル
午前中工場ニテ正午大口來 共ニ帰宅 又雨降ル ユツクリ花ヲ活ケエゾ松ノ盆栽ヲ枝
ヲ整理ス 見違エル程ニナツタ

◆▼324ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月7日(日)

天気 晴

終日自宅 奈良原氏來 久保田氏ノ方明日金受取ル由
清平昨日出タマ、夕方帰り 福西へ大坂ヨリ電報アリ 明日貴下ト相談シタシトノコト
佐藤、佐々木泰介廣橋來 今日アプロ持ッテ來タトノコト 夕食ヲ共ニス

◆▼325ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月8日(月)

天気 雨

時事 今朝ノ新聞ニテ村上芳ノ助(大工)大場鎮ニテ戦死。津田沼町最初デア
終日雨
今日ハ決定ノ日 終日待機シタガ電話ナシ 奈良原氏モ來ラズ 聞ケバ上京シタトノコ
ト

夜九時過ぎ福西岩間來 富尾氏ノ方五万円ヨリ金出來ズ ソレダケ出資シテヤラセテ
貰ヒタイトノコト 融通資金ニツイテハ心配カケナイトノ話シ 明日奈良原氏ト相談ノ
上上京 更ニ相談スルコトトス
午後山東、清平、今村、佐藤、太田、角、布施、上野ヲ集メ工場ノ改善能率増進ニツ
キ今村ヲ委員長トシテ一週間以内ニ方針ヲ決定スベク命ズ

◆▼326ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月9日(火)

天気 雨

奈良原氏來ラズ 十時工場ヲ出ル 清平局ト府廳ヘヤル 佐藤デ會フ。途中奈良原氏

ト会ヒ打合せシオフ 久保田氏昨日会ワナカッタトノコトニ共ニ上京 佐藤ヨリ久保田氏へ電話スル 今日先方ト会ヒ金受取ル 明日朝会フトノコト。佐藤氏ハ久保田氏ノミ他ハ全部其儘打チャツテ居ケトノコトデアッタガ其ノ訳ケニ行カナイコトヲ話ス。午後清凌亭ニテ会見 福西岩間奈良原自分、富尾章、岡田氏 先方ハ現在五万円出資アト融通資金ニ六心配サセナイ 尚久保田氏ガ出来タ場合引下ルコトハ一向差支ナシトノコト 尚融通資金六ヶ月間ハ約ドノ位入ルカトノコトニ五万円タノム 新会社創立ハ、スグ進行スルトノコト 當方ヨリ出資ニ対スル都合、之レハ福西委託。役員何名出ルカ、等ニツキ課題ヲ出ス 尚明日久保田ノ返事ニヨリ久保田ニ決定スルカ。先ヅ富尾氏ト決定後久保田ヲ入レルカヲ決定スルトトス
後大塚ノ待合ニテ十一時迄サワギ自動車デ送ラレテ帰ル

◆◆327ページ◆◆ 昭和12(1937)年11月10日(水)

天気晴

快晴気持チヨシ

安田ヨリ又人ヲ連レテ行クトノコト 待ツコトニシタガ大口ニタノシデ奈良原氏ト上京十二時日本クラブニテ久保田氏ト會フ ヤツテ居ルコトハ確實ダガマダ金ヲ受取ルノナンド云フコトハナサソウダ。富尾ノ方ノ話シヲシテ進メルコトノ諒解ツキ上野清凌亭ニテ福西岩間ニ會フ。都合ト出資ニ対スル都合ニツキ此際十万円出シテ貰フ コチラモ十万円ニ見テ利益等分 権利ハ全然見ズ將來ニ残スコト ソレニ対シ先方ノ意見ヲマトメ明日調印シタイニツキ場所ト時間ヲ知セテ貰フコトトシテ帰場ス 六時過ぎ 明朝十時工場へ來ルトノコトデアッタ。協会ノ金這入り工場員支拂大分部分終ル

◆◆328ページ◆◆ 昭和12(1937)年11月11日(木)

天気晴

佐藤大口奈良原皆呼ンデ居ク 十時半福西、岩間、富尾章三氏來。昨日ノ案ニ対シ第一十萬現物出資 十萬先方資金現金出資ノコト 権利ハ伊藤ノ方ヲ尊重シ(多ク見ルコト 但時日方法等ニヨリ率ヲ一定シガタク爲メニ)福西一委(マシ)トス。仮契約ヲ本日ナシ公正後内金取ルコトトシテ意見一致ヲ見關係者一同諒承ス
晝食後車ヲツラネテ上京 先方事務所ニテ仮契約ヲナシ手續キサエ出来レバ明日公正ヲナシ第一回公正ト同時ニ貳万円 残り三万円ハ廿六日頃トノコト アト必要ニ應ジ支出ノコト。調印ヲ終ツテ御茶ノ馳走アリ 後チ福西岩間両氏ヲ丸万ニ招ジ夕食ヲ共ニシ安田氏へ電話シテ岩間氏ヨリ報告 明朝福西氏ヨリ話スコトニス

◆◆329ページ◆◆ 昭和12(1937)年11月12日(金)

天気晴

安田ヨリ何ンデモ今日松岡ト会ツテ呉レトノコト 午前中工場ニ用事アリ一時頃ヲ約ス 印鑑証明ヲ役場デ取り清平ニ裁判所ノ方ノ証明取りニヤル
山下蓮見両氏來 CニC五検査終ル 台南行キプライマリーニ台發送ス
一時半三田駅下車 安田、大口石川ト東京高工ニ行ク 松岡居ラズ一切マカセラレテ居ルトテ長田氏ニ會フ 大和航空デ買収シタイトノコト 價格其他ノコト語ラズ 金モ今日明日ト云フワケニ行カヌトノコト 夜会フコトニ約シテ安田ト福西ニ會フベクサガシタガ会エズ 安田宅ニテ待ツ 夕方六時頃福西清平來 塚本岩間氏等ト会见 安田氏ノゴカイトケ一切ヲ福西一任トナリ夕食ヲ共ニシ九時頃散会ス 明日公正スルコトニナリ朝早ク來テ呉レトノコト

長田ノ方会见ヲ延期申込ダノヲ粕屋頑冥ニコトワリゴタ、ス
夜十二時半石川ト粕屋來 先方八万円ヲ現金ニテ今月中ニ 廿八万円ハ株券デ会社ガ出來テカラ渡ストノコト 尚明日正午最(ママ)非会ツテ呉レトノコト ウルサイコトダ

◆◆330ページ◆◆ 昭和12(1937)年11月13日(土)

天気晴

九時過ぎ福西着 岩間來 四人デ出懸ケル所へ山田氏來 夕方会见ノコトニシテ出ル。
十一時公正役場 石川事ム所ニ行キ手續キヲナシ三時過ぎニ出來ルトノコトニ出テ晝食ヲ共ニシ皆ハ事ム所ヲ見ニ行ク 自分ハ長田ト会见ノ爲メ東京高工ニ行ク 二時会见。
七万円現金廿八万円株ノ内七万円ノ支拂方法ハ十六日三万円ト要求シテアッタラシイガ十六日ハダメ 会社株賣出シノ一二日前 アトハ拂込後トノコトデハ問題ニナラナイ 丁度ヨカッタ 再ビ公証役場ニ帰り四時半頃終ル 貳万円三菱ノ小切手ト四万円約束手形受取ル 帰途山田氏ノ会见明日ニ延期シテ貰フ 山田氏ヨリ利子五千五百円請求アリトノコト福西氏ヨリ話シアリ ソレニツキ大分話シガアッタ 分レテ帰ル

◆◆331ページ◆◆ 昭和12(1937)年11月14日(日)

天気晴

二三日來気分悪カッタノデ今朝ハユツクリ床ニ入りアンマヲ取ル 大口來 清平ト相談ノ上今日ハ自分ハ病氣ノ故ヲ以テ上京セズ清平ニ手形ヲ持タセテヤル 大口ニ云エナイコトヲ云ワセ自分ヨリ手紙ニテ福西へ一任ノコトヲ云ツテヤル 尚清平ニアトノ仕事ト何ントカ利子ノ方ヘウマク組合セル方法ヲ福西ト相談スルコトヲ教ヘテ出ス
奈良原氏來。無尾模型自分ノ考ヘノ通り改造シタノガ中々ウマク行ツタ
皆ナニ申付ケテ居イタ工場改善能率増進ノ結果ヲ聞ク 不要ニ思ツテ居タガ大分ヨク出來テ居タノデヤ、安心ス。夕方山崎氏來 夕食ヲセズ帰ル

◆▼332ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月15日(月)

天気 晴

大口ヨリ昨日ノ報告ヲ聞ク 作戦ヲアヤマツタラシク、利子ヲマケサセルコトヲ云ワズイキナリ、リクツヲ云ツタラシイノデツヒニ不調

今日午後一時全部集合。福西、山田、塚本、安田、岩間、粕谷、大口、奈良原ト以上七名 石田組ハ手形三枚ト現金三千円ニ訳支拂ヒ粕谷現金。外ニ一割謝禮六千円ヲ水引ヲカケテ提出。終ツテ鈴木館ニ引上ゲタ食ヲ出シゲイシヤヲ呼ブ 六時散会ス

岩間一足先キニ來 今日ノ分配金ニヨツテ福西氏ノ腹ガ分ルコトナド話シ合フ 岩間君ノ分ハ出資ニ振り替テ呉レル由 柳父氏ノ分モタノム 振り替テ呉レルナラ金融ミトメサモナケレバ損害負担シテ貰フコトトス

今日モ終日腹工合悪ルク頭モヨクナカッタガ夜カラ少シヨクナッタ

◆▼333ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月16日(火)

天気 曇リ後晴

終日在所 清平上京サセル 正午迄寢テ居タノデ小言ヲ云フ

川辺佐々木泰介來 アプロ九百円ニテ話マトマリ式百円内金佐々木ニ渡ス 明日金額支拂フ由。粕谷來 工場改造圖ニヨリ見積リヲ依頼ス 奈良原氏來場

今日ハ終日急(ママ)ガシカッタ

◆▼334ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月17日(水)

天気 晴

時事 初霜降ル

岩間氏へ行く予定ヲ福西へ來テ呉レトノコトニ行ク 十一時ツク 塚本居合セ分配分デ借金整理ヲ行ナツタ由

岩間氏福西ト打合セ出資振替ノ場合金額 然ラザル場合創立費引クコトニテ柳父氏へ行ツテ貰フ 自分ハ佐藤ニ會ヒ、公正証書ヲ見セ橋本ト沢柳ノ件ヲ依頼ス

東部ニテ待ツ 福西來 大体三千円現金ヲヤリアト一ヶ年無利子デ借りテ居クコトニシテハトノコトニOK 但シ岩間氏ノ発言ニテ三千円ヲ二千円ニシテ貰フ。岡田氏ト事ム所ノ件話シ會フ 東京ハ本社トシテ一切ノ事務ヲアツカウコトニシタイトノ希望デアツタ。東日ニ行ク 岩間氏歸リニ寄ツテ貰フ 妻君へ礼ヲ上ゲル 柳父氏中々面白クナイトノコト 明日福西へ午後二時行クコトトス

東日ニテ大蔵ニ會フ 和田氏ト共ニヨリ夕食ノ馳走ニナル

◆▼335ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月18日(木)

天気 曇小雨

正午慎ト約束アリ上京 山水楼ニテ約一時間半会談。自分ノ事ヲ心配シテ居テ呉レタコトハ嬉シカッタ。朝鮮ニ最(ママ)非共分工場ヲ作ツテ貫ヒタイコト イクラ集マルカ聞イテ見ルト四分ノ一拂込ナレバ百万円ハ集メ得ルトノコトデアッタ 朝鮮ノ飛行機グライダーハ全部慎ノ手デマトメ得ラレソウデアッタ。山ノ内君明日來ル由 一週間程居ルカラ会ツテ貫ヒタイトノコトデアッタ
福西ニ行キ東部ニ寄ル 留雄氏ニ會フ 福西岩間柳父へ行ク 話シマトマラズ現金デア此際ホシイトノコトデアッタ由

◆▼336ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月19日(金)

天気 晴

清平上京サセル 試作グライダー名命令書來ル
札幌飛行場長大蔵氏來 Aニ三台ゴム紐四本受注 今月末發送 明月早々講習會ノコト 指導者出張迄一切
高工生二名來 冬期休ミニヤリタイ由 引受ケル
平松君來 作業へ呼バレタ由
昨日帰りニ船橋デクシヤミガ出ルト思ツタラ風ヲ引イタラシク今日ハ大分セキガ出タ
鳥飼氏來 金十円貰ワレル 工場へ來ルコトハコトワル 千円出來ルダケ都合スルコトトス

◆▼337ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月20日(土)

天気 晴

巢鴨學園命名式アリ奈良原氏清平外指導者三名行ク
Cニ型仮組立ヲ行フ 後部スペー取付金具改造シ訂正ニ苦心ス
今日ハ要心シテ吸入ヲ朝夕ニ回カケル。大分ヨカッタ ラジオ体操ヲ休ム
安岡千葉高橋外科ニ入院ス 盲腸ヨリ來タ腸ヘイソクデニ三日様子ヲ見テ手術スルトノコトデアッタ

◆▼338ページ◆▼ 昭和12(1937)年11月21日(日)

天気 晴

昨夜ハヨク眠レテ氣持チヨカッタ 九時半頃名古屋ノ永坂君來 久シ振りノ会見デアッ

タ ヨイ男ダ今部品ナド作ッテ居ル由 ボール板ガタクサンアルトノコト 種類書キト
値段ヲ知ラセテ貰フコトトス。

十二時山水楼ニ行ク 慎、山ノ内氏ト会見 一四式整備ヲ受ケル ビーチクラブト其
他ノ製造検査ヲ慎出張員トシテ検査ヲタノミタイトノコト。慎ノ出張所ヲ津田沼へ置
クコトトス 近々ニ三日中ニ來ル迄ニ具体的ニツクッテ居クコトトス 朝鮮デ工場ノコト
軍ヲ目的デハダメトノコトデアッタ。ソレハ統制法ニヨル爲メデアッタ

東日ニ立寄り早く帰ル。夕方中島來 夕食シテ帰ル 何ニカノコトデ兄(信太郎)ノ話シ
ガ出タ。増資確定以來毎日兄ガ生キテ居タラト思ヒ出サヌ日ハナカッタガ、特ニ涙ノマ
ジル様ナ日モ度々アル

▲▼339ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月22日(月)

天気 雨後晴

太田角佐藤ヲ呼び今後ノ心ノ持チ方ニツキ話ス

千葉斎藤へ礼ニ行ク 不在 妻君ニ會フ 安岡ヲ見ニ行ク 盲腸ト腸カタルガ一所ニナッ
タノデ手術モセズニスムトノコトデアッタ。帰りニ猪又ヲ見舞 コレモ大変ヨク太ッテ居タ。
帰ルト静岡工業ノ先生タチガ二人來テ居タ爲メ出オクレニ時ヨリ中台ト成田山へ礼
詣リへ行ク 帰途中食兼夕食ヲ取り五時半頃帰宅ス
慎ヨリ明日工場へ行クトノ電話アリタル由

本記事八廿三日分

▲▼340ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月23日(火)

天気 晴

清平上京 本記事八廿四日分

北海道行三台手配急ガセル

晝小供達ノ火鉢ヲ船橋迄買ヒニ行ク 六個買フ 散髪ヲナス。竹ガ東京デ修業シテ帰
ッテ居ルノデ大分上手デアッタ 親父ヨリハルカニヨイ

東日ヨリ五時半迄ニ來テ呉レトノコトニ三時一度帰宅 市川ノ奈良原サンニ立寄ッタガ
上京シタトノコトニ東日へ五時五分ツク 弘中君ガ満州カラ來テ居ルトノコト 其ノ歡
迎会デアッタ。協会カラ小野、井上、局カラ石原サン、利根川、吉原、其他 八時半散
会 九時四十分帰宅 十一時床ニ入ル

仁三郎数日前カラムネエ豆ノ様ナモノガツカエテ居ル氣持チガスルト云ッテ居タガ昨夜
卅八度余リ 今朝七度余熱ガアッタノデ醫師ニヤル 肺門ガハレテ居ルカラ一週間、バカ
リ學校ヲ休マセテ様子ヲ見ルトノコトデアッタ

▲▼341ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月24日(水)

天気晴

本日記事八廿三分

慎山ノ内君來場 工場ヲ見セル 慎自宅ヘモ一寸行ク 鈴木館デ晝食ヲ出ス
富尾兄弟岡田、岩間福西來場 工場員ノ各部長ヲ呼び照(ママ)介ス 工場ヲ見テ帰ル
大口ノ様子ヲ聞カセルト一月ハ六ツ間敷カロウトノコトデアッタ

▲▼342ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月25日(木)

天気晴

清平昨夜帰ラズ今夜帰ル 昨夜ハ篠田ト今朝迄ノミ明シタトノコトデアッタ
午前正午粕谷君工場改造圖ヲ見ル 明日スグ山田サンヲ連レテ來テ貰フコトトス
イデニ宇賀君モ連レテ來テ貰フコトトス
午後手ガスイタノデ奈良原サント八柱靈園ヲ見ニ行ク 想像以上ニヨイ處デアッタ

▲▼343ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月26日(金)

天気晴

奈良原氏來場 弘中來ルノヲ待ツ ツヒニ來ラズ 午後二時半頃來 同時ニ粕屋君石
田組ノ菅原、ソレカラ宇賀君來 粕屋君菅原ニ仕事ヲ案内シ明日見積リ持参ノ由 宇
賀君山東君ニ引合セ來テ貰フコトトス 來月六日カラ來ルトノコト
朝三溝君ニ會フ 滞在中佐藤ノ處へ泊メルコトトス 奈良原氏五時ニ新宿迄用事アリ上
京 弘中三溝鈴木菊今村ヲ呼び鈴木館デ夕食ヲ共ニス 昔話ニ花ガ咲キ九時ギ(ママ)
迄ノム 後チ千葉ノシルコヤへ思ヒ出シタトテ行ク 自分ハ帰宅 今村二十円渡シテ居ク
清平試作機ノ件ニテ上京

▲▼344ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月27日(土)

天気晴

今朝福西へ行ク予定ヲ變更ス 秋田福西明朝行クコトニ電話ス 清平昨晚モ帰ラズ
正午前奈良原シ動脈硬化デタオレタトノ知ラセアリ、スグ行ク 若田醫師ニ行キ聞ク
ホシノ少シデスデニ回復シテ安静ニシテ居レバヨイトノコトデアッタ。宅ニ行ク 少シモ変
リナカッタ 左ノ手が動カナクナリ、シタガヤ、モツレタソウデアッタ。五十円置イテ帰
ル。三時頃平松橋本両氏來 同時ニ日野、佐藤両氏來 日野氏ノ方先キノヤ、広イ分

ヲ採用スルコトトス 清平モ共ニ鈴木館ニ行キ夕食ヲ共ニス 毒舌家日野ニ橋本氏ノ一人ガヨツタノデ面白カッタ 奈良原氏ガ居ラレナイハ残念デアッタ 八時東京迄自動車デ送ル

今日電話デ奈良原氏ノ知ラセガアツタ時自分ノ身近ナモノガ方ハシカラ、モギ取ラレテ行ク不安ナ運命ヲツク、ノ氣ニナツタ 清平ナドモ注意ヲ要スル

■谷ノ利子二百五十円大口追ト、ケル

▲▼345ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月28日(日)

天気晴

秋田直吉氏訪問 会社改組ノ件諒解ヲ得。一日ヨリ北支視察ニ出發スル由 福西ニ行ク 友人ヨリ進メラレタトテ此際五十万ノ株式会社ニシテハドウカトノコト 理由ハコノマ、デ大会社ニスル時ハ非常ニ不利ニナルトノコトデアッタ 大体理由アル様ニ思ワレタノデ一個トシテ讚(ママ)成シ尚研究スル様申合ス 岩間君モ來 今井氏ニ初メテ會フ之レハ今井氏ノ案トノコト 丸万デ食事ヲ共ニ帰ル。柳父ノ方自分ハ二十円ヤツテアト 出資ニ振り替エサセル様ト云フテ居ク 福西ハ株式会社ノ件デ何ントカゴマカス考ヘラシイ 一万円金融ノ件モソウラシイ

▲▼346ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月29日(月)

天気晴

終日在所 清平横須賀行
鳥飼氏來 又二十円ト云ツタガ十円ダケ上ゲル

▲▼347ページ▲▼ 昭和12(1937)年11月30日(火)

天気晴

突然蓮見氏検査ニ來 C五並ニプライマリー地上検査ヲ終ル
北海道行キ終ル
大坂ヨリ島安帰ル

清平昨夜モ帰ラズ正午頃帰ル 夜注意ス

夕方福西岩間両氏來 富尾氏ノ方モ承知シタトノコト 株式会社トシテ進メルニツキ 役員ノ顔触レ株ノ割當大体左記ノ通りトス 会社四十万円ニ見テ富尾十万円出資之レヲ當方二十八万円 内三万円福西其他へ割當 手取り二十五万円富尾廿二万円トスルコト。船橋イナリヤニテ夕食ヲ共ニス 八時半帰ル。和子ニ冬服ト昨年未セガマレタモノツイタオーバーヲ買ツテヤル 家内モ今日診断ノ結果安静ヲ要ストテ床ニツク

仁三郎ハ昨日退学届ケヲ出ス 今月初ノ注射ヲ行フ

◆▼348ページ◆▼ 12月

新組織ニヨル業務開始

◆▼349ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月1日(水)

天気晴

朝工場 午後上京ノ予定ニテ帰宅 晝食後余リ眠クツカレヲオボエタノデ床ニ入り電
話デコトワツテ居ク ヨク眠ツタ
本日棚卸シヲ初メル

◆▼350ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月2日(木)

天気晴

午前中風ナシ 正午過ギヨリ南風強クナル
晝頃川辺君來ツヅグイテ木暮君來場 川辺君ノアプロト残品買フトノコトデアッタ。其
中福西岩間來 重役ノ割當ト株数ニツキ打合セ 外ニ沢柳君ヲ重役技師長トスルコト
ノ諒解ヲ得 ソレニツキ富尾氏モ技師ノ問題ヲ希望シテ居タトノコト 丁度ヨカッタ 共
ニ上京 以上スベテ諒解ナル 共ニ田山辨護士訪問 株式会社創立三閱スル件ヲ依頼ス
提出書類等ヲ聞イテ帰ル 銀坐裏ニテ夕食 清平ヲ福西ト岩間デドコカニ連レテ行クコ
トニナル 先キニ帰ル 千足屋ニヨリ飾松ヲ一鉢買フ 丁度記念ニナルカモ知レナイ

◆▼351ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月3日(金)

天気晴

風強シ

清平朝帰ル 後チ大口ト安岡見舞ニ行ク 尚一週間入院ヲ要ストノコト 少シ氣ニナル
腹膜デモ起シタノデハナイカ 主治醫ニ聞イテ見ル必要ガアル
終日在所

今井仁來 式十円渡ス 佐々木泰介モ來

粕屋來 山田ノ方見積リ來ラズ 明日粕屋ノ方デ見積リヲナスコトナル。安田ヨリ
今日松岡氏ニ会ツテ貰ヒタイトノコトデアッタガ明日ニ延バス

◆▼3552ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月4日(土)

天気 晴

朝粕谷君來 見積一万式千余円トナル キリツメテ五千二百円ニケツル ソレヲ持ツテ上京 局ニ行ク 移轉後初メテデアッタ マダ荷物ガ積ミ上ゲテアッタ。南波サン其他高等官連ハ午後カラ明日ヘカケテ日光ヘ行ツタトノコト 蓮見氏ニ諒解ヲ求メ大森ビルニ行ク。スグ田山サンニ行ク 財産ハ一度奈良原氏ノ名儀(ママ)ニスルノガ便利カモ知レヌトノコトデアッタト財産目録ヲ十万円ヲヤスコトヲ月曜日迄ニ持ツテ行クコトトス 江戸川ノ許可書、事ム所ニ帰り安田ニ電話シテ共ニ松岡ニ行ク 大和航空事ム所ハ田辺サンノトナリデアッタ。石川安田長田ト会见 結局富尾氏モ共ニヤツテ貰フコトニシテ相談シテ呉レトノコトニ事ム所ニ引返シ相談ノ上コトワルコトニ一決 明日安田ノ諒解ヲ得テ手紙デア出スコトニキメル

佐藤喜三郎氏ニ會フ 篠塚四十万円デア空中作業ト一所ニナリ先月十六日登記シタトノコト サスガ篠塚ダケデア早イヤッタ 東日ニ行クト清水カラ昨日篠塚ニ御馳走ニナツタトノコトデ中々手廻シガヨイ

松下君ト夕食ヲ共ニス 美津濃止メヨカドウシヨウカト考慮中トノコトデアッタ

◆▼3553ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月5日(日)

天気 晴

第二回ノラジオ体操追寝ル 昨夜オソクナツタ爲メ終夜ヨク眠レナカッタ

八柱ノ石家來 午後行クツモリニシテ居ク

清平ト種々相談 尚ヨクヨクシツカリセネバナラスコトヲ云ツテ居ク

清平ニ書カカ(ママ)セ安田ヘ電話デ話シ松岡宛コトワリ状ヲ出ス 福西ニモ其由返事シテ居ク

川辺木暮來場 川辺ノ品物全部引渡ス 千五百円デア賣ツタ由 佐々木ノ殘金三十五円 外ニ格納庫料其他トシテ三十円ヨコス 二人ヲ連レテ鈴木館ヘ夕食ヲ喰ヒニ行ク

木暮ヨリ學校問題ナド聞ク 八時頃終リ早ク床ニ入ル

大口昨日カラ上ゲル様ニナツタ由 困ツタコトニナツタ

◆▼3554ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月6日(月)

天気 晴

工場部長ヲ集メ今週ノ予定長屋ノ障子張り其他保温ニツキ打合せ。上京会社用書類原稿ヲ作りアトカラ清平ニ持ツテ來ル様ニ命ジ上京 局ニ南波サンニ會フ 北海道ノ堪航証ウマクヤルツモリノ處、他二人ガ居合セタノデドウモ工合悪ルカッタ 明日。パラシユ

トノ打合セデ羽田ニ行クコトニナリ其時ヲ期シテスグ帰ル 上野ノ福西ニ行キ三万円ノ支拂ヒヲ説明シ今月ノ予定ヲ出シ予算アルヤ否ヤヲ聞イテ貰フコトス スグ帰ル途中奈良原サンニヨリ二十円居ク。大貫氏ニ見テ貰ツタラ動脈硬化ノ反対デ貧血デアツタ由 マツ安心。C五試飛行 風強ク汐少ナキ爲メ一寸デ終ル 明日C二C五ヲヤルコトトス。

安岡不安ニナッタノデ山東見ニヤル 大丈夫間モナク退院出來ルトノコトデアッタ。大口ハドウシテモ正月迄ハダメノ由

森谷千五百円支拂フ 手数料一回分請求サレタガ半分ダケニシタ由

◆◆3556ページ◆◆ 昭和12(1937)年12月7日(火)

天気晴

自動車ニテ夏見ヲ連れ上京 先ヅ局ニ行ク 南波氏協会ノ自動車ガ迎ヘニ來ルカラ協会デ待ツトノコトニゴム紐ヲ取りニ行キ二本受取り協会ニ行キ南波氏ヲ同乗サセ自宅へ荷物ヲ送ルトノコトニ一寸立寄り羽田ニ行 途中工場ノ件作業会社ノ件 技師ノ件、美津濃ノ件話ス 好意アル意見ヲ聞ク 羽田東日へゴム式本整理シテ渡ス C二C五検査ノ件頼ンダガ大坂帰ツテカラニシテハドウカトノコトデウヤムヤデ分レル 空輸ニヨリ割引ノ件依頼ス 明日返事スルトノコト。事ム所ニヨル 大森ビル六階ノ正面ニ決定 冬引越シタトノコト 給料自分三百円 奈良原氏百五十円 富尾留雄氏百円 其他重役百五十円 清平百円 岩間八十円トキメデアッタ 讚(ママ)成シテ居ク 明日工場へ來ル由。自分提出ノ予算ハ全部金ノ用意アル由

六時半鈴木館ニ行ク 佐々木瀬川両君満空入社送別会 九時頃先キニ帰ル

◆◆3556ページ◆◆ 昭和12(1937)年12月8日(水)

天気晴

佐藤、角、太田、布施各個ニ呼ンデ昇給ト將來ノコトヲ話ス 山東君同様

午後福西岩間來 田山辨ゴ士ノ手ニヨリ十万円ノ見セ金ガ出來尚其内五万円ハ使ツテモヨイコトニナッタトノコト 福西ノ努力ノ由 右ニ対シ田山氏ニ三百株ヲ贈ルコト内百五十ヲ富尾ヨリ 百五十ヲ自分ヨリ 但シ自分ノ百五十八増資ノ場合返ストノコトデアッタ。柳父氏ノ方ハ五千九百円トシテ内弍千円現金(今日渡ス) アト株券トノコトニテ決済ナル。山田、塚本、粕谷來 工場修理見積リ七千六百円迄マケル由 明日決定スルコトトス

鳩巢房へ電話スル 高山君丁度居ル 午後來テ貰フ 八柱ニテ四米六米ヲ買入レルコト 其他一切ヲマカセル 千二百円程ニテ全部出來ルトノコトデアッタ 自宅ニテ夕食ヲ共ニス

台南ヨリ今日金振込シテ由入電アリ

◆▼357ページ◆昭和12(1937)年12月9日(木)

天気 晴

工場へ出ルト安田氏來 粕谷君ト松岡ト会ツテ貫ヒタイトノコト。福西富尾ト一所ニ会フ爲メ上京後返事スルコトヲ約ス 大口ヲ見舞ヒ安岡ヲ見舞フ
上野ヲ呼び上給式円五十錢ヲ申渡シ永野一円六十錢ニ値下ヲ依頼ス 今村八十円ヲ申渡シ無尾機ヲ速(ママ)進サセル。正午上京 粕谷同道事ム所ニ福西ト相談 山田ノ方余リ高イノト粕谷五千二百五十円デヤルトノコトニコソクリト大格ノ直シヲ入レ一切ヲ六千五百デヤラセルコトニキメル 後子株式会社許可後ニシテ呉レトノ希望アリ同意セシモ尚明日山東ヨリ速(ママ)進方話シサセルコトトス
田山辨ゴ士ニ行キ大蔵省提出ノ書類受取り一同捺印
帰途奈良原氏ニ立寄り判ヲ貰フ
帰宅 佐藤太田角山東ト会见 不在中ノ打合セヲナス 清平佐渡島諒解ヲ得ル爲メ今夜大坂へ行ク

◆▼358ページ◆昭和12(1937)年12月10日(金)

天気 晴

時事 南京陥落

六時起床 工場員中古連中ヲ集メ新会社ニツキ諒解サセテ八時十分自動車ニテ出発 輸送会社営業所ニテ山東君ニ會ヒ土産物受取ル 運賃ガ高クナルノデーツ止メル 羽田十分丁度發 晴天ニ恵マレ富士ガスツカリ見エ一點ノ雲モナカッタ 廿オノ時青雲ノ志ヲイダイテ上京ノ時沼津駅デアツタ富士ト共ニ永ク忘れナイ處デアル 名古屋辺リカラ雲アリ 大坂ニテハ濃霧ノ爲メスヘリト焚火ガ用意シテアツタ 小豆島迄ハ視界五六キシカナカッタガ次第ニ晴レ高度式三百米デキレイナ瀬戸内ノ飛行デアツタ 行橋カラ福岡ニ出ル間デ雨ガ降り出シタガ山ノ峯ガ見エテ居タノデ安心デアツタ 水野旅館ニ入ル 手紙ヲ書キ活動写真ヲ見ニ出ル 丁度南京陥落ノ報アリ 此前二十三年前福岡デ泊ツタ時ハ丁度現 陛下ノ立太子式ノ日デアツタ 十一時帰宿 床ニ入ル

◆▼359ページ◆昭和12(1937)年12月11日(土)

天気 晴

風ヤ、アツタガ地上十米以内 飛行場ニテ石田場長ニ挨拶ス 朝宿ヲ出ル時玄關デ有

馬少佐三會フ 上海へ行クトノコト 十四日二六連へ來ル由 再會ヲ約シテ分レル 十時十五分出發 一三三米突デ朝鮮ノ山々ヲ眼下ニ京城ニツク 慎、萩原、吳ニ會フ。京城手前デ少シ、ユラレ、ハク。京城到 雞卜着ハ十二時四十五分 出發モオクレ一時三十分五分デアッタ コンドハ氣持チヨカッタ 機上操縦士ハ豊島君、機関士ハ遇(ママ)然葉泉君デアッタ 風二十二米位アルトノコト 国境ヲ越エル時三時半 有名ナ橋ノ附近ハスデニ氷ガ張ツテ居タ。四時半着 瀋陽館ニ入ル。道永君ニ電話スル 久シ振リデ元氣ナ声ヲ聞ク 今カラ南京陥落ノ祝賀会ニ行ク由 宿へ來ル様云フ 沢柳君ハ明日会フベク手紙ニテ都合ヲ聞キニヤル

◆◆360ページ◆◆ 昭和12(1937)年12月12日(日)

天気 晴

夜ノアケルノガ遅ク七時デマダウス暗イ 九時過ぎ起床 地圖ヲ求メ行キ先キソレ、記入ス 散髪ヲナシ、福西(明日)ノ日銀行キ依頼電報ヲ打ツ。沢柳君日曜デモ休メナイノデ夜會フコトトシテ、先ヅ児玉サンニ行ク 今朝東京へ行ツタトノコト 奥サンニ挨拶ス。沢柳氏宅訪問 イクラベルヲ押シテモ答エガナイノデ谷田サンニヨル 之レモ東京へ出張中トノコト二道永君へ行ク 沢柳君ノヨウカンヲ道永ニ廻ス。同和自動車増資ノ爲メ谷田サン帰京シテ居ルトノコト。満獨飛行会社ノ件 日産ト満空ノ件等聞ク 道永モ谷田氏止メタラ内地へ帰ルトノコト。明日ヲ約シテ帰宿 小供達へ繪葉書ヲ書ク 夜六時沢柳君來 六時半玉翠ニ行ク 食事シナガラ懇談 中々ツツコンデ聞カレタ 予想通り現状ニ不満ヲ持ツテ居タ 返事ヲ正月一度帰京スル迄待ツテホシイトノコトデアッタガソナナヌルイコトデハダメナノデ明日又會フコトトシテ十一時半帰ル

◆◆361ページ◆◆ 昭和12(1937)年12月13日(月)

天気 曇リ小雪

朝ソアラ一ノ検査ノ爲検査官宛打電ス 十時頃ヨリ出テ沢柳氏宅ニ行ク 妻君ニ足袋モワタス。世帯ジミタ風ヲシテ居タ 菓物ノ土産物ヲ出ス 小供ハ大變沢柳君ニ似テ居タ 妻君モヨクタノム 中川氏訪問。武宮、河井田、徳留氏ト會フ 二時過ぎ自動車デ送ラレ工廠ニ行キ柴入氏ニ會フ 同氏ノ案内ニテ秋田工場ヲ見学ス 得ル處アリ 沢柳氏ニ會ヒ今夜ヲ約シテ五時乗合ニテ帰宿ス 六時沢柳君來 宿ニテ話シ合フ 同氏モ最(ママ)非ヤリタイ氣持チデ居ルトノコト タゞ万々一ドシナコトデ出來ナクナル場合無イトモ限ラナイガトノコトデアッタガ、ソレハ問題デナイ 尚練習機ノ打合セヲナシ、昨日ノ玉翠へ行キ十一時半迄ノンデ分レル。中川氏ニモ沢柳止メルコト打明ケタノンデ居ク 引受ケテ呉レタ 道永ニ會セテ居コウト思ツタガツヒニ來ナカッタ

◆▼362ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月14日(火)

天気晴

八時半起床 日本晴レノ好晴 ナント運ノヨイコトカ。勘定ヲスマセ中川、柴入両氏ニ菓物ヲ贈物シテ同和デ道永ニ会ヒ沢柳君ノ事ヲ頼ミ、市公署ノ飛行協会ニ西尾三郎氏訪問ス 中々雄辨家ダ。グライダーハ石橋航空官ニ話スノガ一番ヨイトノコトデアッタ カタログヲ居イテ営業所ニ行ク 道永君ガ酒ト名刺ヲ置イテアッタ 飛行場ニ行クト丁度天王寺谷ガ居タ。場所ノ田中氏ニ會フ 寺谷一所ニ大連ヘ行クト云ヒ出テタガ坐席ガナク明日來ルトノコト 十二時五十分出發 鞍山ト金州ガヨクワカッタ 金州ハナツカシク感ジタ 二時三十五分周水子着。清平ヨリ検査スンダ、福西ヨリセイセイキョシトノ入電アリ 永田君自宅ヘ帰り橋本モ飛行場ニ居ラズ 永田君ノハカライデ遼東ホテルニ入ル 夜永田、弘中來 幸樂ニテ夕食ノ馳走ニナリ快談後弘中ノ知り合ヒデ写真機ヲ買フ 大坂ノ宅ノ近所ノモノデアッタ 十時半帰宿

◆▼363ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月15日(水)

天気晴

十一時永田君迎エニ來テ呉レ通信局ニ行ク 石橋氏朝日ノ久君ト飛行場ヘ行ツタトノコト 係長ノ天野氏ト弘中君ノ案内デロシヤ料理ニ行ク 天野氏ニ發動機ノ件話ス 一度宿ニ帰り橋本君ニ行ク 家ノ中ハ荷物デゴタ返シテ居タ。要領ヲ四千円ト見ナシ内二千円現金二千円株券デ話ス スグ承諾ス 夜宿ヘ來テ貰フコトトシテ帰宿 三時過ギ弘中ヨリ航空官帰ツテ來タトノ電話アリ。スグ行ク。發動機ノ件。ヒント交換シテ大体話シ諒解ナリ其方法ニツキ弘中ト相談ノ上キメテ貰フコトトス アトハタノミ明日ノ飛行機デ出發スルコトトス。天王寺谷來 永田、尾又且代ガ遇(ママ)然來タトテ連レテ來タ。弘中ニ依頼シ石橋サン初メ全部デ夕食ヲ喰ヒニ行キ百円ツカウ 帰ツテ下ノデパートデ御茶ヲノム内萩野了君ニ會フ 実ハ帰ルト橋本君待ツテ居タノデ早速式千円渡シ書類ヲ貰ツテ全部用件終ル

◆▼364ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月16日(木)

天気晴

五時半起床 七時半周水子出發 エンボイ機割リニ乗心地ヨカッタ マダ暗ク大連市ハキラ、火ガ電燈ガカマイテ居タ。割ニ温カク東京ト変リナカッタ 空ニ雲低カッタガ朝鮮ニ入ツテカスク晴レタ 新義州デ浜名氏ニ道永カラ貰ツタ洋酒ヲ贈ル マダ場ニ來テ居ラナカッタガ代理ノ人ガ電話ヲカケテ呉レタノデ声ダケ聞ケタ 九時新義州着

同廿五廿分發 十時二十分平壤着 同四十分平壤發 十一時四十分京城着 萩原ガ宿込案内シテ呉晝食後通信局へ挨拶ニ行ク 山ノ内氏ガ他へ轉任ニナツタノコト 残念デアッタ。町ヲ散歩ス 夜慎ノ招待デ六時過ギヨリ明月ニ行ク 所員数名ト共ニ昔ノ飛行機ノ話シヲ聞カレ愉快ナ一タヲ過ス。福西ヨリ明日帰レトノ電報アリシモ飛行機満員ニテダメ 汽車旅行、ト決シ返電ス

▲▼365ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月17日(金)

天気 晴

八時起床 空輸会社電話スル 飛行機迫行ケバ何ントカナルカモ知レヌトノコト二十時營業所ニ行ク。飛行場着後神津支所長ニ面會 今日ハ幸ヒ新京奉天間大連京城間欠航トノコトニ東京迫急行ノ坐席ガ取レ十二時十分前京城出發 慎其他見送ツテ呉レル 二時五分前福岡着 スグATヨリダクラスニ乗替エ二時五分出發 五時十五分東京着 其間天気ヨロシク少シモユレズヨイ空中旅行デ富士モ又一點ノ雲ナク手ニ取ル如ク見エタ 姫路高度二千米突以上デアッタ 横浜東京ノ燈火ハ又格別デアッタ 清平飛行場ニアリ新三浦ニ行ク 福西、大塚中将岡田富尾兄岩間アリ 明日ノ打合ヲナス 夕食ヲ共ニ帰宅 十時。
十一時追話シ合ヒ床ニ入ル。ヨク眠レナカッタ

▲▼366ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月18日(土)

天気 晴

六時十五分起床 工場二寸出テ九時十五分前田山氏事務所ニツク 田山、福西、岩間、岡田集合後、岩間同道日本銀行ニ行ク 自分ニ会ヒタイ理由ハ前田心配シテ居タエタ。パイガヤハリ願書提出シテ居リスデニ内許可シタトノコト 處ガ責務關係ノ理由トカニテ取下ゲタトノコトデアッタ 其爲メ此度ハ出來レバ合資会社ノ承認書ヲ付ケテ呉レトノコトデアッタノデ尚ツヒデニ田山氏話シノ裁判所ノ監(ママ)定人ノ財産鑑定書ヲ添付スルコトトス 事務所ニ帰り打合セ後今夜大坂へ承認書ヲ貰ヒニ行クコトトシ帰途佐藤ニヨル 佐藤株式ノ話シハ知ラナイ 不賛成ヲトナエ出シ困ツタガ説得シテ、奈良原サンニ立寄り帰場。夜部長級全部ヲ宅ニ呼ビ土産代リニノマセル。丁度九時東京駅着 岩間氏ヨリ書類受取り九時四十分ニテ出發ス

▲▼367ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月19日(日)

天気 曇リ後晴

九時大坂着帰宅。佐渡島電話ス 午後芦屋ニ行クコトニス 竹島夜会フコトトシ佐野七

時ニ來ル様打電ス 中山氏大坂へ行ツタトノコトデアッタ 十一時頃西店ニ行ク 中山氏十時ノ汽車デ鹿兒島へ行ツタトノコト 時刻ヲハカリ一時頃芦屋ニ行ク 五時迄話シ株式会社ハ大賛成デアッタガ判ハ明日ニナル 困ツタ人ダ 成立後ノ株ノ割當ナドモキメル。マダ一人デヤリタイ希望ヲ持ツテ居ル様子デアッタ。夜竹島ニ会フ 之レハ問題ナクヨイ様ニトノコトデアッタ。佐野來 之レモスグ判終ル。兄ノ判モスマセル。中山氏ノハ佐渡島ガ万事引受ケルトノコトデアッタ

◆▼368ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月20日(月)

天気晴

九時起床 十時半竹島ニ行キ十一時同道シテ佐渡島ニ行ク スベテハ順潮ニ調印ヲ終ル 監査役ニツイテハ平取縮ノ方ガヨイトノコトデアッタ。之レダケ調印アトニシ、中山氏ヘ電話カケテ居イテ貰フツテ(ママ)一度帰宅 兄ト奈良ニ行ク 承決議書ダケオシテ貰ヒアトハ判ガ分ラナイノデ後チニ兄ガ來テ押シテ貰フコトヲ依頼シ猿沢ノ池ヲ見テ帰宅 新世界ニテ夕食後松江ヲ連レ九時半ノ一二等急行ニテ出發ス 今日ハ少シツカレタ様デアッタ 明日鳥飼會エル様打電ス 台南金來タ由

◆▼369ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月21日(火)

天気晴

八時東京駅着 朝食後事ム所ニ行キ松江ヲ預ケ秋田氏ニ行キ判ヲ貰ヒ佐藤ニ行ク マダ來ラズ 再度行キテ判ヲ取り委任状モ貰フ 但シ佐渡島ヨリ電話アリ 佐渡島ヲ取縮リ 佐藤ヲ監査役ニトノ希望ヲ聞ク 尚株ノ割當ニツキ先方ヘヤルノガ多イトノコトデアツタガ、甚タウルサク感シタ
正午田山氏ニ行キ書類ヲソロヘテ岩間氏ト日銀ニ行キ提出 心アリ受けケテ呉レ尚年內許可ノ件ヲ依頼シテ帰ル
鳥飼氏高山氏事ム所へ來タガ明日ニシテ貰フ

◆▼370ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月22日(水)

天気晴

九時迄眠ル 鳥飼氏來 九百円渡ス
高山君來 お骨ヲ新規ノ寺ヘ預ケルコトノ打合せヲナス 右寺ニ昨日清平高山君ト同道ス 浅草本願寺内ノ善照寺ト云フ寺デアツタ
次ギカラ、ト急(ママ)ガシク大口ヘ行ケナクナリ上京 事務所ニ立寄り、福西ノ知人植村子爵ニ会ツテ呉レトテ大坂ビルニ同道 自分ダケ分レテ野武士会ニ出席ス 阪東

君ヨリ爲替管理ノ爲メ外国ヨリ輸入機械ノ引取りニ困ツタ話シ、プロペラノ話 有益デアツタ 四王天中將ノ上海戦ノ話モ面白カッタ。九時散会 スグ帰ル
横須賀ベントツ拂下アリ佐藤出張ス

▲▼371ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月23日(木)

天気 晴

八時起床 スグ大口ニ行ク 大分ヤセテ居タ 死ンダラ豊作ヲ引取りタノムトノコトデアツタ 安心スル様云ツテ帰ル。粕屋氏昨日ツヤ子ノ處ヲ一日サガシテ呉レタガ結局九月十六日迄居タ處ハ分ツタガ、ツマリ暇ヲ取ルカラ、ドウナツタカサツパリ分ラヌ由山形ノ柴田氏、山口ノ葉方氏、協会ノ高草木氏來 イツレモ見積リスルノデザインガシカッタ 富尾章氏出勤 明後日賣與ヲ與エタイトノコトデ給與ヲ調査表ヲ作ル 葉方安岡ト夕食ヲ共ニス
慎ニ契約書送ル 沢柳氏ニ帰京初メテノ手紙出ス

▲▼372ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月24日(金)

天気 雨

七時半起床 八時半工場出 北海道大庭氏へ手紙書キ安岡ヲ呼び大口ノアト工場長ノ椅子ニツクコトヲ交渉 進ンデヤル由 大口ヨリハルカニヨイト思フ。十時自動車來 鷺沼ノ寺ニ預ケタ児供達ノお骨ヲ今度家ノ寺ノ定メタ東京ノ善照寺へ運ブ 家内ト徳次同道 十一時着 高山君先着 住寺(ママ)ト役僧ニ挨拶後回向アリ 新ラシク三人ノ戒名ヲ貰ヒ帰ル 途中晝食ヲナス
自分一人事務所ニヨル 日銀尚書類ガ入ルトノコトニ田山サンニ行キ書類ヲ受取り岩間氏ト行キ書類ノナイ處ヘ口頭ニテ説明ス。後田山氏ヨリ自分一人ニ役員減員ノ話シアリ 賛成ス。事ム所ニテ明日ノ総会ノ打合せ及廿八日会社方針確定ノ打合せヲナシ散会ス
帰途奈良原サンニヨリ明日出席ヲ聞イテ帰ル

▲▼373ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月25日(土)

天気 晴

今日ノ総会ノ予定通り終了
佐渡島ノ判ト出來レバ取締役ヲ清平ト交ツテ貰フコトヲ頼ム爲メ下坂スルコトニス夕方上野清凌亭ニテ創立祝賀会ヲ開ク 終ツテ九時四十分ノ汽車ニテ下坂ス

▲▼374ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月26日(日)

九時大坂着 兄ノ宅ニヨリ竹島ニ行ク マダ寝テ居タノデ兄ニタノミ苜屋ノ佐渡島ニ行ク。ドウシテモ監査役ニナラナイノデ取締役ノ承認書ヲ貰フ 其他印鑑並ニ株式申込書夕方大坂デクレルトノコトデアッタ。呉ノ技師長ニ引合セラレ晝食ノ馳走ニナル 大分参考ニナル話シテ聞ク

帰宅後竹島ノ解散同意書ノ判ヲ貰ヒ尚土地名儀(ママ)変更ノ書類モ貰フ 中山氏丁度鹿兒島ヨリ帰坂 夕方會見 種々話ス 西店ニテ判ト書類ヲ受取り、中山氏ト新明屋ノふぐ料理ニ行キ九時五十分発ニテ出發ス

▲▼375ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月27日(月)

天気晴

八時十五分東京着 同四十分岩間氏來 マダ時間ガ早イノデ食事ヲナシ九時半ヨリ日銀ニ行ク 書類ヲ提出シテ事ム所ニ行ク

奈良原氏モ來 本日役員全部ノ給料及年末手當五割ヲソエテ出ス 初メテ月給ヲ受取ツタ 計四百五十円也 悪クナイモノダ 佐藤氏ノ判モ貰フ

▲▼376ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月28日(火)

天気晴

台南ノ金銀行ヨリ引出シ旧工場ノ支拂ヒラナス 不足シテ困難ヲ感ズ。上京 午後二時岩間氏ト日銀へ様子ヲ聞キニ行ク コレカラ會議ニカ、ルノデ五時頃分ルトノコト五時丁度電話シタラ認下(ママ)サレ明日許可書ヲ渡スカラ午後取りニ來ル様トノコトデアッタ 万歳

岡田二百円支拂フ。富島組モ支拂ヒ終ル

新会社材料代明日支拂フコトニ取キメソレ、電話シテ居ク

▲▼377ページ▲▼ 昭和12(1937)年12月29日(水)

天気晴

九時工場出 新旧支拂ヒヲ山東君ニ命ジ十一時半奈良原氏ト上京ス

佐野利一來

部長級皆來タガ今日ハ東京カラ來ナイノデ四日ノコトヲ話ス

本日ヨリ宿直ヲキメテヤラセルコトトス

一時事務所着。富尾留 岩間氏ト日銀へ許可書貰ヒニ行ク 二時帰ル 三時頃ヨリ田山氏ニ行キ後一同打ソロッテ明治神宮、宮城、九段ト参拝シ東京会館ヨリ夕食シテ帰ル
清平中尾氏ノ葬儀ニ参列サセル
平野君三三十円渡ス 山崎、木村氏分百円ツ、ヤルコトニシ事ム所ヨリ受取ル
日野氏來 歳暮百円渡シ立替ル
姫路製紐三百円支拂ヒ持参ス

◆▼378ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月30日(木)

天気晴

今日ハ多摩川畔ノグライダー飛行場ヲ新設スル爲メ見ニ行ク予定デ九時半出カケルト道デ奈良原先生大牧ニ會フ 明日ニ延期ニナツタトノコト 宅ニ帰リ北海道ノ話シヲ聞キ十時半出テ上京 第一銀行ヨリ立命館ノ金百五十円受取り東日へ歳暮ヲ持参 松下君ニ會フ。設計書目下志鶴君ニ問ヒ合セ中トノコトデアッタ 福知氏ニモ會フ 郡君カラ小松サンノコトナド聞ク スグ帰宅 工場立寄り三時頃帰宅 夜迄カ、ツテ年賀状ヲ書ク 航空局ダケ残ス
夕食中亜細亜ヨリ金持ツテ來タ

◆▼379ページ◆▼ 昭和12(1937)年12月31日(金)

天気晴

今日ハ何十年振りカノノシキナ大晦日 有難イ事デアルト同時ニ明年度ノ重責ヲ思フ 午前年賀状ヲ書キ終リ午後鳥小屋ト犬小屋ヲ梅川君手傳ワセ作り強クシタリス 午後佐野ノ手形落ス爲メ小切手書クノニ一寸工場ニ行ク
安岡來 去ル忘年会ニ矢野ガ吉田ト共ニ計畫的ニ角ヲオソツタコト 其爲メ忘年会ヲメチヤ、ニシタコトニツキ新年早々工合ガ悪イカラ今日中ニヨク話ス様云ヒツケル
大口今夜六ツ間敷カモシレヌトノコトニ夕食後行ク 数日前ト丸デ変ツテヤセオトロエテ居タ モウ意識モハツキリシテ居ルカドウカト思ワレタ。マダ大丈夫トノコトニ終自動車デ帰ル

◆▼380ページ◆▼ 補遺

(97)および100ページから続く)

四月一日

ガ多少不安残ル 尚岩間氏へ連絡ヲ先キニスル様大口ニ話シテヤッタガ今日ハマダ話シテ
ナイラシイ。明日最(ママ)非諒解サセテ貰フ様安田氏ニタノム 但シ今日ノ契約ハ少シ
高イ様ニ思ツタガ、コノマ、柳父氏ノ方ヲ待ツテ居レバ今日中バ或ハ今月中タツテモ出来
ナイカモ知レヌ。ソシナ場合益々高クナツテ或ハ今日ノ契約ガ反ツテ安イカモ知レヌ場
合モ考ヘラレタ

京都第二工等ノ五名昨夜出發セリトノコト 今日午後到着ス 一名田中靖ノ兄付添
ヒニテ來ル。

四月四日

山王ホテルニ坂東氏訪ネル 不在 信田君ト話ス内間モナク帰り幸樂(行ク 妻君ト初
メテ會フ。坂東氏ハ他ニ出資者ヲ得テ陸軍民間ノ仕事ヲ初メルコトニナル由デ自分ノ方
ノ様子ヲ聞キタイトノコトデアッタノデ、アマリカンバン

◆◆381ページ◆◆補遺

(100および168ページから続く)

クナイコトダケ話シ有効ニ利用シテ貰ヒタイト申込ンデ居ク

プロ。ヘラ製作ニツイテハ、フランスノ特許ヲ買ツテ居ル由。ペラノ製作ハ目ヲツケテ居ルラ
シイ 九時頃迄話シ帰ル 十二時ニナル

六月九日

五時財部氏訪問 大口モ十分程前ニ來タトノコト 電話デ少シオソクナルトノコトデア
ツタ 八時過ぎ帰ル 話シハ間(ママ)単デアツタ 弍百万円ノ予算書ガアッタノデ見セテ
自分ノ目下ノ考ヘヲ話シテ居ク 現物ヲ十五万円ニテ現金アト逋信省指定工場營業
権ヲ十万円 之レハ株券ノコト 十五万円ノ内五万円ハ契約ト同時ニ貰フコト 自分大
口ヲ取締役 外ニ旧出資者關係ヨリ一二名役員ヲ入レルコト 十二日位契約出來ルト
思フカラ來テ呉レトノコトデアツタ 辭シテ出テカラ十五万円ト十万円二十五万円ト
云フコトヲハッキリ云ワナカッタ點ニ心ツキバスニ乗ツテカラ更ニ其點ヲ大口ニ間違ヒナキ
様云ヒニヤル

◆◆382ページ◆◆補遺

(168および211ページから続く)

財部へ行ク前春沢氏ニ會フ 一二出資者聞イテ呉レタラシイカ中々之レハ六ツ間敷シソ

ウデアッタ。坂東ノ方へ渋谷某ノ土木負債人ヲ紹介シテ呉レトタノマレル

七月廿一日

安田氏宅ニ行ク スグ福西山田氏來 色々話ス内ドウモヤリ方ガインチキダカラ喰ワレル恐レアリ 山田氏ハ自分ノ金モ欲シイガ伊藤氏ノ爲メニ延バシテモヨイカラ確実ナ相手ヲ撰ンダ方ガヨイトノコトニ佐藤氏ニ電話スル 七時半丁度 マダ、店ニ居タノデ來テ貰ヒ十二時頃迄協議 結局篠塚ハコトワルコト。坂本ハ賣込ミ五万円デモ先キニ取ルコト 或ハ又柳田氏ノ方明朝聞キニ行クコトト手ハツキメル
コレヨリ先キ安田氏ヨリ秘書へ(安田氏宅ヨリ近ク)石田組ハマテナイカラ、伊藤氏モ金策ニ帰ツタ コノ話シハオコトワリスルト云ヒニ行

◆◆3883ページ◆◆ 補遺

(211ページから続く)

ツタ 嵩來客トテ會ワズ。後電話アリ 永イ話シデアッタガ結局話シヲ續ケル爲メノ努力デアッタラシイ

佐藤氏モ篠塚ヲコトワルコトニ承認セシモ明後日一應会ツテ見ルカラ其上ニシテハトノコトデアッタガ、福西氏ノ意見デハ明日早々ニコトワツテ居カナイト、色々今後ノ仕事ノ上ニジヤマセラル、恐レ多分ニアルトノコトデアッタ 十二時二十五分安田宅ヲ辭シタクシテ帰ル 三円三十五分デ宅ニツイタ

今日ハ割合ツカレモセズ眠クモナカッタ 又キンチヨウト心配ノ日ガツ、クコトニナル

Cニ修理ノ件ニテ清水君來

406～408 ページ

収入録

月日	摘要	金額
2-22	佐藤商店	20.00
	ボール、電気修理	13.65
旅費	ノートブック	.35
	本	1.10
	回数券 吉パス	1.00
	々 京成	.50
37.32	旅費	.72
	徳次	25.00
	肥田木返シ	5.00
	柁樹十本	17.55
	手形佐野	127.00
	ボールト	25.98
	賄	13.00
	アセトン	.40
	電報	.30
	石炭	1.50
257.52	安岡兄	5.00
	クツ	730
	旅費立川行	566
	領収書ノ振替三百枚	.27
272.45	和子	1.70
	麻糸	.30
	賄ウドン魚	.70
407 ページ		
273.60	ハガキ	.15
24	河村	20.00
	中台	50.00
	佐藤中台	20.00
	太田中台	30.00
	平松電報	.45
	今村	5.00
	クラブ工人社広告	20.00

25	㊤自動車屋残 18.余	10.00
	内海商店	8.60
	片岡、青木、斎藤、小柴、近藤、安岡	6.00
	信太郎本	3.60
	サンソ付	.30
	ノコノハ	.30
	半田	.75
	返金	10.20
	金太郎渡	2.00
	コーモリ	2.00
	銅線 100 印	.61
	ユーリス	.90
	賄	2.50
469.11	醫者	2.30
474.11	奈良原クラブ江戸川行	5.00
474.11		
484.11		
408 ページ		
残 280.59	賄 軍渡	10.00
	切手トハガキ	.45
26	岡田支拂	42.05
25	矢野渡	3.00
533.21	所長薬	3.60
543.21	々 内渡 カマドト仁三郎	10.00
27		

422～423 ページ

支出録

月日	摘要	金額
	大工	500-
	大口	08.00
	エミ子	6.5-
	繪本	.65
	材料	24.94
	旅費会食共	6.80
	支拂布施	152-
	利子	48-
423 ページ		
2/22	岩間氏	100.00
	安田	50.00
	会合費	1.20
	清平	30.00
	大口	30.00
	岸島	20.00
766.50	会食	2.30
765-	旅費上京	1.50
26	青写真代	4.00
2/26	旅費上京二名分	3.78
27	雅叙園支拂	91.98
	旅費同帰り三人	1.80
28	伊藤清平	20.00
	旅費二人上京	3.49